

第4次 丸亀市生涯学習推進計画

多様な学びでつながる ひと・まち・未来

令和4年度～7年度



丸 亀 市

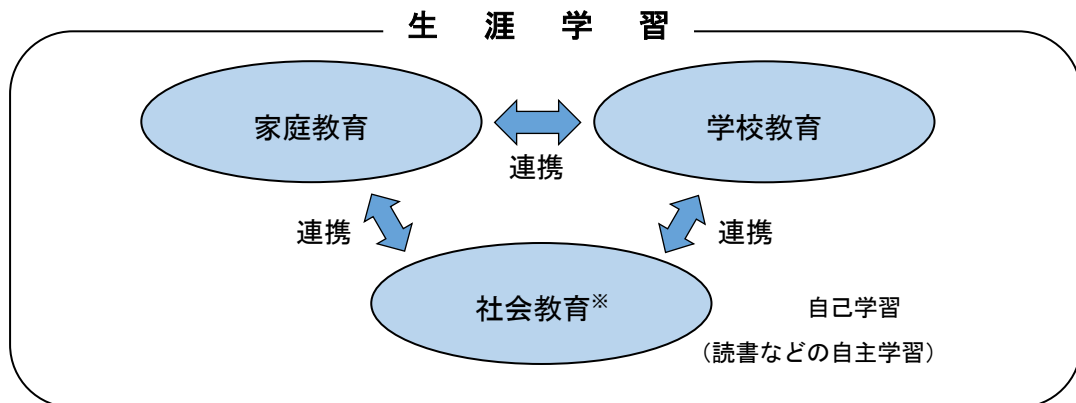
《 目 次 》

| | |
|--|----|
| はじめに | 1 |
| 第1章 計画策定にあたって | |
| 1 計画策定の趣旨 | 2 |
| 2 計画の性格 | 2 |
| 3 計画の期間 | 2 |
| 4 計画の構成と位置付け | 3 |
| 5 生涯学習推進計画とSDGsの関係 | 4 |
| 第2章 計画策定の背景及び現状と課題 | |
| 1 生涯学習を取り巻く主な社会的背景 | 5 |
| 2 生涯学習に関する国及び県の動向 | 6 |
| 3 丸亀市の生涯学習の現状と課題 | 7 |
| 4 課題を踏まえた生涯学習推進の視点 | 10 |
| 第3章 計画の基本的な考え方 | |
| 1 基本理念 | 11 |
| 2 基本目標 | 11 |
| 3 施策の体系 | 14 |
| 4 基本理念を実現するイメージ | 15 |
| 第4章 施策の展開 | |
| 1 施策展開の基本的な考え方 | 16 |
| 2 施策の取組 | 16 |
| • 基本目標 1 | 16 |
| • 基本目標 2 | 20 |
| • 基本目標 3 | 22 |
| 3 計画の推進に向けて | 24 |
| 資 料 | |
| 1 丸亀市生涯学習推進計画に関する市民アンケート調査結果 | 28 |
| 2 第3次生涯学習推進計画の実施状況に関する調査結果 その1 | 50 |
| 3 第3次生涯学習推進計画の実施状況に関する調査結果 その2 | 70 |
| 4 第3次生涯学習推進計画の実施状況に関する調査結果 その3 | 82 |
| 5 計画策定の経緯 | 92 |
| 6 第4次計画策定にかかる社会教育委員及び特別出席者 | 93 |
| 7 丸亀市生涯学習推進計画の見直しにおける 社会教育委員の会特別出席者に関する要項 | 94 |

はじめに

生涯学習とは、市民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送るために、自分に適した手段や方法で、自発的・主体的に、生涯にわたり行う学習活動をいいます。

生涯学習の範囲は、学校や社会において意図的・組織的に行われる学習だけでなく、家庭における日々の活動や地域における活動、スポーツ、文化芸術、趣味、レクリエーション、ボランティア活動、市民活動団体の活動、自己学習なども含まれます。家庭や地域、学校から職場まであらゆる場所において、時間や方法にとらわれない自由で広範な学習を意味します。



※社会教育…家庭教育・学校教育を除き、主に青少年や成人に対する組織的な教育活動

市民のみなさんが学んだ成果を、発表したり伝えたり、さらには、市民活動やボランティア活動などの地域活動に活かすことによって、家庭や地域、学校、職場などが活気に満ちていきます。つまり、生涯学習は、自己の充実や自らの生活の向上を目指すとともに、その学習成果が、地域の発展につながっていくことが期待されている学習活動と言えます。

……………生涯学習活動とその成果を生かしたまちづくり【活動例】……………

生涯学習センターやコミュニティセンターでは、同じ学習目的を持った人たちが集まり、知識や技能の向上を目指し活動しています。

その成果は、生涯学習まつりやコミュニティまつりで住民に披露するなど、地域貢献にも活かされています。学習の輪が広がることで、人やまちが元気になり、生涯学習を通したまちづくりの推進につながっていきます。



丸亀中央生涯学習クラブ
[丸亀ハーモニカクラブ]

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本市では、平成19年度に「丸亀市生涯学習推進計画(以下、「第1次計画」という。))」、平成24年度に「第2次生涯学習推進計画(以下、「第2次計画」という。))」、平成29年度に「第3次生涯学習推進計画(以下、「第3次計画」という。))」、を策定し、生涯学習社会の実現に向け取り組んできました。

この間の社会状況に目を向けると、少子高齢化、グローバル化、高度情報化、環境問題、人口減少などの各種問題が複雑化しながら急速に進んでいます。

変化の激しい社会に対応していくためにも、生涯にわたって学習し自己を成長させることや、身につけた知識や技能を地域の課題解決、ネットワークづくりに活用していく必要があります。生涯学習活動は、これまで以上に重要視されるようになってきました。

こうした流れを受け、本計画は、第3次計画の評価や、生涯学習に関する市民アンケートの結果などを踏まえ、市民と行政が一体となって生涯学習を通じた「ひとづくり」「まちづくり」を推進するための新たな指針として令和4年度に「第4次生涯学習推進計画(以下、「第4次計画」という。))」を策定するものです。

2 計画の性格

本計画は、生涯学習行政に関連する市長部局・教育委員会の各部門が密接に連携を保つとともに、他の計画との整合性を図りながら、生涯学習を通じた「自己実現」に向けた市民の生涯学習活動を支援し、生涯学習に関する施策を総合的・体系的に推進することを旨とした計画です。

3 計画の期間

本計画は、令和4年度を初年度とし、令和7年度までの4年間とします。

社会情勢の変化に対応するため、必要に応じて、随時見直しを図ります。

上位計画である「総合計画」との整合性を図るため、従来の向こう5年間の計画を「第4次計画」より、向こう4年間に変更します。

4 計画の構成と位置付け

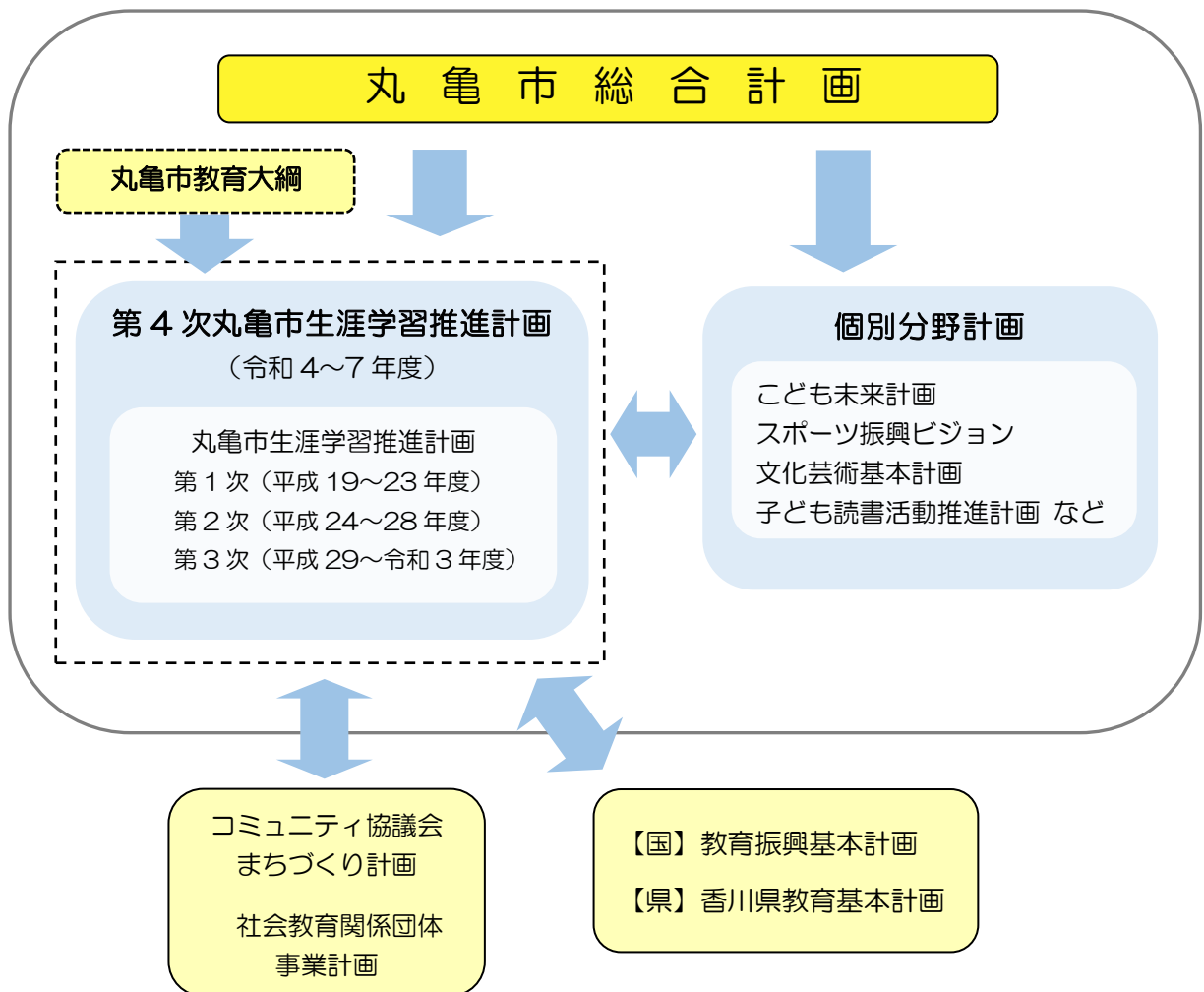
本市が目指す生涯学習社会を実現するために、「基本理念」を基軸として、「基本目標」と、その達成に向けた取組を示す「基本施策」で構成します。



この計画は、上位計画である「丸亀市総合計画」のまちづくりの理念や「丸亀市教育大綱」の人づくりビジョンに基づき、生涯学習施策を総合的に推進するため、国や県をはじめ、本市における他部門の方策・計画と連携し、整合性を図るものとします。

また、生涯学習社会の実現に向けて、中心的な役割を担うコミュニティ[※]や社会教育関係団体、市民活動団体や自己学習等との関係性にも配慮します。

[※]コミュニティ…概ね小学校区を単位とし、自治会、子ども会など関係団体が地域づくりを目的に参加、協働する組織



5 生涯学習推進計画とSDGsの関係

SDGs（持続可能な開発目標）とは、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された令和12年までの長期的な開発指針として、持続可能でより良い世界を目指す、世界共通の国際目標です。

17のゴール（国際目標）と169のターゲット（達成基準）から構成され、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、国や地方自治体、企業、教育・研究機関、NPOなど、様々な主体により、積極的な取組が展開されています。

SDGsが掲げる17のゴールのうち、生涯学習に直接的に関わる目標としては、「4 質の高い教育をみんなに」の教育に関する目標が挙げられますが、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けては、全てのステークホルダー（利害関係者）が役割を持って取組に参画することが求められています。

そこで、生涯学習においては、市民自らの学習や社会活動へ積極的に関わることへの動機づけに作用する学びの提供として、教育に関する目標以外にも他の目標の多くが間接的に関わっていることから、「第4次丸亀市生涯学習推進計画」で示す基本目標や基本施策等を展開するにあたっては、SDGsの全ての目標に対する視点を持って、直接施策に携わる関係部署とも連携し、生涯学習施策を推進していきます。



第2章 計画策定の背景及び現状と課題

1 生涯学習を取り巻く主な社会的背景

(1) 少子高齢化への対応

本市の常住人口は令和3年4月現在、109,378人となっており、「国立社会保障・人口問題研究所」が平成30年3月に公表した人口推計では、令和42年には約22%減少し、85,905人になるとの予測が出ています。また、人口構成の推移をみると、14歳以下の年少人口は徐々に減少し、65歳以上の高齢化率は約35%（約3人に1人以上）を超えると予測されています。子育て支援など子どもを安心して産み育てる環境づくりと高齢者の学習支援や社会参加の重要性が高まっています。

(2) 家庭や地域の教育力向上の支援

少子化・核家族化、グローバル化等の影響により、家族や地域の形態が変容し、価値観やライフスタイルが多様化する中で、世代間交流の減少や地域社会の支え合いの希薄化などの課題が発生しています。それに伴い、家庭や地域の教育力の低下が懸念されていますが、家庭、地域、学校が一体となって連携・協働し、子どもたちの学びや成長を総合的に支援する必要があります。

(3) 高度情報化への対応

デジタルによる生活の変容（デジタルトランスフォーメーション：DX）がうたわれる中、生涯学習においても、情報通信技術（ICT）の積極的な活用など、多様な学習のあり方が求められています。一方で、パソコンやスマートフォン等の急速な進化により、情報の流出、悪質な書き込みなどの問題が発生しています。情報を適切に取得・活用し、トラブルに巻き込まれないよう、新たな技術や知識の習得とモラルの向上が求められます。

(4) コミュニティの活性化

コミュニティでは、雇用期間の延長や少子高齢化等により、地域で中心になる人材や担い手が不足しているだけでなく、子育て、超高齢社会、防災、環境問題などへの対応といった多くの課題を抱えています。個人やグループ、団体などで行う学習で得た知識を地域に還元し、地域の発展に活かす仕組みをつくる必要があります。

(5) 多様性への対応

世代やライフスタイル、国籍の違いなどで様々な価値観を持った方が、同じ地域社会で暮らしています。

国籍や障がいの有無に関わらず、国際的視野を持ち、異なる言語や文化に適応できる人材育成や、障がいのある人たちへの理解と学習及び社会参加への支援などが求められます。

(6) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、施設の利用制限や講座・イベント等の中止など、生涯学習活動の分野にも多大な影響を及ぼしました。従来の「対面型の生涯学習」だけではなく、「新しい生活様式」に対応した「ICTを活用する生涯学習の導入」など、感染状況を注視しつつ、感染症対策を講じながら、本計画における事業を柔軟に展開していくことが求められます。

2 生涯学習に関する国及び県の動向

(1) 国の動向

平成30年6月に策定された「第3期教育振興基本計画」では、人生100年時代の到来と、令和12年以降の社会を展望した内容となっており、今後5年間の教育施策の目標と施策のなかに、「家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進」、「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」等が盛り込まれています。

令和2年9月に、中央教育審議会生涯学習分科会[※]から「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」が示され、「生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題」として、「社会的包摂の実現」や「人生100年時代と生涯学習・社会教育」、「地域活性化の推進」等が挙げられています。また、「新しい時代の生涯学習・社会教育の広がりと充実」に向けて、「新しい時代の学びのあり方」、「学びを通じた地域づくり」などが示されています。今後の取組の方向性として、学びの活動をコーディネートする人材の育成や、オンラインを利用した学びやつながり、SDGsを意識した取組の拡大等が示されています。

[※]中央教育審議会…教育、文化等に関する重要施策を調査審議し、建議するための文部科学大臣の諮問機関

(2) 香川県の動向

県では、令和3年度から7年度までの5年間を計画期間とする第4期「香川県教育基本計画」を策定し、第1期計画からの「夢に向かってチャレンジする人づくり」を基本理

念に、7つの重点項目を掲げ、計画を推進しています。

重点項目の一つである「家庭や地域での学びの環境づくり」においては、学校、家庭、地域が連携・協働して、それぞれの地域の実情に応じた「学校を核とした地域づくり」を促進するとしています。

3 丸亀市の生涯学習の現状と課題

(1) 丸亀市の取組

平成19年度にスタートした第1次計画では、「多様な学習機会の提供」「豊かなボランティア社会の形成」「生涯学習のネットワーク形成」「生涯学習推進体制の整備」において各種施策を展開しました。

平成24年度からの第2次計画では、「生涯学習活動の支援」に「まちづくり」の視点を加え、一人ひとりの学びが地域活動への参画や問題解決のための行動につながるよう、学習と行動が結びつき循環していく社会を目指し、コミュニティ等と連携しながら取り組んできました。

平成29年度からの第3次計画では、市民と行政が一体となって、生涯学習を通した「ひとづくり」「まちづくり」を推進するために、様々な施策に基づく事業等を展開してきました。主な事業として、全てのコミュニティに「生涯学習推進員」を配置して、地域の課題解決のための「地域いきいき講座」の開催を促進したり、学校と地域の連携・協働事業では、令和3年度に「コミュニティ・スクール」導入時期と合せて、全小学校区に「地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）」を配置し、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の両輪で、子どもたちの成長を支援しています。

(2) 市民アンケート、進捗状況調査を実施*（アンケート及び調査結果の詳細は資料を参照）

計画の見直しにあたり、市民の生涯学習に関する考え方や学習活動の現状を把握するため、令和3年6月に、無作為に抽出した18歳以上の市民に「丸亀市生涯学習計画に関するアンケート調査」を実施しました（調査対象者数：3,000人、回収総数：1,000、回収率：33.3%）。

さらに、下記の関係者等に「丸亀市の生涯学習推進状況に関する調査」を実施し、必要に応じて聞き取り調査を行いました。

- ① 計画（第3次・4次）策定に関係している社会教育委員及び特別出席者
- ② 社会教育施設の関係者（コミュニティ全17か所、生涯学習センター、飯山総合学習センター、飯山東小川公民館）
- ③ 施策に関連する関係部課

(3) アンケートや調査からみる現状と課題

1 学びのための環境づくりの推進

現 状

- 参加者の固定化（高齢化）やそれに加え新型コロナウイルスの影響で、生涯学習施設の利用者や講座数が減っている。
- 若者や働き盛りの方に向けた事業については十分な成果を上げることはできていない。（活動のきっかけが掴みにくい）
- インターネット等を利用して学びたい声が増加している一方で、高齢者にはパソコンやタブレットの扱いが難しく、オンラインでの参加が難しい。
- コミュニティセンターの職員数が少ないため、現在行っている事業を維持するのに精一杯の状態
- 公共施設のサービス向上を望む声が多い反面、生涯学習センターなどの社会教育施設での取組を知らない人が多い。指導者や講師、人材に関する情報や、市民活動団体との連携等に関する情報を求めている。
- ボランティアとして活躍できる場が少ない。

課 題

- 参加者の固定化、高齢化への対応
- 様々な社会環境の変化に伴い、参加者が減少傾向にある中で、多くの市民に参加してもらうための工夫が必要
- アプローチが難しい層の明確化と対応。若い世代の参加促進。参加を促すための日時や開催方法、内容の工夫、学びのニーズの把握及び検討が必要
- コミュニティセンター等において、生涯学習に携わる職員の人手不足の解消
- 社会教育施設、コミュニティの活用、市民のニーズを把握するための仕組みづくりイベント参加のPRをどのようにするか、チラシ、HPの充実、SNS（Instagram、Facebook、Twitter）を使った新たな情報提供
- 行政各課、各種団体などと連携した生涯学習に関する情報の集約、共有化及び市民活動団体を含む講師や指導者等の人材バンクの整備

2 学びでつながり、学びを活かすまちづくりの推進

現 状

- 学んだ成果をリーダーや指導者として活かす仕組みや場所は増えてはいるが、コミュニティセンターではまだ半数に満たない。どのような活動に活かすことができるのか分からないケースもある。また、ボランティアのなり手が不足している。
- 各講座内や講座間の受講生や指導者において一定のつながりを持つことはできている。
- 地元の人たちと転入者との融合については、活動内容や考え方が異なり、相互理解に時間

を要する。また、活動に無関心な人への情報が届きにくい。

- 健康やスポーツ、趣味的な学習を望む声が多く、人生を豊かにしたいと考えている。

課 題

- 学んだ成果を地域に還元する機会の確保と、リーダーや指導者として活かす仕組みづくりが必要
- コミュニティセンターのみならず、その連携の可能性がある他団体とのつながりの強化。つながりたいときにつながれるようにサポートできる体制を整えておくことが重要。活動する団体や活動の紹介や、市内の資源全体像の把握（人材バンク）、つながりができる場やきっかけの機会の創出
- ボランティアのなり手を確保するための関係者への意識付け
- 講座や教室の企画など、関係部署や関係機関との情報共有。また、他分野からの人材の発掘が必要

3 家庭・地域・学校における連携の推進

現 状

- コミュニティセンターでは、「学校支援ボランティアの募集や研修を実施している」という回答が、前回調査時から約2倍に増加しており、学校支援に対する意識が高まっている。
- 事業や支援については地域差があるが、地域コーディネーターの全コミュニティへの配置、コミュニティ・スクールの発足、「地域と共にある学校づくり」においては良いスタートができた。学校が必要とする支援を、地域で上手く支援確保できるか、高齢化と適切な人材確保の難しさに直面している。
- コミュニティで活動する人と、PTA、学校関係者とのつながりが、一部の人とは連携しているが、幅広くは関係性が作れていない。これは人材や関わり方の固定化にあると思われる。学校を支援する活動について、「参加したくない」と考えている人が「参加したい」と考えている人より多かった現状の反面、8割以上の方が「必要な事業である」と考えている。
- 「学校と地域の連携」については、「地域行事への児童の参加」や「地域の方による学校支援ボランティア活動」など、双方向の連携・協働事業が行われている。

課 題

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進及び関わりの強化
- 参加者、世話役の固定化を解決するための新たな人材の発掘に向けた研修や地域活動への参加を促す啓発が必要
- 各地域の実情に合わせた事業及び必要な事業であると考えている人が参加しやすい環境づくり

4 課題を踏まえた生涯学習推進の視点

生涯学習に関する市民アンケートや関係団体等からの意見、国・県の方針や社会情勢、そして、第1次から第3次計画により推進してきた生涯学習の取組などを整理し、今後の本市における生涯学習推進の視点を次のとおり定めます。

- (1) ICTの活用 ⇒ オンラインやSNS等の活用
- (2) 公共施設の
有効活用 ⇒ 既存の公共施設（生涯学習センター、図書館等）
のみならず、新たな公共施設（マルタス・新市民会館）
の積極的な活用
- (3) 学びの成果
の還元 ⇒ 生涯学習まつりやコミュニティまつり等で、活動成果を
披露するだけでなく、学ぶことで得た知識や技能を、
様々な地域活動の場面に、積極的に活かす意識の醸成
- (4) 様々な分野
との連携 ⇒ 庁内関係課や社会教育団体他、NPO法人などと
連携した生涯学習活動の実施
- (5) 新たな人材の
発掘と育成 ⇒ 人材バンクで講師等の情報を管理し、人材発掘
や育成を必要としているところでの活用



サイエンス教室
[さぬきっずコムシアター]



中央図書館おはなし会
[マルタス]

第3章 計画の基本的な考え方

この章では、丸亀市が目指す生涯学習社会の実現に向けて、本計画の「基本理念」及び「基本目標」について示し、それらを体系的に整理します。

1 基本理念

多様な学びでつながる

ひと・まち・未来

本計画では、個人、地域、学校、団体などをつなげることで、新たな学習の輪を広げ、「ひと」がつながり、「まち」がつながり、そして「未来」へとつながる、持続可能なまちづくりを実現します。



これまでの計画の根幹となる方針を引き継ぎつつ、新型コロナウイルス感染症がもたらした生涯学習活動の自粛などの不安要素の解消に向けて、「ICTの活用」など新たな生涯学習の形を積極的に導入します。

また、様々な価値観を持った人が暮らす社会において、生涯学習による個人の豊かな学びの実現とともに、多様な学びで生涯学習の輪をさらに広げ、学びで得た成果が地域社会に活かされる希望と活気があふれる丸亀を創造していくことを目指します。

2 基本目標

本市の生涯学習社会の推進に向けて、その基本的方向性を示す3つの基本目標を、次のとおり設定します。

- 基本目標 1 多様な学びのための環境づくり
- 基本目標 2 学びでつながり、学びを活かすまちづくり
- 基本目標 3 まち全体が学校となる環境づくり

基本目標 1 多様な学びのための環境づくり

生涯学習を实践する主体は市民であり、一人ひとりの自主的・主体的な学習活動の支援に努めるとともに、ライフステージや多様な立場に応じた学習機会を提供します。

また、趣味や教養など「個人の要望」と現代的課題や地域課題など「社会の要請」とのバランスの視点に立ち、「ひとづくり」「まちづくり」につながるように配慮します。

そのために、行政とコミュニティ、NPO、企業、学校など各種団体が、それぞれの特徴を活かした連携を図りながら学習機会の充実と一元的な情報提供に努めます。

生涯学習の持つ意味を広く啓発し、学習を始めようとする人への動機付けや意欲向上を図るとともに、「いつでも」「どこでも」「誰でも」学べる環境を目指し、学習活動に携わる市民の拡充にも取り組んでいきます。

今回の「垂水やすらぎサロン」の3本柱の一つ、タオル体操を実施。他に脳トレ、フレイルについての話など、認知症予防を含めた健康増進を目指しています。



「垂水やすらぎサロン」シニアカフェとフレイル企画のコラボ [垂水コミュニティ]

基本目標 2 学びでつながり、学びを活かすまちづくり

学ぶ市民が増え、交流が深まることで多くの人や地域がつながり、新たな情報、価値観が共有され、共通の課題意識が芽生え、市民が主体的に地域課題を解決するまちづくりへと進展していきます。また、学んだ成果を活かす場が増えれば、学習意欲も高まり、地域住民の連帯感が促進されます。

コミュニティや学校を中心とした様々な活動を通じて、住民同士が交流を深め、世代を超えた地域のつながりが生まれる仕組みづくりを進めていきます。地域づくりや学校などの活動を支えるための指導者やコーディネーターの発掘・育成にも努めます。

また、各地域の事例を知ることが地域の力を引き出すことにもつながるため、地域と地域・地域と団体間の情報の共有に取り組みます。

富熊小学校2年生及び富熊保育所年長児と地域交流として、さつま芋栽培学習を毎年実施しています。

[総務部行事地域交流会]



さつま芋栽培学習
[富熊コミュニティ]

基本目標 3 まち全体が学校となる環境づくり

子どもたちが地域社会で健やかに育つには、多様な人と関わり、様々な場面で、多くの経験を重ねていくことが大切です。学校、家庭、地域が、それぞれの力を活かしながら、教育環境の充実を図っていく必要があります。

「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」が車の両輪のように円滑に連携し、同じ方向を向くことで、施策の効果が高まり、学校や家庭、地域ぐるみで子どもたちの学びや成長を支援していくための意識が高まります。地域の教育力は、子どもたちに発揮されるだけでなく、そこに参加する人たちの生きがいや充実感の向上、ひいては、地域活動の推進、地域を支える人づくりや、まちづくりにつながります。

未来を担う子どもたちを見守り育てていくために、まち全体が学校となる環境づくりを推進し、地域の特色を活かした教育支援や世代間交流の活動の拡充に取り組んでいきます。

世代間交流の一環として、「昔ながらの田植え定規」を使っての田植え体験を毎年実施しています。子どもたちと地域の人達との協働作業です。



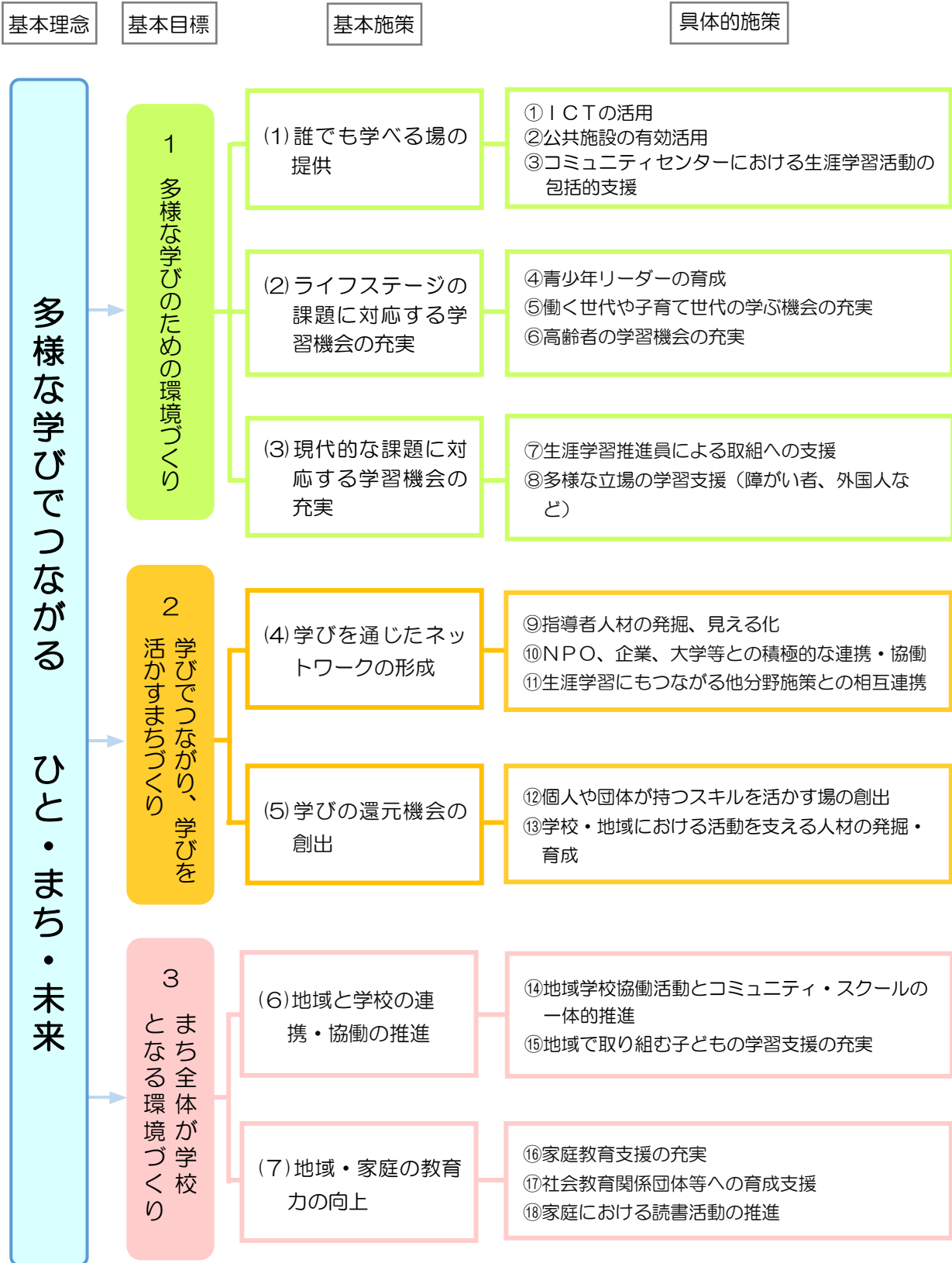
田植え体験
〔川西コミュニティ〕

※地域学校協働活動…地域の高齢者や保護者、PTA など、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

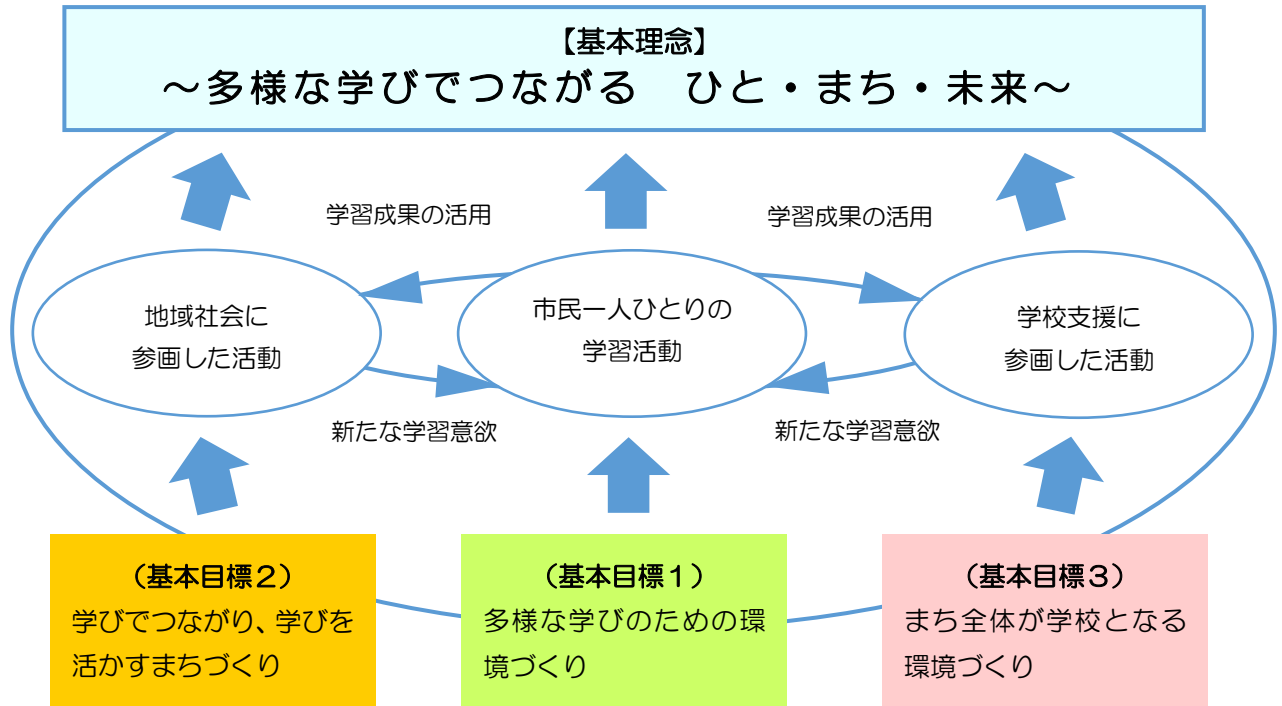
※コミュニティ・スクール…地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地域住民や保護者等の意見を学校運営に反映させる仕組みとして、「学校運営協議会」を設置している学校

3

施策の体系



4 基本理念を実現するイメージ



第4章 施策の展開

1 施策展開の基本的な考え方

基本理念である「多様な学びでつながる ひと・まち・未来」の実現に向け、3つの基本目標と7つの基本施策、それに関連した18の具体的施策を実施します。

2 施策の取組

基本目標 1 多様な学びのための環境づくり

基本施策（1）誰でも学べる場の提供

【成果指標】

| 指標項目 | 基準値（令和2年度） | 目標値（令和7年度） |
|-----------------------------|------------|------------|
| オンライン講座実施数 | 0件 | 5件 |
| 主な社会教育施設利用者数 ^{（注）} | 381,244人 | 400,000人 |

（注）主な社会教育施設…生涯学習センター（児童館除く）→＜新市民会館開館後は、新市民会館＞、飯山総合学習センター、飯山東小川公民館、図書館（中央・綾歌・飯山）、コミュニティセンター

《具体的施策①》ICTの活用

会場に来られない方や若い世代の方など、新たな層の参加を促すために、生涯学習の新たな形として、オンラインなどを活用した講座や研修の開催、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信を行います。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">オンラインを用いた市民学級の開催高齢者向けオンライン講座（レベル別）の開催社会教育施設やコミュニティセンターの職員向けオンライン講座事前研修の開催SNSを活用した各種情報発信 | 広聴広報課、情報政策課、生活環境課、生涯学習課 |

《具体的施策②》公共施設の有効活用

学びの場として、生涯学習センターや図書館などの既存の社会教育施設だけでなく、マルタスや今後建設予定の新市民会館に設けられる様々な機能も積極的に活用します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民学級の開催 ・「児童館」を活用した学習機会の提供 ・幼稚園、保育所（園）、認定こども園での発達段階に応じた絵本の読み聞かせ ・蔵書絵本の充実、保護者に向けた本の紹介、リスト作成、貸出 ・生涯学習クラブ活動への支援 ・新市民会館の整備、管理運営計画策定 | 子育て支援課、幼保運営課、図書館、生涯学習課、文化課 |

《具体的施策③》コミュニティセンターにおける生涯学習活動の包括的支援

地域における生涯学習活動の拠点であるコミュニティセンターを活用し、地域における生涯学習活動を包括的に支援します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習クラブ活動への支援 ・地域における生涯学習活動の相談対応 ・地域課題解決に向けた講座の充実 | 生活環境課、生涯学習課 |



四国職業能力開発大学校見学
[市民学級提案型講座]



郷土にまつわる歴史講座
[中央図書館]

基本施策（２） ライフステージの課題に対応する学習機会の充実

【成果指標】

| 指標項目 | 基準値（令和２年度） | 目標値（令和７年度） |
|-------------------------|------------|------------|
| ジュニアリーダーが新たに養成された人数（延べ） | ５人／年 | ２５人／４年 |
| 市民学級の参加者数 | ４６１人 | ６００人 |

《具体的施策④》青少年リーダーの育成

本市の将来を担うリーダーの育成に向けて、青少年の自立性・社会性を身につける体験活動や地域活動への参加機会の提供や視野を広げる活動を推進します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・体験型活動の提供 ・交流都市との少年団体交歓研修の開催 ・子ども会によるジュニアリーダーの養成支援 ・新成人との協働による成人式の開催 | 学校教育課、生涯学習課 |

《具体的施策⑤》働く世代や子育て世代の学ぶ機会の充実

働く世代や子育て世代に対し、参加しやすい内容等を考慮した学習機会を提供します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|----------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの市民学級の開催 ・民間団体等が主催する講座、研修会の情報発信 ・生涯学習センター、公民館等社会教育施設主催講座（メンズ料理教室、親子リトミックなど）の情報提供 | 健康課、子育て支援課、幼保運営課、学校教育課、図書館、生涯学習課 |

《具体的施策⑥》高齢者の学習機会の充実

高齢者が今後の生き方を自ら積極的に考えるための、生きがいや暮らしにつながる講座、健康づくりのための講座等の学習機会を提供します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|----------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度等、暮らしに直結する講座の開催（市民学級等） ・健康や福祉に関する知識を向上させるための講座の開催 ・高齢者のデジタル格差解消に向けた講座の開催 | 健康課、高齢者支援課、福祉課、生涯学習課 |

基本施策（3）現代的な課題に対応する学習機会の充実

【成果指標】

| 指標項目 | 基準値（令和2年度） | 目標値（令和7年度） |
|---------------|------------|------------|
| 地域いきいき講座の参加者数 | 3,351人 | 3,500人 |

《具体的施策⑦》生涯学習推進員による取組への支援

地域における生涯学習のキーパーソンとなり、学びを通して「人」や「地域」をつなぐ役割をもつ生涯学習推進員を支援し、コミュニティセンターを拠点として、日々の活動から見えてくる地域の課題やニーズを踏まえた生涯学習を推進します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 地域いきいき講座の開催（まちづくり、防犯、防災などの地域課題や男女共同参画、消費者問題、環境問題、健康、介護などの現代的課題、子育てに関する様々な課題に対応した生涯学習講座） 生涯学習推進員への相談対応の強化 地域いきいき講座で活用できる講師人材の紹介等による開催支援 | 生活環境課、生涯学習課 |

《具体的施策⑧》多様な立場の学習支援（障がい者、外国人など）

障がい者に配慮した学習情報やスポーツ・文化にふれる機会を提供し、社会活動への参加を支援します。

地域に暮らす外国人住民に、生活に関わる学習機会や地域住民との異文化交流・国際理解を深める場を提供します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生につながる講座の開催（多文化共生日本語教室、異文化理解講座、国際交流クッキング、写真パネル展） | 秘書政策課 |
| <ul style="list-style-type: none"> 障がい者向けスポーツ大会や教室の開催 地域出前文化教室の開催 | 福祉課、スポーツ推進課、文化課 |

基本施策（４） 学びを通じたネットワークの形成

【成果指標】

| 指標項目 | 基準値（令和２年度） | 目標値（令和７年度） |
|--------------------------|------------|------------|
| 生涯学習人材バンク登録者数 | ０人 | 100人 |
| NPO、企業、大学等による講座の企画、提案講座数 | 年間５講座 | 年間６講座 |

《具体的施策⑨》指導者人材の発掘、見える化

定住自立圏域市町との生涯学習人材に関する情報交換、登録制度を設け、コミュニティセンターや社会教育施設における各種研修、講座で活用します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習人材バンク登録制度の構築 人材データベースの定住自立圏域市町との共有 | 秘書政策課、生涯学習課 |

《具体的施策⑩》NPO、企業、大学等との積極的な連携・協働

NPOや企業、大学など、学びの機会を提供する団体等とのネットワークづくりを進め、主体的・効果的な学びにつなげます。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> NPO、企業、大学等の企画、提案による講座の開催 企業の社会貢献活動と連携したワークショップ等の開催 大学等の研究機関が実施するフィールドワークへの支援 | 生涯学習課 |

《具体的施策⑪》生涯学習にもつながる他分野施策との相互連携

教育や福祉、スポーツや文化芸術など、生涯学習と関わりのある分野との連携・強化を図り、事業を展開します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> スポーツを通じた地域づくり 教育や福祉との文化芸術を通じた連携 マルタスとの連携 | 学校教育課、福祉課、スポーツ推進課、文化課、生涯学習課 |

基本施策（５）学びの還元機会の創出

【成果指標】

| 指標項目 | 基準値（令和２年度） | 目標値（令和７年度） |
|----------------|------------|------------|
| 地域コーディネーター養成者数 | 年間 12 人 | 年間 12 人 |
| 生涯学習クラブ登録団体数 | 354 団体 | 360 団体 |

《具体的施策⑫》個人や団体が持つスキルを活かす場の創出

生涯学習活動を通じて得た知識や技能を活かす場面を、活動発表の一面だけでなく、幅広く多面的に捉える意識の醸成、啓発を図ります。併せて、様々な地域課題の解決において、必要な場面と求められる人材をつなぐコーディネート機能の強化に取り組みます。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習クラブによる活動発表機会の確保 地域学校協働活動への参画意識の啓発 地域貢献活動への参加促進に対する働きかけ 社会教育士*の育成に向けた支援 | 生涯学習課 |

*社会教育士…生涯学習や地域づくりについての専門的な知識を学んだ人材。行政だけでなく、企業や学校等、広く社会において活躍が期待されている。
（文部科学大臣の委嘱を受けた大学等の教育機関が実施する講習や大学での養成課程を修了した人）

《具体的施策⑬》学校・地域における活動を支える人材の発掘・育成

学校や地域が抱える諸問題と地域学校協働活動を結びつけ、学校と地域の橋渡し役となる地域コーディネーターの発掘、育成及び支援を行います。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーター養成塾の実施、受講者のニーズや各地域の状況に合わせた内容の充実 地域学校協働活動への参画意識の啓発 学校や地域が抱える諸問題解決のための人材交流及び意見交換会の開催 | 学校教育課、生涯学習課 |

基本施策（6）地域と学校の連携・協働の推進

【成果指標】

| 指標項目 | 基準値（令和2年度） | 目標値（令和7年度） |
|--------------------------------------|------------|------------|
| 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進に係る研修会参加者数 | 年間0人 | 年間30人 |

《具体的施策⑭》地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進

「学校を核とした地域づくり」を目指して、コミュニティ・スクールの仕組みと、地域学校協働活動の様々な活動を連携させることにより、それぞれがもつ役割が十分に機能し、相乗効果を発揮して、学校運営の改善と地域づくりに資する活動の活性化を推進します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域への地域コーディネーター養成塾などの研修機会の情報提供と参加促進の働きかけ 小中・地域連携教育連携協議会での取組事例の紹介及び情報交換 国、県の情報活用及び全国的な取組事例の情報発信 | 学校教育課、生涯学習課 |

《具体的施策⑮》地域で取り組む子どもの学習支援の充実

豊かな人間形成に役立ち、学習活動を通じた地域の活性化につながる地域の教育資源（人・場所・歴史・文化）を活かした学習・体験活動、子どもの居場所づくりを支援します。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|--------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を活かした取組（地域学校協働活動の農業体験、放課後子供教室の学習支援等）の現地視察を通じて地元の活動に活かすよう働きかけ 生涯学習人材バンク登録を通じて得た地域の教育資源を必要な活動場面につなぐ働きかけ | 子育て支援課、幼保運営課、教）総務課、学校教育課、生涯学習課 |

基本施策（7）地域・家庭の教育力の向上

【成果指標】

| 指標項目 | 基準値（令和2年度） | 目標値（令和7年度） |
|----------------|------------|------------|
| 家庭教育事業参加者数 | 3,125人 | 3,500人 |
| 少年団体指導者研修会参加者数 | 62人 | 80人 |

≪具体的施策⑩≫家庭教育支援の充実

行政と保育所、幼稚園、認定こども園、学校、PTA、NPOなどが連携した、家庭教育に関する学習機会と情報提供の充実を図ります。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|----------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 母子保健支援事業を活用した家庭での健康づくり 地域子育て支援拠点事業における家庭教育の場の充実 家庭教育事業（家庭教育セミナー、子育て学習会、家庭教育講座）の開催 ボランティア団体による本の読み聞かせ等 | 健康課、子育て支援課、幼保運営課、学校教育課、図書館、生涯学習課 |

≪具体的施策⑪≫社会教育関係団体等への育成支援

家庭や地域の教育力向上を図るため、様々な活動をする各種団体の支援・連携を行います。

| 主な取組 | 関連部署 |
|---|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> PTA、子ども会、ボーイ・ガールスカウトの支援 NPO法人等との協働事業の実施 少年団体指導者研修会の開催 | 学校教育課、生涯学習課 |

≪具体的施策⑫≫家庭における読書活動の推進

子どもが本に親しむきっかけをつかみ、読書習慣を身に付けていくための支援を行います。

| 主な取組 | 関連部署 |
|--|-----------|
| <ul style="list-style-type: none"> うちどく(家読)の推進 ブックスタート、セカンドブック等の実施 コミュニティセンターの読書環境の充実 | 図書館、生涯学習課 |

3 計画の推進に向けて

1 計画の推進体制

(1) 庁内の連携体制

生涯学習は、様々な分野と関連していることから、生涯学習課が中心となり、教育委員会をはじめ、関係各課が連携して事業に取り組み、本計画を推進します。

関係各課・職員に対し生涯学習への理解浸透を図りながら、連携した事業の展開や情報の収集・発信等を行い、体系的・総合的に計画を推進します。

(2) 市民や地域、関係団体等との連携・協働

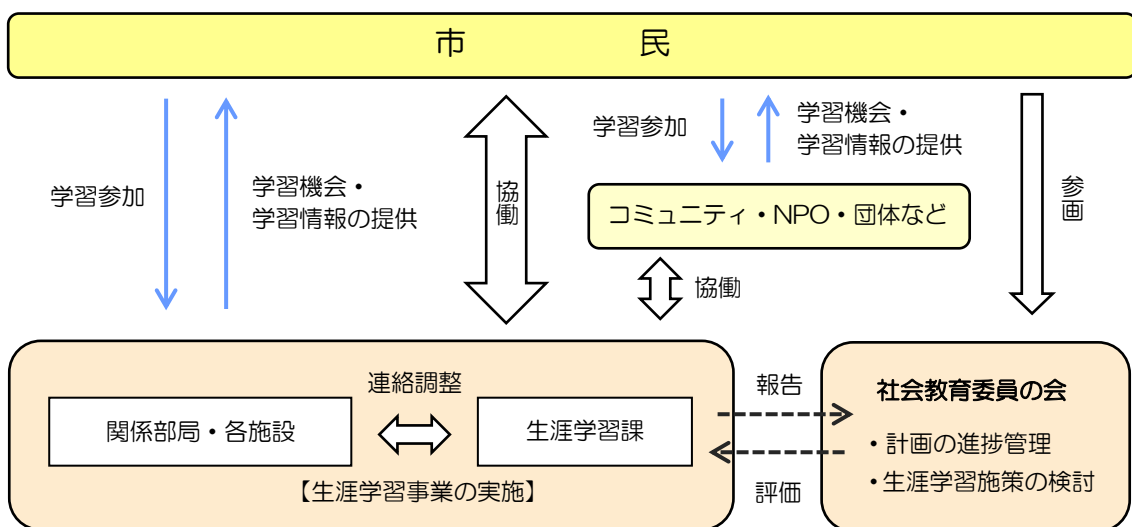
生涯学習は広範な領域にわたり、多様な学習活動が求められることから、家庭、地域、学校及びNPO法人等との連携・協働による取組が必要となります。

また、地域における生涯学習をまちづくりの重要な要素として位置付け、各種活動等においてコミュニティと十分に連携を図り、計画を着実に推進します。

(3) 計画の周知

生涯学習の施策を効果的に推進していくために、本計画を行政内部をはじめ、様々な媒体を通じて市民や関係団体等に周知し、計画や生涯学習の重要性の啓発に努めます。

□ 推進体制イメージ図



2 計画の進行管理

本計画の進行管理は、生涯学習課で行い、定期的に「社会教育委員の会」に対して施策の実施状況を報告し、点検・評価を仰ぎながら生涯学習行政を推進します。

計画に示した成果指標については、毎年度の進行度合を管理しつつ、次期計画策定時に進捗を総括し、PDCA サイクルに基づき次期計画に反映させることとします。



ひと・まち・未来を
つくるでござる！



ダンスワークショップ 撮影：福田ジン
[丸亀市猪熊弦一郎現代美術館]



民生委員による「ふれあい交流会」
[東小川公民館]

資料

丸亀市生涯学習推進計画に関する市民アンケート調査結果

■ 調査目的

前回のアンケートから5年が経過し、生涯学習に関する意識や考え方、また、学習経験や学習希望の動向を調査し、次期丸亀市生涯学習計画の素案策定の参考資料とする。

■ 調査対象

令和3年6月1日現在、丸亀市内に在住している18歳以上の方から無作為に3,000人を抽出。

■ 調査方法

対象者あてに調査票を郵送し、記入・返送を依頼。

■ 調査期間

令和3年6月22日～7月16日

■ 回収状況

回収総数(率) 1,000人 (33.3%)

■ 調査の公表

丸亀市ホームページにアンケート結果の概要を公表する。

■ 報告書の見方

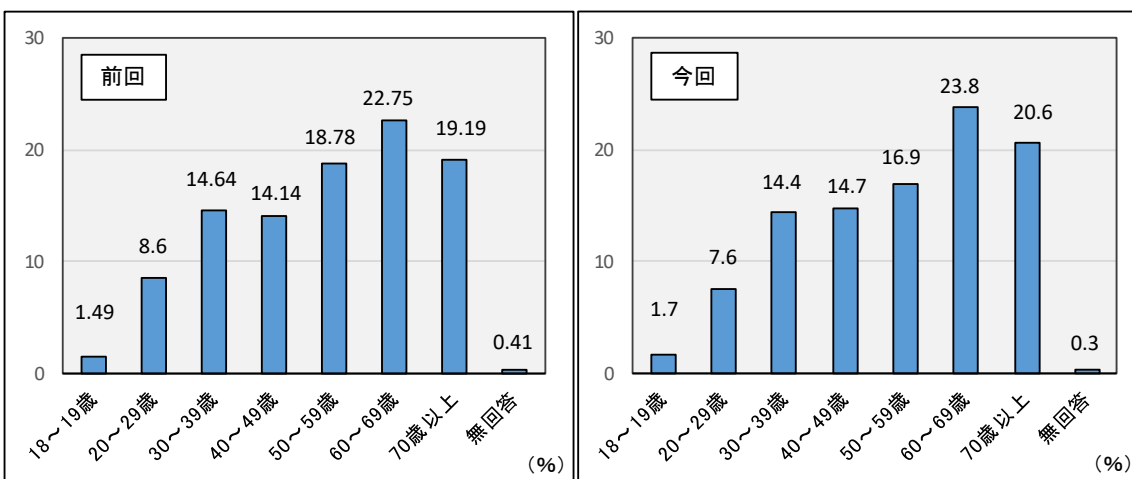
- (1) 回答率(%)は、その質問の回答数を基数 (N=Number of Caseの略) として算出し、小数点以下第2位を四捨五入とする。したがって、比率の数値の合計が100.0%丁度にならない場合がある。
- (2) 複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。

あなた自身のことについておたずねします。

問1. あなたの年齢を教えてください。(有効回答者数: 1,000人)

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 18～19歳 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 | 4 40～49歳 |
| 5 50～59歳 | 6 60～69歳 | 7 70歳以上 | |

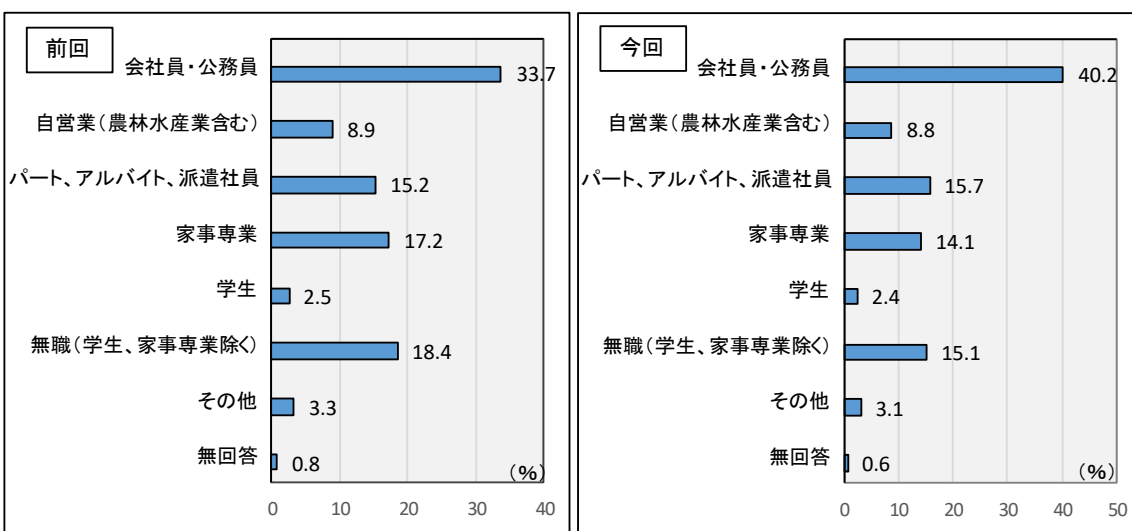
回答者年齢割合



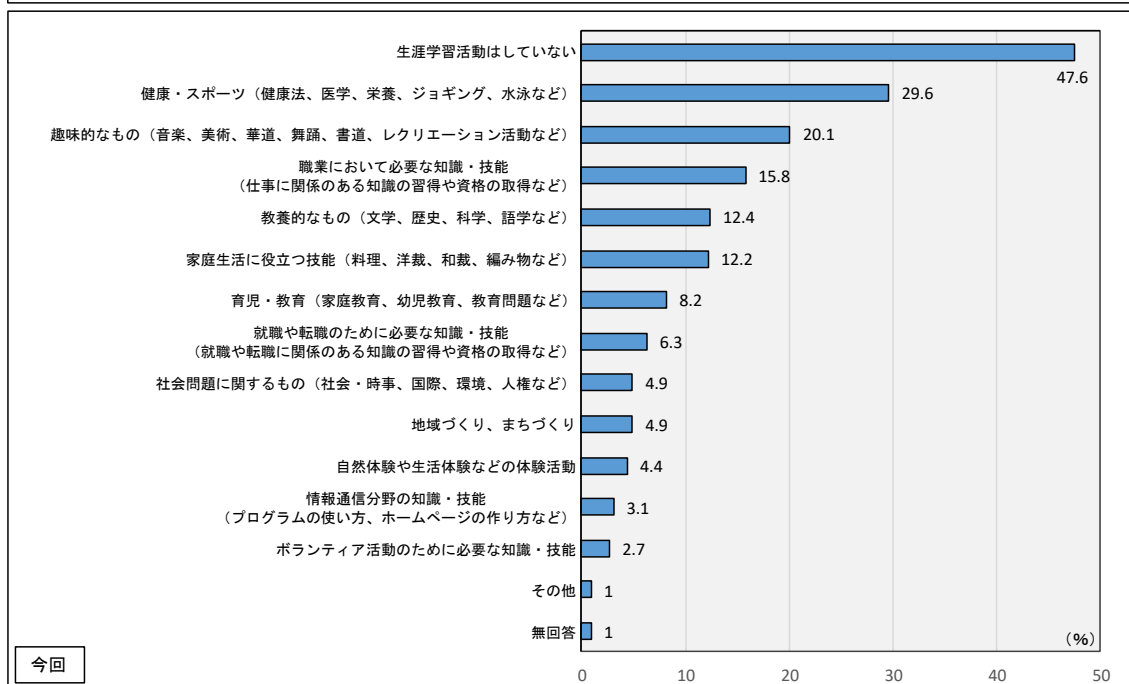
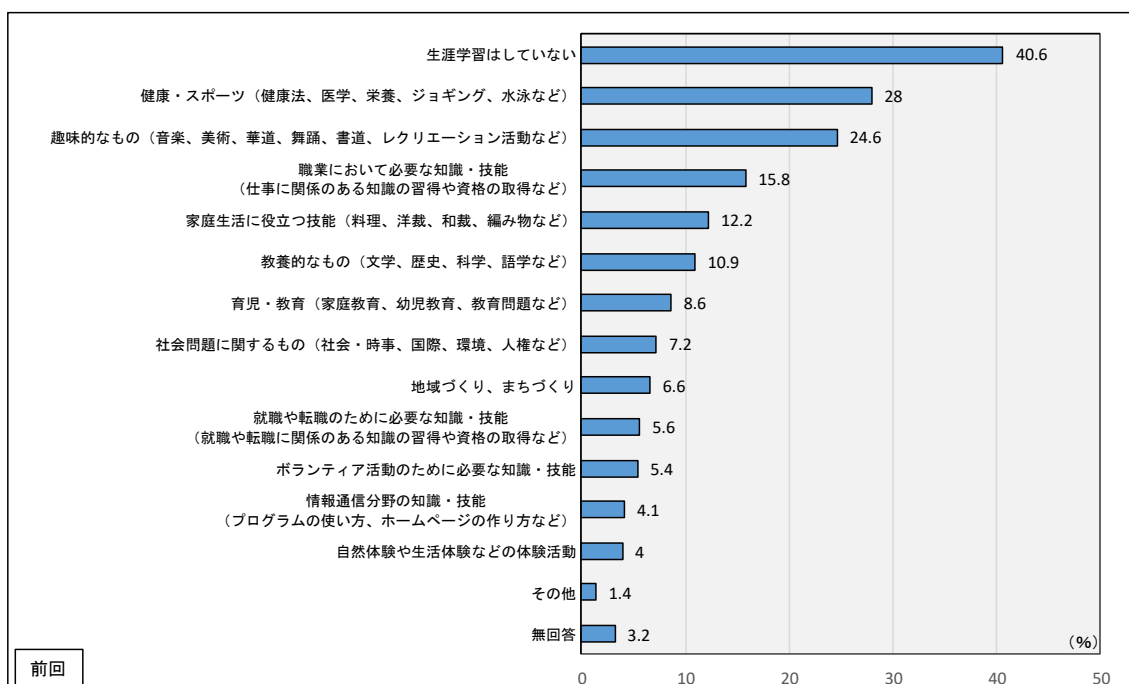
問2. あなたのご職業を教えてください。(有効回答者数: 1,000人)

| | | |
|-----------|----------------|------------------|
| 1 会社員、公務員 | 2 自営業（農林水産業含む） | 3 パート、アルバイト、派遣社員 |
| 4 家事専業 | 5 学生 | 6 無職（学生、家事専業を除く） |
| 7 その他 | | |

回答者職業別割合



問3. あなたは、この1年間に生涯学習活動をしましたか。当てはまるすべてに○をつけてください。(有効回答者数:1,000人)



【現状】

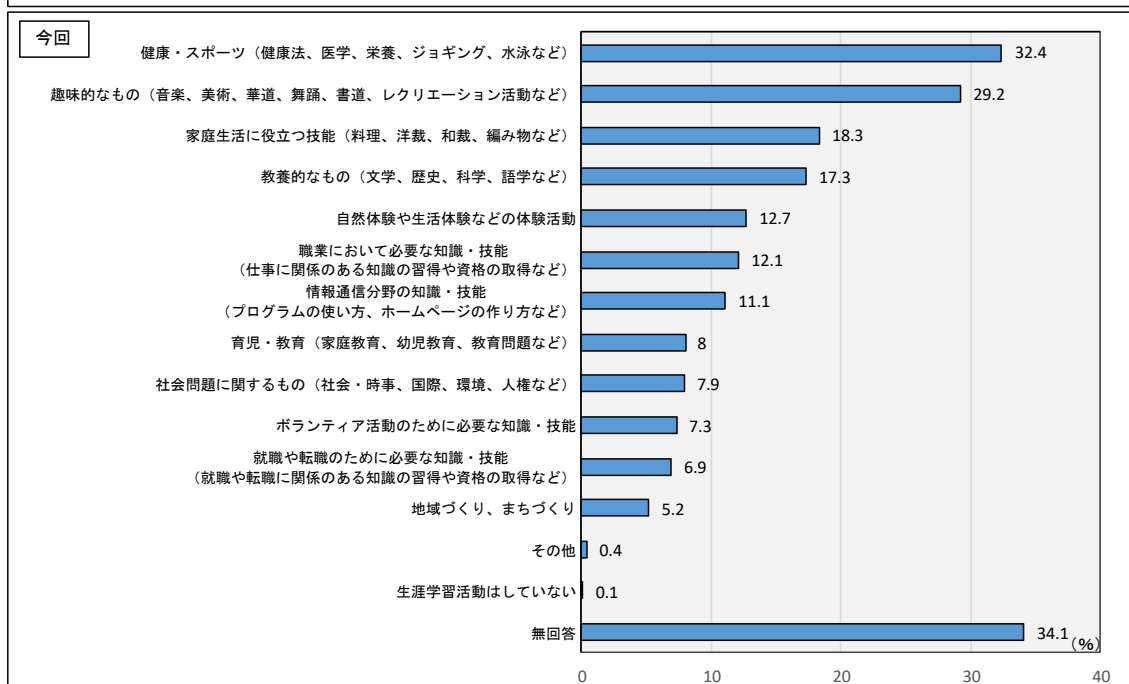
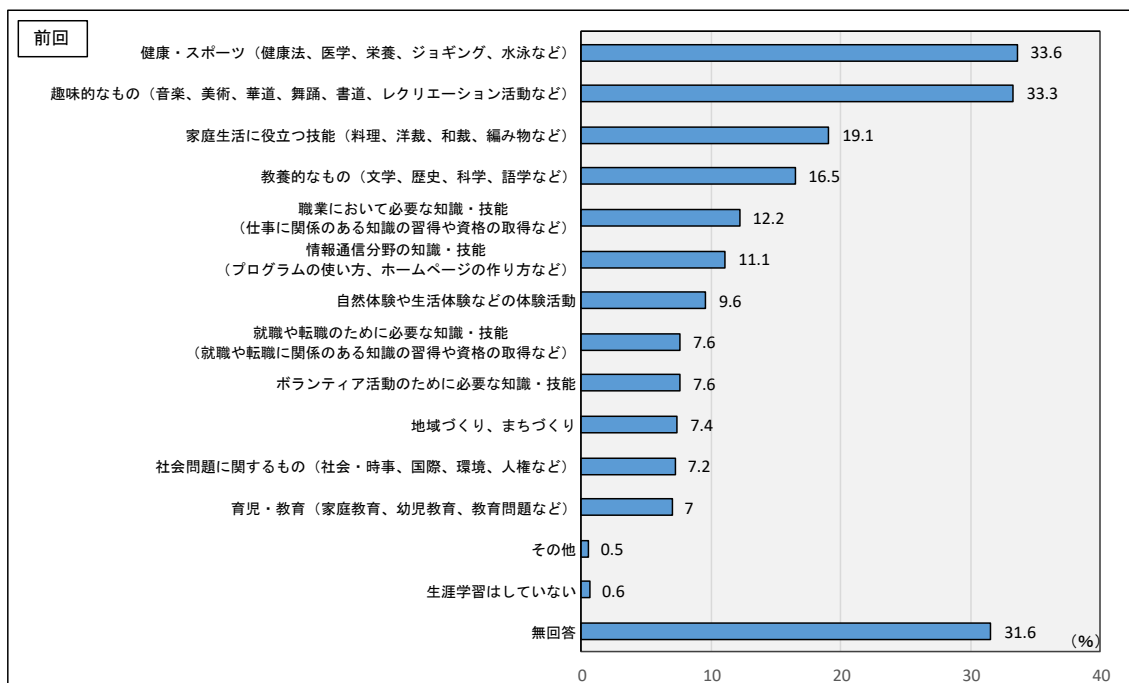
- ・今回の調査では、「生涯学習活動はしていない」が前回調査より7%増加している。(40.6%から47.6%に増加している。)
- ・上位2項目(健康・スポーツ、趣味的なもの)については、前回の調査と同様な結果となっており、市民の高い関心が伺える。

【課題】

- ・「生涯学習活動はしていない」が増加した原因として、新型コロナウイルス感染症対策による施設の休館や活動を控えている影響があるものと思われる。オンラインを活用した生涯学習の実施など、開催方法の工夫が必要である。

問4. また、今後学習したい内容(継続を含む)を上記から3つまで選んで番号をご記入ください。※学習したい内容がなければ無記入でもかまいません。

(有効回答者数:1,000人)



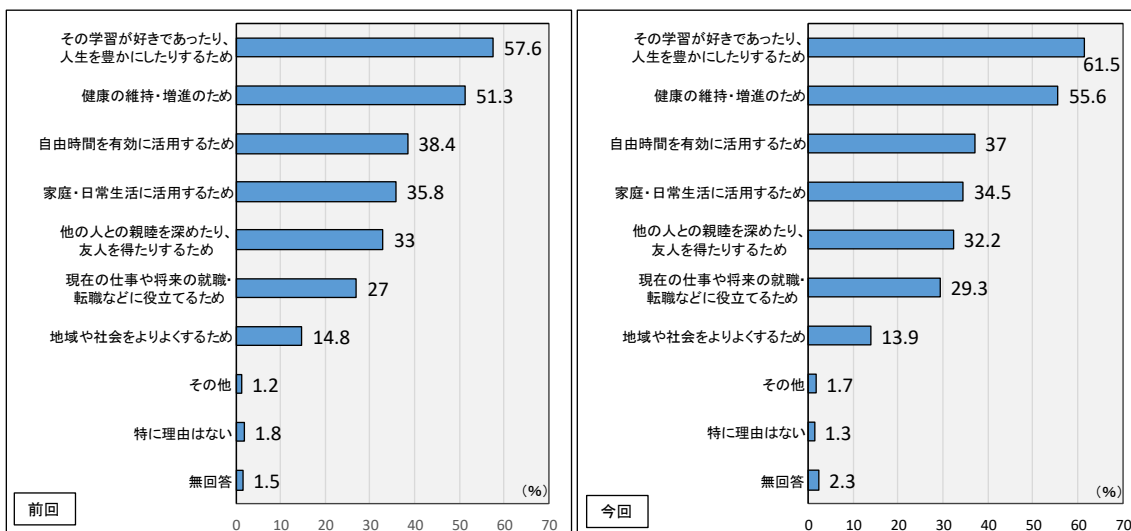
【現状】

- ・上位2項目については、前回の調査や問3と同様、健康・スポーツ、趣味に関する学習意欲が、高い値を示している。
- ・上位2項目以外についても、5.2%～18.3%の結果となっており、学習意欲の多様化が伺える。特に自然体験や生活体験活動の割合が増加しており、体験型の学習ニーズが高まっている。

【課題】

- ・市民の学習意欲が多様化しているため、講座の終了後にアンケート等を実施するなど、ニーズの高い講座の開設や、新しい講師の開拓などが必要である。

問5. 問3で「1～13」と答えた方におたずねします。あなたが学ぶ目的は何ですか。当てはまるすべてに○をつけてください。(問3で「1～13」と答えた者:525人)



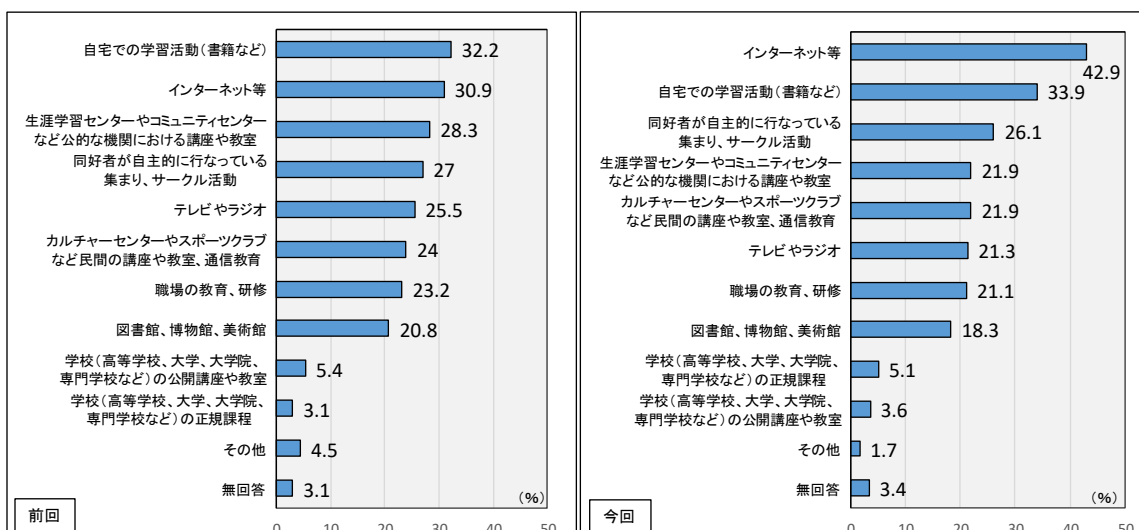
【現状】

・前回の調査と割合は異なるものの、目的の高い順番は同様であった。自らの生活を豊かなものにするを目的に学んでいる傾向が伺える。

【課題】

・今後地域づくりや仲間づくりに繋がる活動が重要になってくるため、地域課題を解決するための講座等を提供する必要がある。

問6. 問3で「1～13」と答えた方におたずねします。あなたは、どのような機会を利用して学んでいますか。当てはまるすべてに○をつけてください。(問3で「1～13」と答えた者:525人)



【現状】

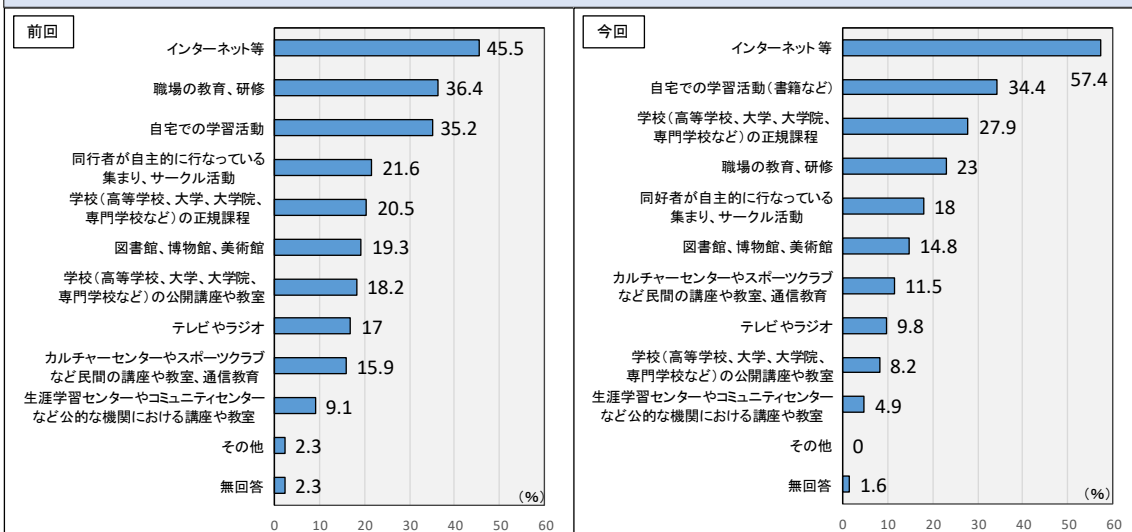
・前回の調査と比べて、インターネットの利用が30.9%から42.9%へ大幅に増加している。それに伴い、テレビ・ラジオの利用が25.5%から21.3%に減少している。

【課題】

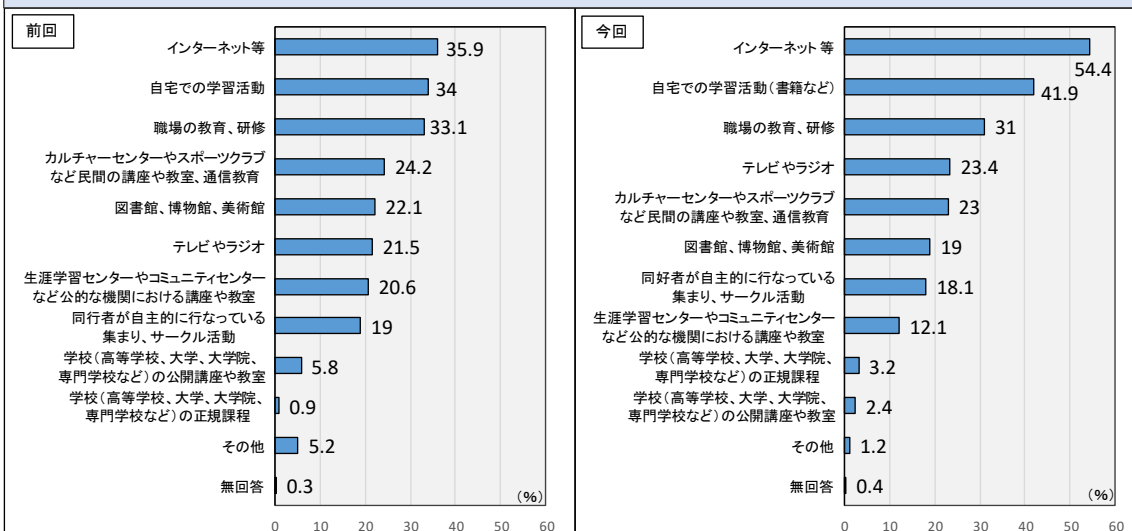
・学びの多様化を意識しながら、インターネットを活用した学びの機会の提供を進めていく必要がある。

年代別 利用機会

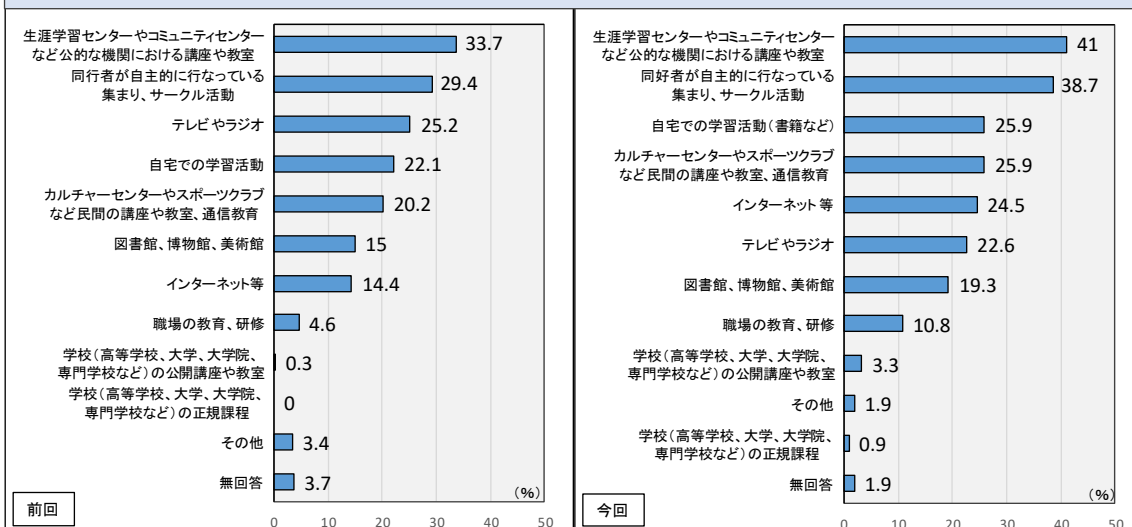
18～20歳代



30～50歳代



60～70歳以上



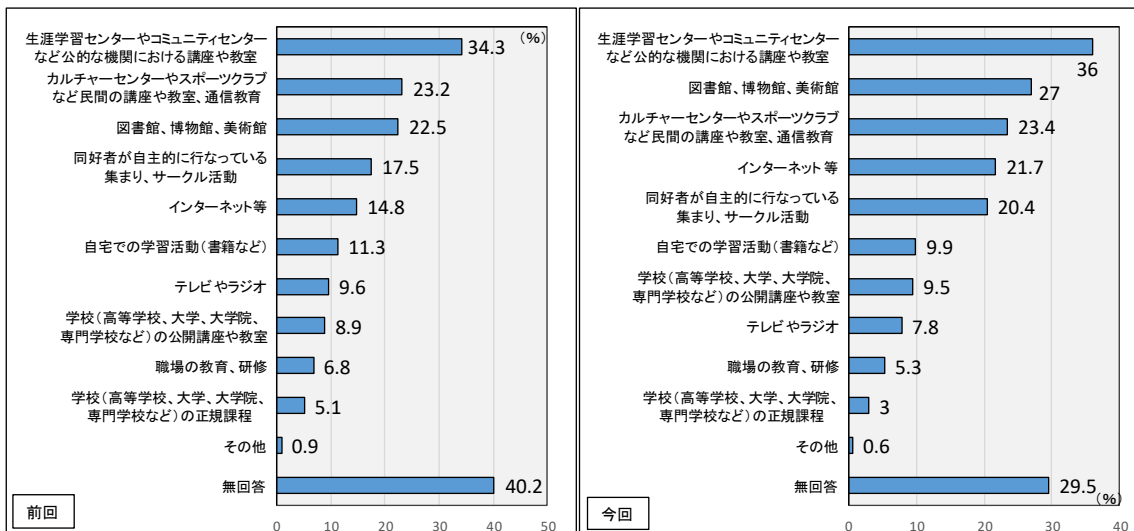
【現状】

・50歳代までは、インターネットを利用して学習しているが、60歳代以上については、公的な機関における講座や教室を利用している学習機会が多いという傾向が伺える。

【課題】

・コロナ禍における生涯学習推進の方法として、インターネット等を利用した学習方法が増えてくることが予想されることから、特に60歳以上の方のインターネット等の利用促進が課題である。

問7. 問3で「1～13」と答えた方におたずねします。今後、利用したい機会を上記の中から3つまで選んで番号をご記入ください。※利用したい機会がなければ無記入でもかまいません。(有効回答者数:525人)



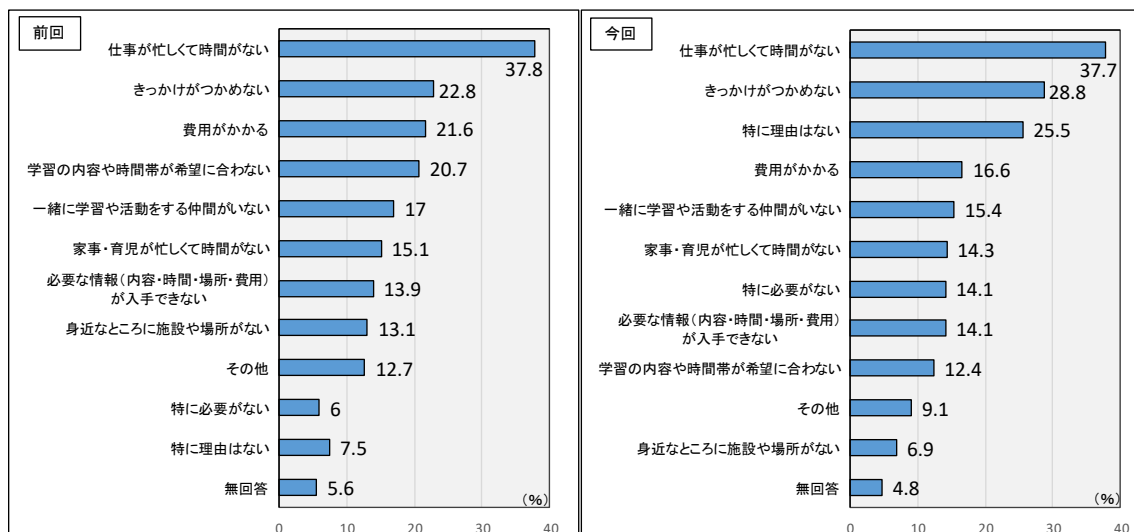
【現状】

・前回の調査と比較して、学習機会に「インターネット等」を利用している割合が増加しているものの、公的な機関における講座や教室、サークル活動の割合が高い。

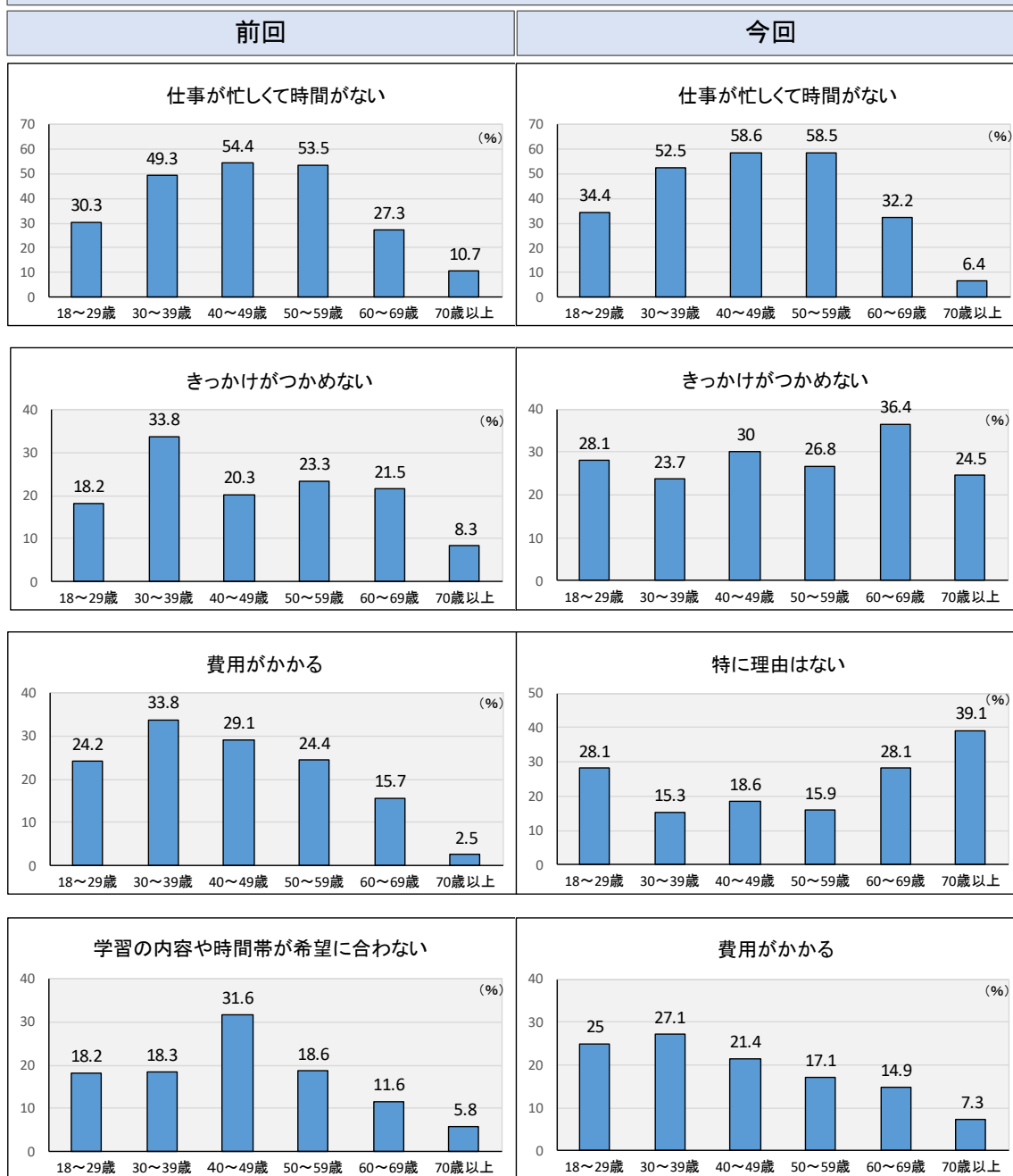
【課題】

・コロナ禍における生涯学習推進の方法として、インターネット等を利用した学習方法のニーズが高まってくることが予想されることから、講座や教室、サークル活動と共に、インターネット等を利用した学習機会を増やしていくことが必要である。

問8. 問3で「14」と答えた方におたずねします。あなたが生涯学習を行っていない理由は何ですか。当てはまるすべてに○をつけてください。(有効回答者数:475人)



年代別 上位4項目の回答率



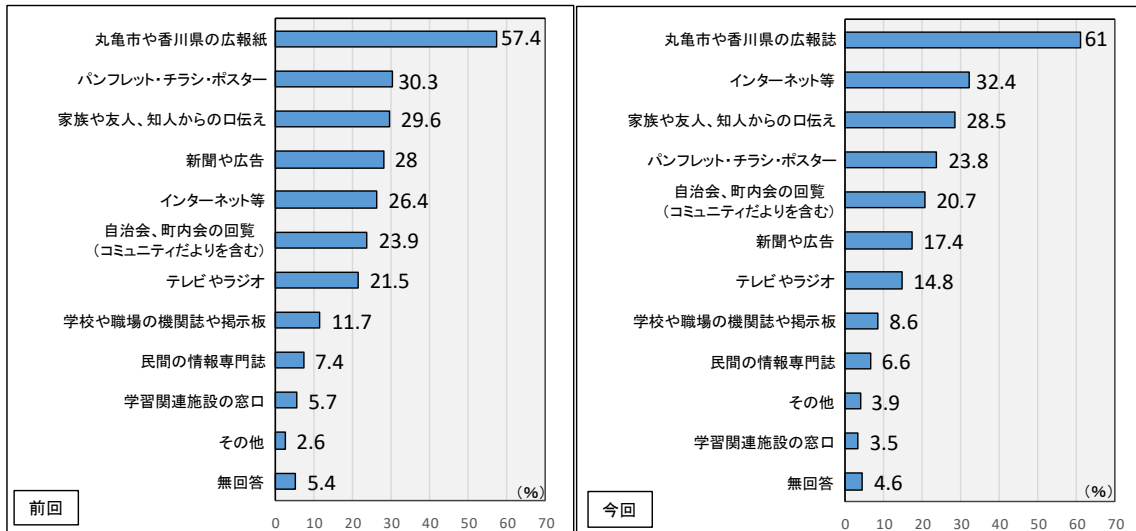
【現状】

・前回の調査と比較して、割合は異なるものの、30~50歳代において「仕事が忙しくて時間がない」理由が多く見られ、60歳代において「きっかけがつかめない」理由が多く見られた。60歳代以上について、「きっかけがつかめない」、「特に理由はない」が大幅に増加している。

【課題】

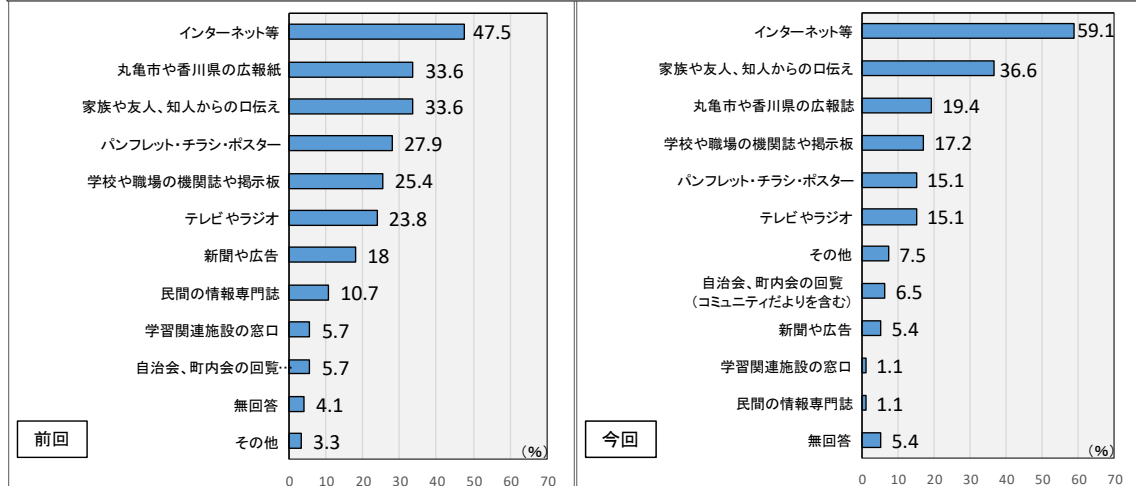
・この層の参加意欲につながるきっかけとなる企画と、目に止まる発信の仕方が重要である。

問9. あなたは、生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。当てはまるすべてに○をつけてください。(有効回答者数:1,000人)

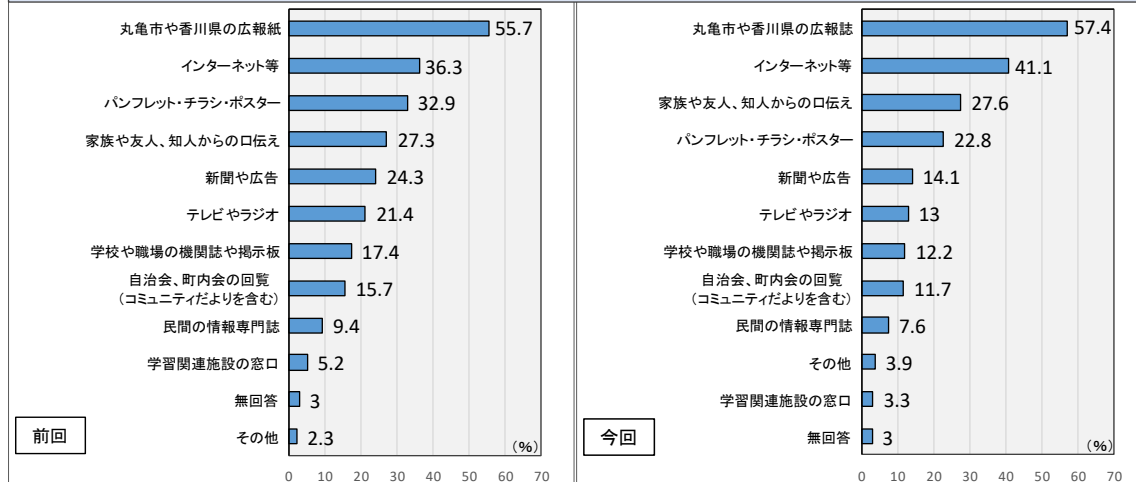


年代別 情報入手方法割合

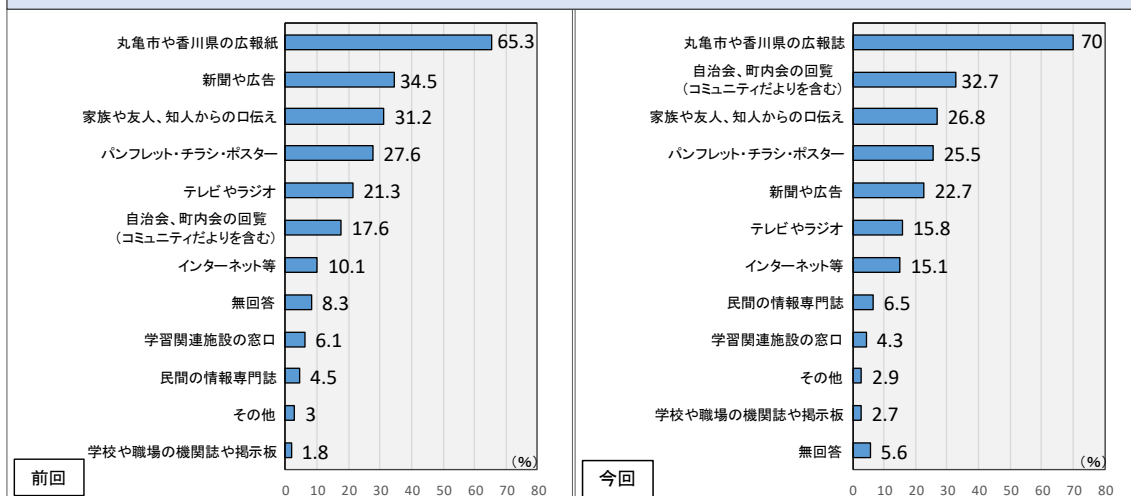
18～20歳代



30～50歳代



60～70歳代以上



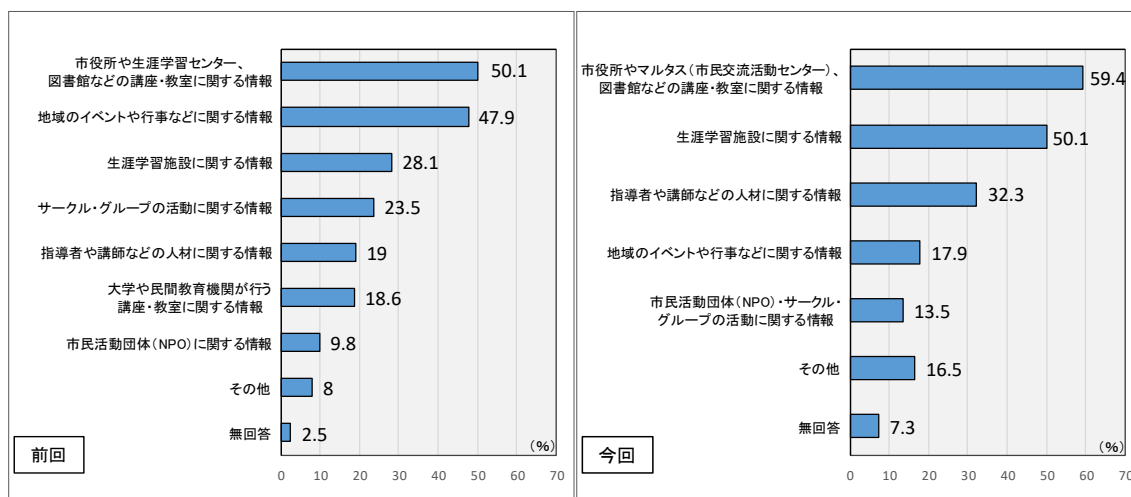
【現状】

・前回の調査同様に、「丸亀市や香川県の広報誌」から情報を得るケースが約60%と圧倒的に多いが、若い年代層ほど「インターネット等」から得るケースが多く、全体においても前回の5番目から今回2番目に上昇している。

【課題】

・幅広い年代層が生涯学習活動に取り組んでもらうために、広報誌やインターネット等をベースとした情報発信を心掛ける必要がある。

問10. あなたは、生涯学習に関してどのような情報があったら良いと思われますか。3つまで○をつけてください。(有効回答者数:990人)



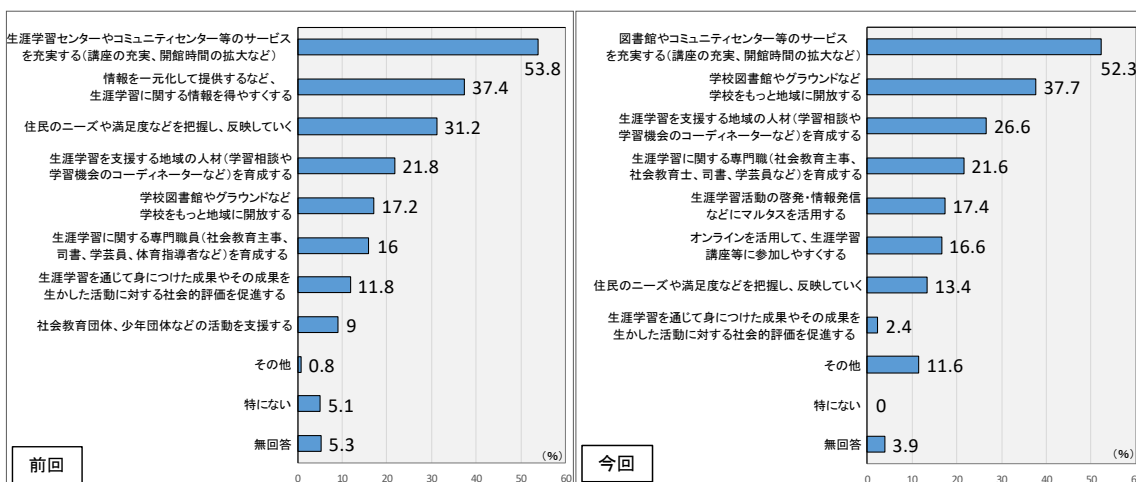
【現状】

・前回の調査同様に、「市役所やマルタス、図書館など公共施設における教室や講座に関する情報」を求めているケースが多く見られる。また、コロナに影響を受けてか、「地域のイベントや行事に関する情報」は47.9%から17.9%と大幅に減少している。

【課題】

・「指導者や講師などの人材に関する情報」を求めているケースも増えているため「人材バンク」の整備をする必要がある。

問11. あなたは、これから丸亀市で生涯学習をもっと盛んにしていくためには、どのような取組が大切だと思いますか。3つまで○をつけてください。(有効回答者数:987人)



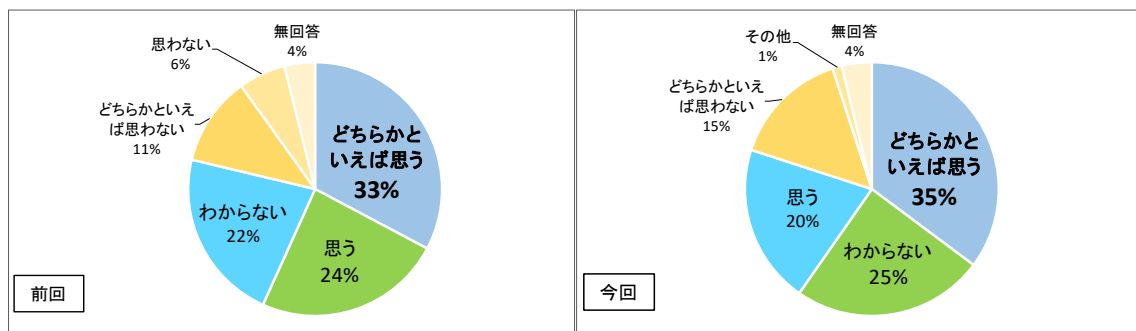
【現状】

・前回の調査同様に、「図書館やコミュニティセンター等のサービス充実」を期待する意見が多くなっている。その他に「学校図書館やグラウンドなど、学校をもっと開放する」ことが大切だと思っている人の割合が17.2%から37.7%へ大幅に増加している。

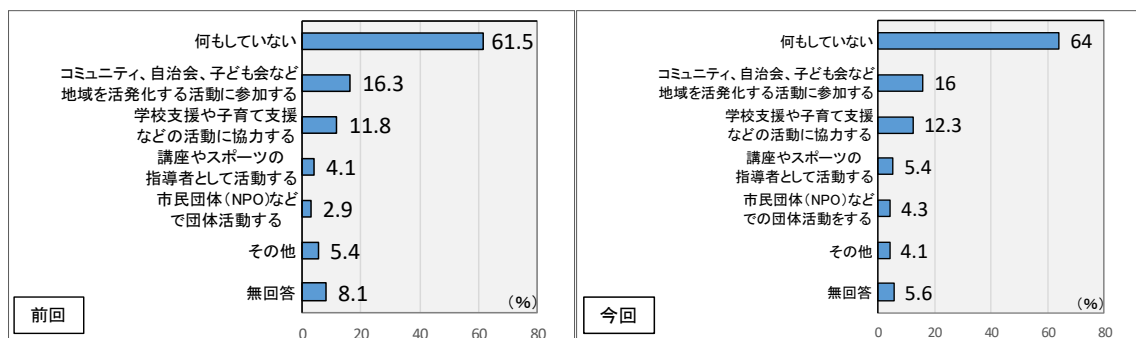
【課題】

・公的施設のサービス充実を図るほか、学校と地域の連携・協働事業の更なる充実を図り、学校開放事業拡大に繋げていく必要がある。

問12. あなたは、学んだ成果を地域社会で生かしたいと思いますか。1つだけ○をつけてください。(有効回答者数:998人)



問13. あなたは、学んだ成果をどのような方法で地域社会に生かしていますか。当てはまるすべてに○をつけてください。(有効回答者数:1,000人)



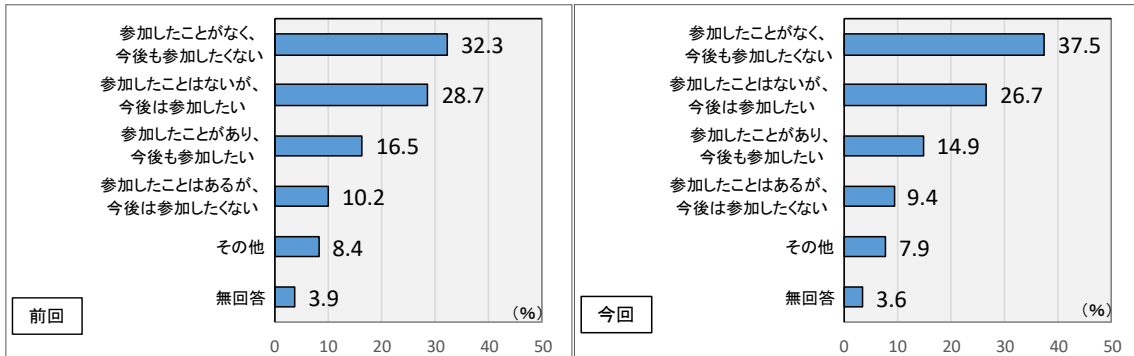
【現状】

・前回の調査とほぼ同数となっている。「思う」「どちらかといえば思う」が55%と半数以上の方が学んだ成果を地域で生かしたいと考えているが、それに対して実際は「何もしていない」が64%という結果となっている。

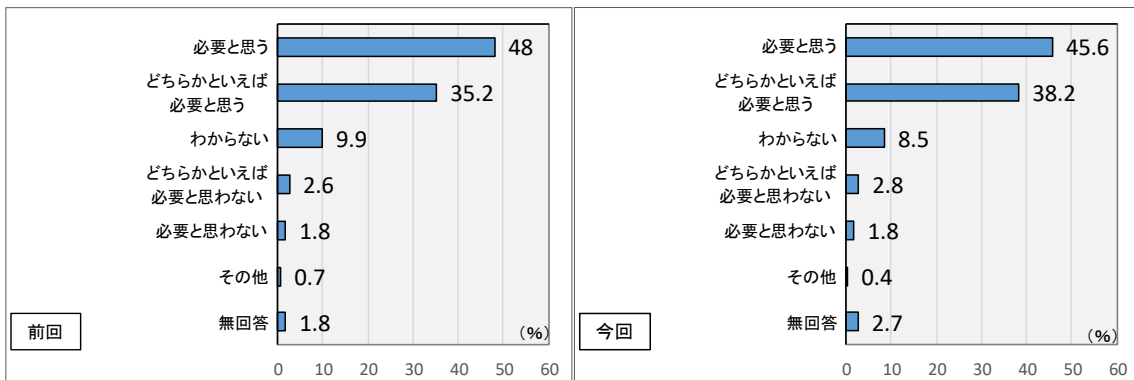
【課題】

・具体的な方法を示しながら、地域のイベント等を通じて生涯学習を地域社会へ結びつけていくことが大切である。

問14. あなたは、子どもの見守りや交流活動など学校を支援する活動に参加したことはありますか。1つだけ○をつけてください。(有効回答者数:1,000人)



問15. 地域住民が、学校を支援する活動は必要だと思いますか。1つだけ○をつけてください。(有効回答者数:999人)



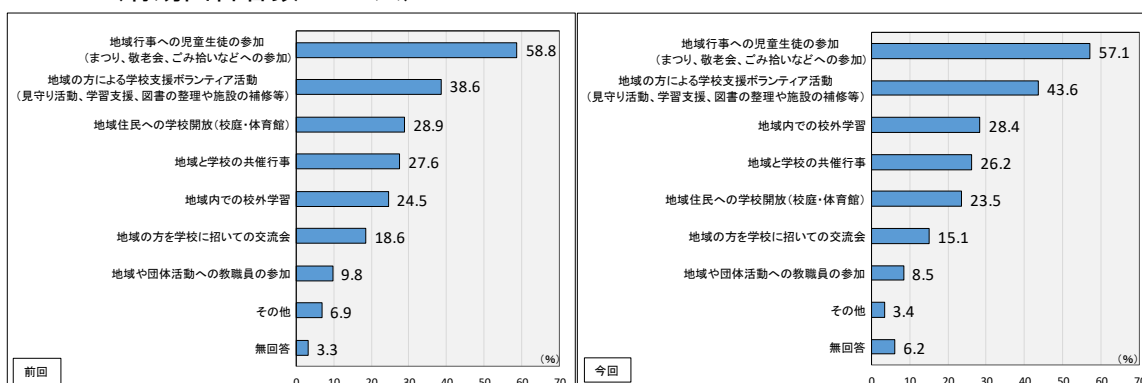
【現状】

・前回の調査と比較して、「参加したくない」と考えている人が、「参加したい」と考えている人を上回ったが、8割以上の方が活動として「必要」と思っている。

【課題】

・地域全体で子どもたちの成長を支援するという取組の重要性の意識付けと、学校を支援するための多様な方の参画を得るための仕組みや体制づくりを更に検討する必要がある。

問16. 学校と地域がどのように連携すれば良いと思いますか。3つまで○をつけてください。
(有効回答者数:996人)



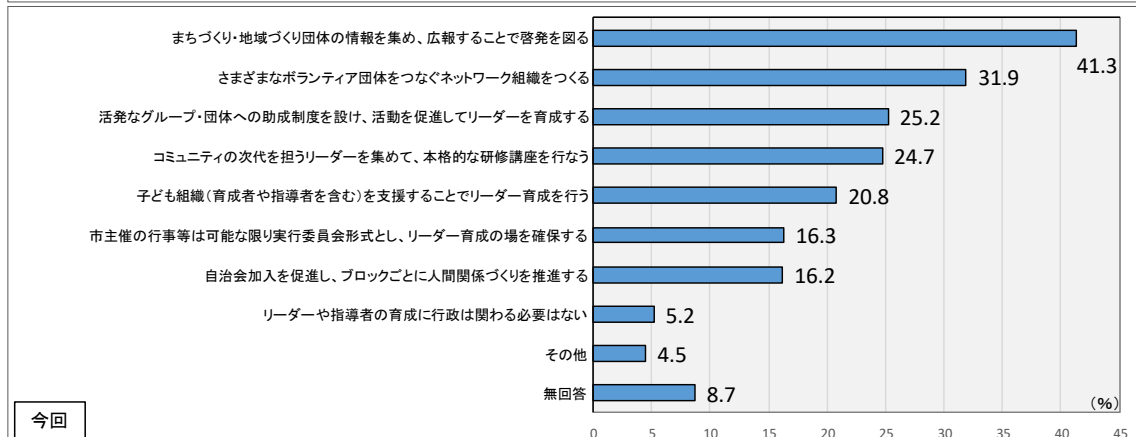
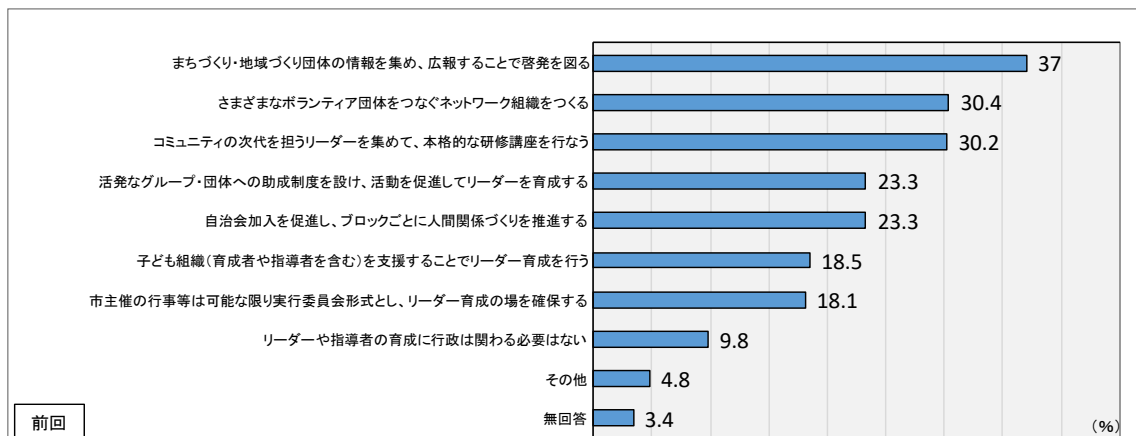
【現状】

・前回調査と比較して、上位2項目である「地域行事への児童生徒の参加」は、ほぼ同じ割合、「地域の方による学校支援ボランティア活動」は38.6%から43.6%へ5%増となっている。

【課題】

・従来から実施されていた学校と地域の連携・協働事業を継続することの重要性が再認識できる結果となった。コロナ禍において、行事が中止となるケースが増えている中、いかにして学校と地域の連携を維持・発展させていくかが課題である。

問17. コミュニティには、多くのグループや団体・組織がありますが、生涯学習を通して、リーダーや指導者を育成していくために必要なことは何だと思えますか。3つまで○をつけてください。※コミュニティとは、概ね小学校区を単位とし、地域づくりを目的に形成された組織を指します。(有効回答者数:999人)



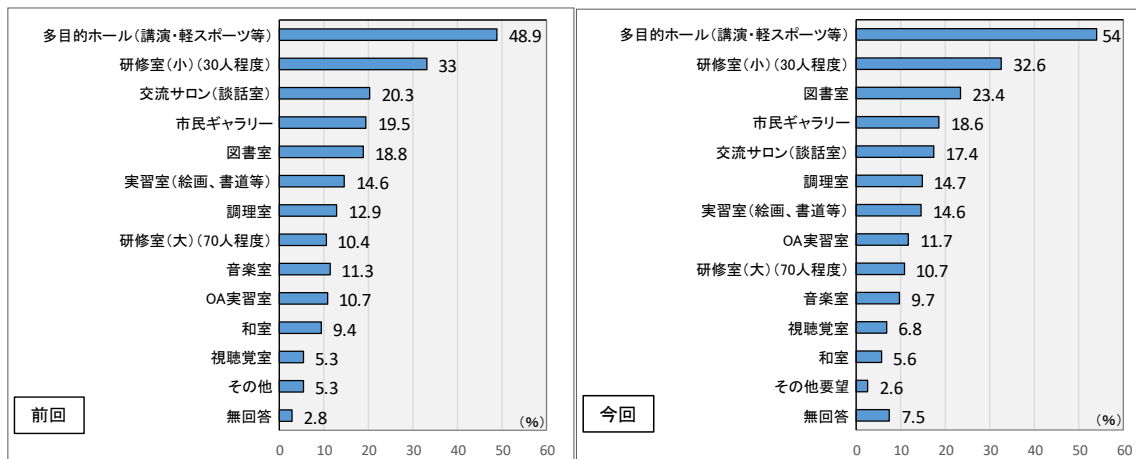
【現状】

・前回の調査と比較して、「まちづくり・地域づくり団体の情報を集め、広報することで啓発を図る」は37%から41.3%へ4.3%増、「コミュニティの次世代を担うリーダーを集めて、本格的な研修講座を行う」は30.2%から24.7%へ5.5%減となっている。

【課題】

・生涯学習を通じて、リーダーや指導者を育成していくためには、まちづくりや地域づくり団体の活動情報を積極的に発信していくとともに、市主催の講座等もPRしていく必要がある。

問18. あなたは、学習活動を行ううえで、どのようなスペースがあれば良いと思いますか。3つまで○をつけてください。(有効回答者数:993人)



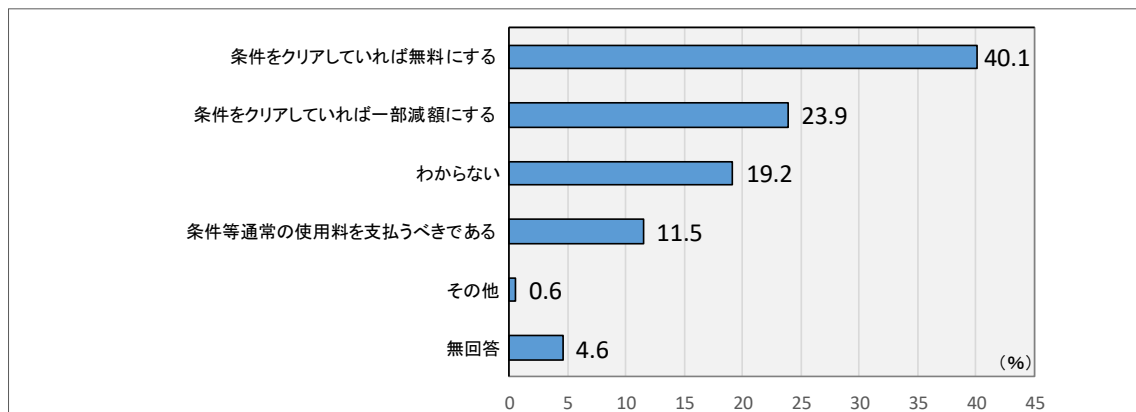
【現状】

・前回の調査と比較して、上位2項目である「多目的ホール」は5.1%増、「研修室」はほぼ同じ割合であるが、「図書室」は4.6%増で5番目から3番目に上がっている。

【課題】

交流サロンの割合が減少して、図書室の割合が増えたことについては、コロナ禍の影響があったものとして考える。学習活動がしやすいように、限られた施設スペースにおいて、どのような機能を優先するかの見極めが重要である。

問19. 生涯学習活動に関する施設の使用料についてどう思いますか。1つだけ○をつけてください。(有効回答者数:999人)



【現状】

・新設項目であるが、条件をクリアしていれば、「無料にする」が40.1%、「一部減額する」が23.9%となった。一方「通常の使用料を支払うべきである」が11.5%という意見もある。

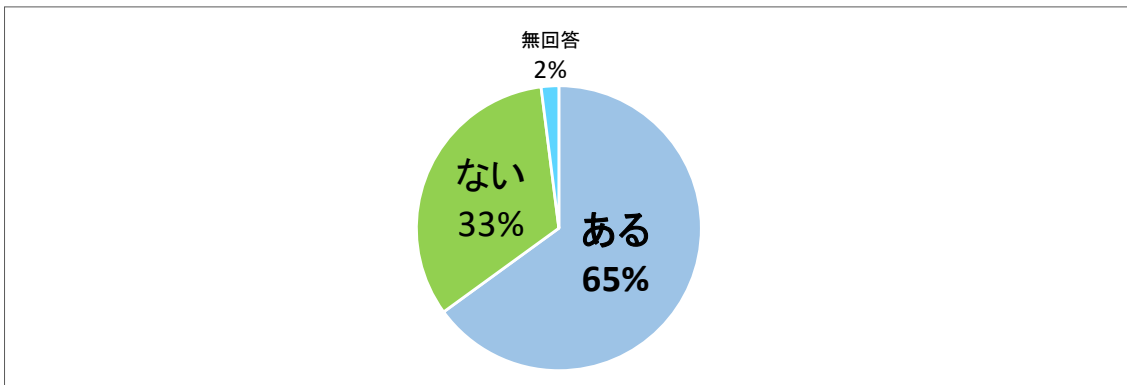
【課題】

・意見が拮抗しているので、減免制度の適用については、受益者負担の原則への配慮が必要である。

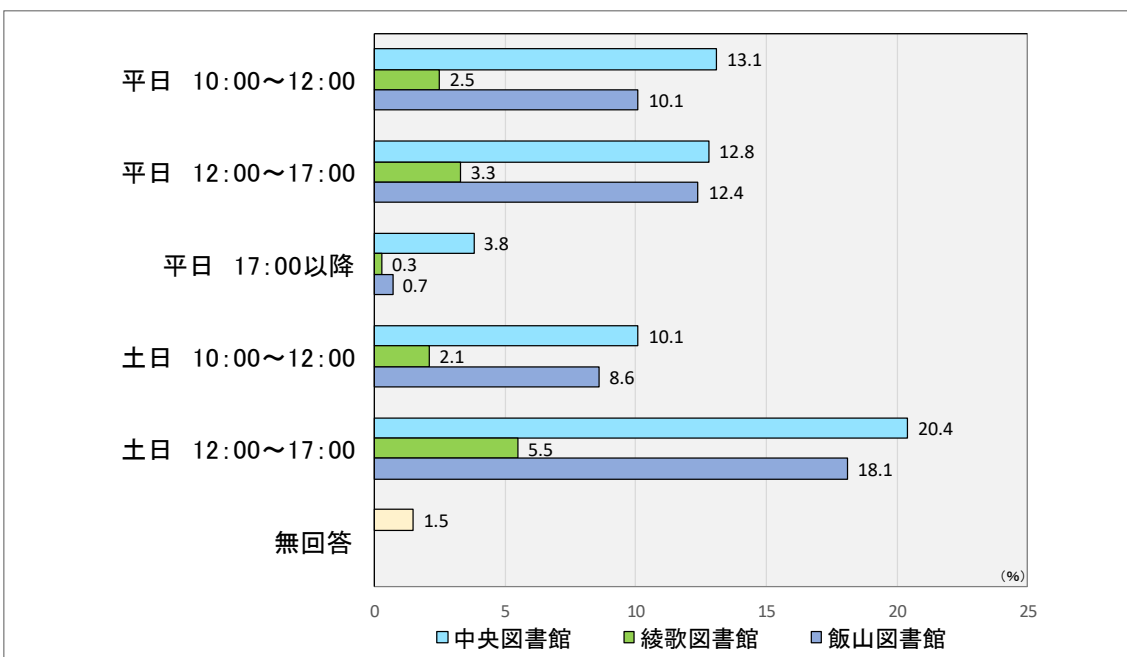
丸亀市の図書館について

問20. 丸亀市内の図書館を利用したことがありますか。どちらかに○をつけてください。

(有効回答者数:1,000人)



問21. 問20で「1」と答えた方におたずねします。よく利用する時間帯はいつですか。ご利用の図書館ごとに1つ、○をつけてください。(有効回答者数:651人)



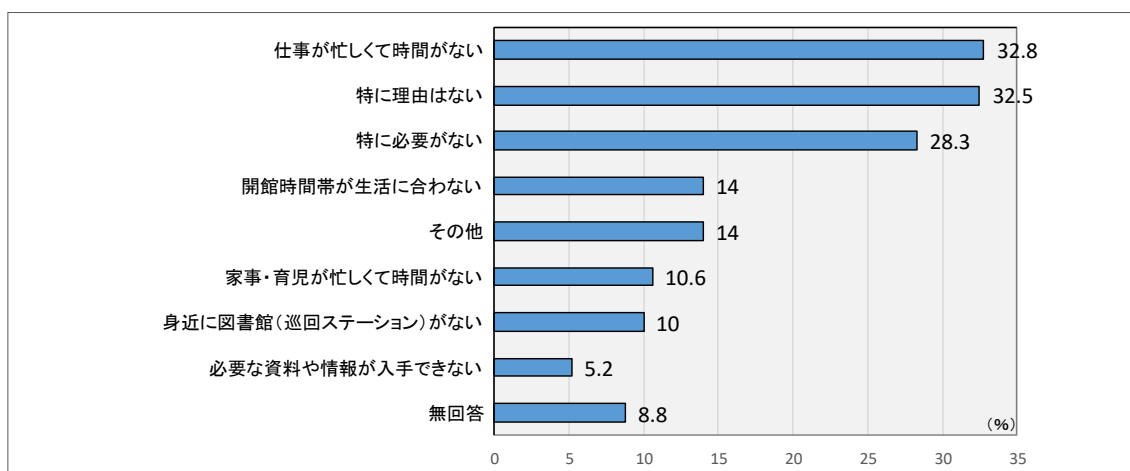
【現状】

・今回の調査では、市内の図書館を割合として、3人に2人が利用しているという結果であった。よく利用している時間帯は、市内3館ともに土日の午後が多くなっている。平日については、日中の利用が多く、17時以降の利用は少ない。

【課題】

・12:00~17:00(特に土日)の利用が多いため、利用者向けのイベントや講座、教室等についてはこの時間帯に実施すると効果が大きいと考える。

問22. 問20で「2」と答えた方におたずねします。あなたが図書館を利用しない理由は何ですか。当てはまるすべてに○をつけてください。(有効回答者数:329人)



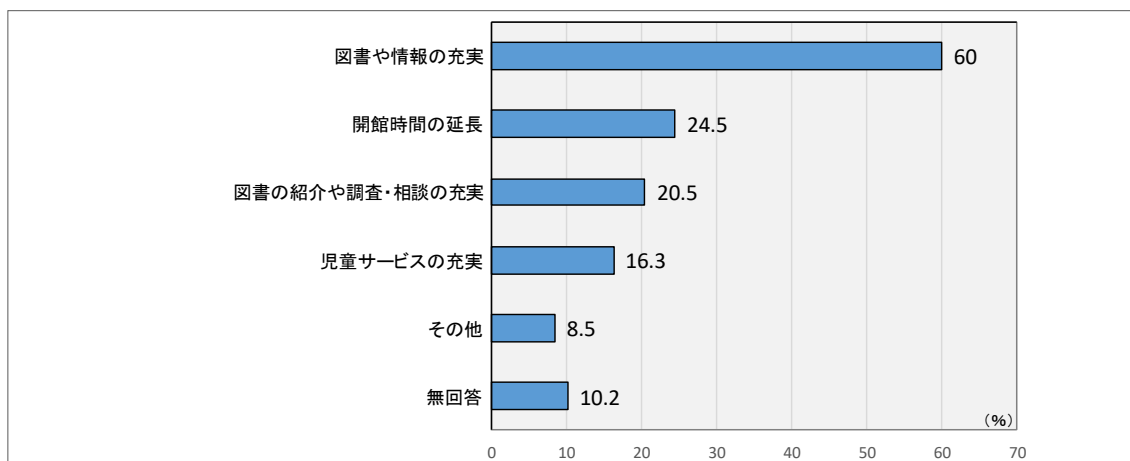
【現状】

・今回の調査では、市内の図書館を約3人に1人が利用していない結果となった。主な理由として、「仕事が忙しくて時間がない」、「特に理由はない」、「特に必要がない」が上位3項目になっている。

【課題】

・「特に理由はない」や「特に必要がない」という理由で利用していない人へ、関心を持ってもらえるようなアプローチ(広報など)を検討する必要がある。

問23. あなたが、図書館サービスに望むことは何ですか。2つまで○をつけてください。(有効回答者数:998人)



【現状】

・今回の調査では、60%の方が「図書や情報の充実」を望んでいる。

【課題】

・利用者のニーズを把握し、図書の充実や情報発信等に繋げていく必要がある。

自由記載

その他ご意見等ありましたら、ご自由に記載ください。

以下からは、いただいたご意見を施策ごとに分類して記載しています。

<1.学びの環境に関する意見>

| |
|--|
| 1-① 情報発信 |
| 今回、このアンケートの案内をいただくまで、「生涯学習推進計画」に市がいろいろな取組をしていることを知りませんでした。日々の忙しさの中で、自分が長年住んでいる市のことなのに、お恥ずかしいながらあまり考えてみたこともありませんでした。現在は、子供も成長し、社会人となり、私自身も時間的な余裕もできたので、生涯学習や地域貢献などを始めてみたい気持ちになりました。まだ自分では何ができるのかわかりませんが、できることを探してみようと思います。丸亀市のワクワクするような情報発信！楽しみにしております！ありがとうございました。 |
| まずはどんな活動をしているか、行事があるのか、どんなサービスがあるのかを、地域に広く知ってもらうことが大事だと思います。いい活動をしていても、あまり知られていないのは、もったいないです。次に子どもからお年よりまで、自分も参加してみようかなと思う。「とっつきやすさ」一日体験とか、お祭りや発表会の場で、「どなたでも参加できますよ」と呼びかけるとか。気軽に足を向けられるような敷居の低さが大事だと思います。そして各活動、団体のつながり。全くジャンルの違う活動団体でも、何かの行事を通して、お互いを知り合うことで、緊急時や災害時に大きな力になると思います。まずは知ってもらうことから。家にいると情報が入ってきませんから。生涯活動を通して、地域から孤立や孤独がなくなることを願っています。ありがとうございました。 |
| 参加しやすく生活を豊かにする情報や活動の提供。 |
| 定年退職後、ボランティアなどに参加したいが、参加の仕方も分からず、丸亀市でどんな活動が行われているのかも知らず、そんな情報の分かる所を教えてください。 |
| 忙しい子育て世代の人達にもっと「生涯学習」が浸透すれば、より良い地域社会を作るきっかけになるのではないかと思います。 |
| 地域の中で、つながりをもて、教育を生かせる市になっていけたらと思います。介護福祉士やケアマネージャーの資格を活かせたらと思います。園芸に興味があるので、教えてくれる方がいればと思います。今日ネットで学んでいます。 |
| 生涯学習活動を知らない方が沢山いる。自分は料理教室活動によく参加させてもらっていましたが、そういった活動があるのか全然知られていない。もっと知ってもらうようにポスターや市のホームページに載せるなりしないといけないと思う。若い人達はマルタスの存在とか知らないと思う。ポストに投函だけじゃなく、学校で配ったりなどしても良いと思う。 |
| 私は民間の英語教室に通っています。今の先生に出会えるまで沢山の時間も使い探しました。市のカルチャーセンターや他の市のカルチャーセンターも探しましたが、選べる時間帯も少なく、自分の休みや自由になる時間とは合いませんでした。もっと色々な語学を勉強したいですし、生涯学習にも出会いたいと思っています。その為にはもっと丸亀市での学習できる内容や先生の人数を増やさないといけないし、利用する側にも、もっと認知してもらわないと難しいかと思います。 |
| このアンケートを通して、改めて生涯学習に取り組んでいきたいと思いました。これからも生涯学習に取組やすい環境づくり、生涯学習へのきっかけとなるような情報・アンケート等を発信してほしいです。 |
| 丸亀市に住んで3年近くになりますが、子供もおらず地域の人々との交流もありませんので、コミュニティセンター等でのような学習ができるのか全くわかりません。私が高いお金を払ってとった資格もそのような所で、似た内容のことが学べたと思うと残念です。もっと一人暮らしの若者(特に県外移住者)にも情報がわかりやすいような工夫が欲しいです。「広報まるがめ」のようなものではなく、もっとチラシみたいな読みやすくて分かりやすいものをポスティングして欲しい。 |
| 趣味と特技、やりたい事と活かしたい事、他人の学習欲を手軽に紹介するシステム、求める人材、技術能力活かせる場づくりの紹介。 |
| 最近、療養中の病気の状態がやや軽快し、少しずつですが、外出をすることができるようになりました。図書館や美術館等を利用したいと考えています。また、丸亀城も見学したいと思っています。その際に、有用な情報を、より広く広報して頂ければと思います。 |
| 情報の発信が弱い、広報やパンフレットを置いているだけではダメ。最低、自治会単位で、こういう講座があるとか知らせれば学習する人が増えると思います。 |
| 1-② 講座・人材の充実 |
| 市の生涯学習にどういったものかわからなかったため、このアンケートが届いて初めて市のHPからPDFをダウンロードして確認しました。色々なクラブが存在することができました。参加者の年齢が高そうなイメージがあります。また、各講座の難易度が分からないため、興味があっても、一人でそのコミュニティに飛び込んでいくのは勇気がいると思います。誰かと一緒に参加するのなら楽しそうですが、どの講座も月謝が安いので、子供にも対応したものがあればいいなと思います。 |
| 終活の講座があれば参加したい。 |

| |
|---|
| だれが比較的自由な形でそれぞれに合った活動が可能になるよう、さまざまなチャンネルを用意してもらいたい。 |
| スマホ・タブレットなど気軽に教えていただける学習室を設けて欲しい。 |
| 今後…起きるであろう水害や震災への対策や備えその後の生活の智恵や様々な事を学ぶ体験をする機会があるといふ。(食事やトイレの工夫) |
| 生涯学習という言葉が漠然とし過ぎていないか？年齢層や地区など、様々な要素で区分した団体を形成し、数人のリーダーのもと、継続的な発展的な少集団を多く作っていく事で、細やかな部分での参画意識も高まっていくと思う。趨勢的には、人口減、高齢化は必然だし、流入人口を増やす事に注目していても、既存住民とのコミュニティ作りは、すぐにはできないと思う。受け皿としても、交流の場としての位置付けを啓蒙しておくべきだし、子供達にも将来的な県外定住よりも地元永住を導くために、道筋として高齢者の社会作りを優先する目的を持って、活かせる学習メニュー作りを希望するし、リーダー作りに期待する。 |
| ハード以上に重要なのがソフトだと思います。能力、展望をもって企画実行していき、各分野で地域社会、子どもたちのために資していくやる気とバランス感覚をもった個性的人材を市はたくさん登用して欲しい。年度ごとに予算を消化して、そこそこの活動の場を提供すればよいというスタンスには決してならないでいただきたい。 |
| 各人に合った人材資源の活用の場。 |
| 学校教育の場合、部外講師を多く招聘して、様々な分野で活躍する人物との交流機会を増やすとよいと思う。将来の職業選択の幅を広げる機会を設けることは、学習意欲の向上に繋がると思い、又、教職員のスキルアップを図ることができると思う。 |
| 1-③ インターネット、オンライン |
| 某生涯学習に参加した際に、同参加者の一人より重犯罪被害を受けたことがあります。直接参加型の生涯学習だけでなく、インターネット参加のものを増やして欲しいです。 |
| 学校と地域との連携もコロナ禍でなかなか自主的に申し出ることは困難。終息したとしても、学校も年間予定もあり、学校側の受け入れ準備に、忙しい先生方に申し訳ない気もする。なので、学校側から提示あればどんどん協力できると思う。タブレット配布して頂けたらユーチューブでも生涯学習活動が可能。調べ物も図書館よりインターネットがいつでも可能。利便性が高い。(丸亀市はたくさんお金があるのなら)補助金でもありがたいです。 |
| インターネット、SNS等で発信していくべきだと思う。 |
| コロナ禍で生涯学習をしたくてもできない状況にあると思います。安心して行事(事業・研修)に参加できるよう、どのような環境設定をしているのかなどの情報を詳しく発信していただければと思います。そして、Zoomなどインターネットを活用した学習方法を今から準備計画していく必要があると思います。 |
| 現在、コロナ禍で新しい変異種が次々と出てきている状況。人が集合して行う研修はクラスターにつながり、難しくなってくると思われる。これに対しては、ネットを利用するしか方法がない。しかし、ネットは1.パソコンを持っているか否か、2.操作が必要(PCの)等をクリアしないとイケない。 |
| まだこちらに住んで2年です。働いているとなかなか生涯学習に取り組む時間がとれません。情報収集だけでも正直面倒に感じます。オンラインやオンデマンドでの配信とか、ラインで情報提供(インスタやツイッターでも)などがあると、これなら参加できそうとか、こんなのがあるのかとかと知るきっかけになるように思います。 |
| 1-④ 子育て世代の意見 |
| 子育て中でも学習の場が設けられるよう、託児や一時保育など子どもを預けながら利用できる場があれば嬉しい。(一時保育の充実)子どもがいるとゆとり本を選ぶことができない為、子ども向けの支援サービスが充実すると嬉しい。 |
| 子どもが小学校に入学してから、書道教室に子どもと一緒に通い始めました。今年で3年ですが、大変な時もありますが、楽しく続けています。「子どもと一緒に」というのが、一番良いのかもかもしれません。図書館の利用も子どもと一緒に行くことが多いので、親子一緒にできる講座みたいなものが増えると、子どもとの時間も増え、生涯学習する機会も増えるのではないかなと思います。 |
| 丸亀市は、子育て世代への支援が非常に充実していると思います。娘といっしょにいろいろ参加させてもらっています。ありがとうございます。コロナで大変だと思いますが、がんばりましょう！ |
| 生涯学習の教室の紹介など、子供だけでなくその保護者へのお知らせなどをすれば、子育て以外に趣味などを充実させることができ、お母さんお父さんが楽しみをもって生活することが、子育てにもいい影響が出ると思います。子どもを預けてゆとり学べる環境づくり(一時的に子供を預かる)も充実していると学びやすくなると思います。 |
| 市内に平面で広く、トイレや炊事施設もある野外キャンプ場があるといいなと思います。畦田キャンプ場は急な斜面に区画があり、トイレ、炊事も区画から離れているため、子ども連れには利用しにくいです。県内外の利用しやすいキャンプ場(マリンパーク新居浜、塩江いこいの森など)は現在、コロナ禍で行けなかったり、キャンプブームで人が集中しています。子育て世代には野外活動を通して学べることも多く、また親もそこで知り合った人々で新たな集いの場が生まれるのではと思います。そこで、年配の方から伝承遊びや暮らしの知恵を教わったり、世代を超えた交流にも繋がるかなと思います。もし、現在あるコミュニティで上記のような交流ができ、いい場所もあるのでしたら、情報発信して頂きたいです。子どもがきっかけで親も交流、学べる場へとつながると思いますので、情報発信よろしく願います。 |

| |
|---|
| 1-⑤ スポーツ |
| テニスコートの予約や入退出管理、支払い(ネット決済)などオンラインで出来るようになって欲しい。 筋トレ教室やウォーキング会等が多々あれば参加したい。 綾歌町に市営球場(軟式でも可)を作って欲しい。 子供たちがゲームやインターネットを利用し人との交流が減っているので、スポーツなどの交流会を増やして欲しい。 趣味とかスポーツ等やりたいと思う。きっかけが出来ない。 |
| 1-⑥ まちづくり(お城、駅前、商店街) |
| 生涯学習も今後さらに充実させていくべきだと思いますが…日本でもあまり例を見ない駅前にすばらしい美術館があったり、歩ける距離でお城があったり、港までも近く、コンパクトに充実の施設があり、とてもすばらしいと思いますが、市民がゆっくり散歩できる道や少し休んでお茶をする場所が全くありません。丸亀城の周辺には観光客も多く、丸亀市は素通りの街となっています。商店街、魅力的な店など市は大型ショッピングセンターではなく、丸亀城や駅前にこそ、何かと足を止めるものを作るべきです。安物のホテルなど必要ありません！是非、丸亀をみんなが好きな街に…。 |
| お城をもっと有効活用できたらと思います。私が子供の頃は人もたくさんいてにぎわっていたなあと。県外の人呼び込むよりも、市民がたくさんいる様な地元のいこいの場になればと思います。 |
| 新庁舎も出来て、これからの丸亀を背負う若い人たちが活躍出来るように支援よろしくお願いします。まず商店街の活性化を早くして欲しいです。一日も早く、活気あふれた丸亀市になりますように。 |
| お城を中心とした文化都市を目指すべきである。 |
| 1-⑦ コロナ |
| 昨年からはコロナで何もできないので、速く終息出来たらいいなと思います。 |
| 現在、コロナ禍生活の為、自由な行動がとれないので早く終わる事を願っています。 |
| 早くコロナが治まらないと何も始まらない。 |
| 介護で短時間でも日時を決めての予定を作れない。又、コロナ禍でなかなか人が集まる場所は避けたいのが一番。自分の啓発のため、何か挑戦できる日が早く来て欲しい。 |
| 1-⑧ ボランティア |
| 生涯学習で地域ボランティアをして下さっている方にも、このコロナの中、色々して下さっているの、多少は謝礼を支払ってはいいいのでは？そうすると年配の方々60歳以降の方も、もっと外に出て活動が増え、いくらボランティアといっても、そのくらいは地域の方々の為にしてくれているので良いのでは？ |
| 主人(10年くらい前)出張等が多いが、空き時間の時もあるので、「学校の見守りをしたい」と申し出たがダメであった。その通学路は今も誰もいない。 |
| 子供が小学生です。地域で見守り活動をして下さっている方々には本当に感謝しています。 |
| 1-⑨ 障がい者 |
| 障がい者施設に勤めています。障がい者に対する理解を深める運動をしていきたい。その機会をつくるためにどうしたらいいのか？ |
| より良く地域が発展する為に、健常者と障がい者の交流を深められるサークルもしくは団体活動をして頂きたい。特に聴覚障がい者でも住みよく、困った時に頼れる場を設けてほしい。聴覚障がい者に対する理解を広くしてもらいたい。小豆島のように、若手の芸術アーティストの卵や、広報活動をより出来やすい環境が増えてもらいたい。 |
| 我が家は知的障がい児を抱えています。知的障がい児が利用できる(参加しやすい)生涯学習会を作って欲しい。親子、介助員と参加できる体操クラブや絵を描いたり、音楽を楽しんだり…。クッキングももし、今あるのなら、教えて欲しいです。 |
| 1-⑩ 妊活中 |
| 私は現在妊活中ですが、同じ思いの人が集まる場所があると嬉しいです。子供がいなくてママ友もできず、周りの人との出会いがないのでさみしく感じています。妊活中の人と、子供をあきらめた人、では心境が違うので分けて欲しいです。 |

<2.施設に関する意見>

| |
|---|
| 2-① マルタス |
| 3児の母をしています。他県から嫁いできたので丸亀市民歴はまだ浅いのですが、とても住みやすい町だと思っています。ただ、やはり土地勘や情報が少なく、子育てや仕事をする上で様々な事で悩んだ事もありました。行政から情報提供して下さる機会もあるので参加すればいいと思われる方もいますが、やはり踏み込むのには勇気があるのでなかなか知り合いも増えず孤立してしまう事もあります。マルタスのような広くて明るくてどんな人でもすぐに入っていける場所があるのはすごく助かります。外からも中の様子がわかるので入りやすく、キッズスペースでは同じような方が多いので過ごしやすいです。こんな明るく誰でも入っていけるような環境で、いろんな事が学習できたり情報交換できる場所を与えてくださると私たち子育て世代も入っていきやすいです。私もそうですが、自治会に入っていない(入る気もないのですが)ので情報が丸亀広報、学校、子ども園などと、得られる事も少ないです。小さなイベントでも、勉強会でも、体験会でも本当に小さな事でもいいのでたくさんの情報を、まずは得る事ができる環境をください。長々とすみません。これからも頑張ってください。 |

| |
|--|
| 市内の施設(マルタスなど)にストリートピアノを置いて欲しい。 |
| マルタスは素晴らしい施設だと思います。活用させていただきます。 |
| マルタスができ、さらに気軽に学べる場所ができだと思います。レクリエーション大会や講演会などを積極的に開いても良いかと思います。丸亀は、県の真ん中なので、西から高松までなら、気軽に来られますし、イベントを増やすのは、良いのではないのでしょうか？？頑張ってください！一緒に頑張りましょう！いつも市民のためにありがとうございます。 |
| マルタスのイベントを充実して欲しい。 |
| マルタスは、室内で飲食できるのも魅力的です。各図書館も同様にできたらと思います。 |
| マルタスに何回か行きましたが、カフェと図書コーナーが全面に出ていて、他に何があるのかが良くわかりません。(お年寄りが困っているのをみかけます)雰囲気は良いですが、どこに何があるかわかりにくく、あまり使い勝手が良い施設とは思えませんでした。 |
| コロナ禍に民間ならともかく、マルタスを開けて人と人が交流する必要はないと思う。今まで関西(京都、兵庫、大阪)や関東(東京、千葉、神奈川)に住んできたが、図書館をはじめ、生涯学習活動を行うには丸亀はレベルが低過ぎる。マルタスも税金を使って、今時こんなものしか造れないのかとがっかりした。これでは他の街との差はひらく一方だ。 |
| マルタスは小さな子ども～高校生の学習スペースとして利用できるとてもよい施設だと感じています。退職したシニアにとっても利用しやすいという声を聞いています。このような施設をもっと点在させると、コミュニティとして人が集まり、情報発信の機会も増えるように思います。親としては、小、中、高校生が勉強や遊びをのびのびとできるスペースがあると安心します。 |
| 先日、マルタスで勉強や本を読みました。とても広く使いやすく良い施設だと思います、これからも使わせてもらいます。 |
| 先の市長選挙公約に給付金についてのものがありました。実現しなくても、子育て支援や教育の充実を後回しにすることがないようにお願いしたい。巨額の投資をしたマルタスを今後、より良い施設として市民が利用できるものにしていくことを望みます。 |
| 2-② 図書館 |
| 図書館で見た目は普通ですが、自閉症なので大人でも子供の読む本を楽しみにして見たり読んだりする人がいます。その人のあとをついて歩く係員さんがいますが、遠くからの見守りにしてもらいたい。本人は追いかけているという気持ちで、いつもより歩くスピードが速くなり、パニックを起こします。付き添いの人に聞くとか、見守りしていただくとうれしいです。 |
| 図書館は孫とよくいきましたが、この頃はコロナで遠のいています。ネット社会になってきましたが、私の年齢では静かで落ち着いた空間での”旅”や”花の栽培”など、絵や字の大きな絵本を揃えていただければ嬉しいです。 |
| 後期高齢者になると、図書館など学習施設までの交通手段が充実していなければ、活用できません。赤字になっても、ローカルバスを活用できるようにして欲しいものです。図書館には古典書も充実して欲しい。(西・東洋問わず) |
| 中央図書館の身障者用駐車スペースにはほとんど車が止まっています。3スペースありますが短時間利用者(5～10分以内)にも使用できるようにしてもらえないでしょうか？現状道路に駐車して返却、借入れしている状況です。 |
| 図書館はよく利用します。とても助かっています。 |
| マルタスは、室内で飲食できるのも魅力的です。各図書館も同様にできたらと思います。 |
| 図書館で本を借りても、返却期日を過ぎてしまう事が多々あり、迷惑をかけています。貸し出し期間をもう少し延長する事は無理でしょうか？ |
| 丸亀市の図書館も電子書籍の貸出をはじめて欲しいです。いつもお世話になっています。ありがとうございます。 |
| 未就学児向けのエリア(個室)があれば子供とゆっくり本を選べるようになり、ありがたい。←飯山図書館への要望 |
| 2-③ 施設に対する意見 (大ホール他) |
| 市の中心部に大規模なホール、駐車場を有する市民会館を設立して欲しい。アイレックスは不便。有名な劇団、ミュージカル、音楽コンサートなどを見たいです。 |
| 今年で生涯学習センターの使用ができなくなりますが、その後の使用できる場所を、早く決定して文化協会などに知らせて下さい。場所がなければ何もできないのではないのでしょうか？ |
| 生涯学習で学んだ成果を発表等する施設の充実を望む。例)駐車場の問題や建物内の照明設備の改善等。 |
| 丸亀市の市民会館を早く作らないと文化がなくなる。講演や演劇等高松市や観音寺市へ遠方まで行かないといけない。丸亀市の行政は何をやっているのやら!!!大切なものにふれる機会をうばわないで…。 |
| 退職後の人が自主的に楽しめる場所を、今ある生涯学習センター近くに(車がなくても行ける所)ぜひとも欲しい。 |
| 常設で音楽活動に使える場所、常設できるしっかりしたギャラリーはぜひとも欲しい。 |
| 文化的活動をしている人が丸亀市民に多いのに発表できるきれいな施設が整えられていない。(ギャラリー) |

| |
|--|
| 2-④ 施設の開館時間、曜日 |
| コミュニティセンターが近いので、色々な行事に参加したいのですが、ほとんどが平日の昼間で、平日17時まで仕事、休みは日曜日のみは、全く参加できません。健康相談、講演会、健康体操、料理など興味あるのはたくさんありますが、全く参加できなく、とても残念です。講師の先生の都合もあると思いますが、日曜日に少しでも参加できるようにして欲しいです。逆に質問したいと思います。日曜日に行事などが無いのはどうしてですか？仕事をしている人も参加できるコミュニティセンターになるよう願っています。このままだとお年寄りメインのセンターになるのでは？いえいえ、初めからお年寄り相手のセンターなのですね？仕事をしている人は最初から相手にしてないのですか？それなら納得します。とても残念なコミュニティセンターです。 |
| 柔軟で臨機応変な対応が必要だと思う。人の多い少ないで開館時間の延長や短縮等を決めたらどうか？民間と同じような。 |
| 美術館、夜遅くまで開館している日があると嬉しい。 |
| 市民講座に参加したかったが、時間帯があわなくてあきらめたことが何度かあった。利用しやすい時間帯は人によって違うだろうが、もう少し幅があればと思う。 |
| 親子で参加できるのが、増えるといいなあと思います。日曜とか、夜とか仕事じゃない休日(土・日)とかに開催してもらえたらいいと思います。 |
| 広報に載っている講習会の開催時間が、平日の日中の時間帯が多く、フルタイムで働いていると、興味があっても参加できないことが多いです。働いている人も参加しやすい時間帯で開催して欲しいです。 |

<3.生涯学習に関する意見>

| |
|--|
| 3-① 生涯学習クラブへの要望 |
| 年一回提出する書類をもっと簡易にしてほしい事と、会計報告を無しにしてほしい。と言うのは、冷暖房費の徴収が有るだけで、皆からお金をもらっている。無料にしてくれたらお金の出入りがなくなるので全てよし。P.S.綾歌町時代は文化事業の団体に年間3万円近くの補助金が出ていました。 |
| 3-② 生涯学習活動に関して |
| 気持ちは若くてもいざ活動となると、思う様に体がついて行かない年齢的に。でも出来るだけ、体を動かしています。今、民踊を平成16年からクラブでコミュニティへ週3~4回行って、練習をして仲間との交流を楽しんでいます。コロナ禍の中でもストレス解消しています。 |
| 飯山の親子料理教室や陶芸教室に参加させていただき、子どもたちの心に残る活動ができました。図書館のイベントでも、作家さんに直接お会いできたり、ますます本に対して親しみが持てるようになりました。 |
| 英会話をマスターして、話が出来る様になること。 |
| すみません。自分は外に出るタイプではないので、終活もはかどらないし、畑仕事も忙しいし、毎日の家事もめんどろで…ただ楽しみは持ってます。ダラダラ好きな事をして、今が一番幸せです。役立たずなばあさんでごめんなさいね。 |
| 生涯学習の意味がよくわかりません。 |
| アンケート表紙「お願い」に生涯学習とは何？を記載して欲しかったです。どこまでの範囲のことを指すのか、よくわからなかった。 |
| 生涯学習とは何ですか。 |
| そもそも、丸亀市生涯学習推進計画とは何か、どういった内容かが理解できていません。私以外の市民にも浸透しているのか疑問です。このアンケート解答内容を基に次期計画を立てたところで、何か変化するものではないと思料されます。根本から考え直して、広く市民に学習推進計画を周知すべきと考えます。 |
| 今回のアンケートで”生涯学習”自体をどうしようかと言う動きがありますが、そもそも何をしているのか知りません。又、知る機会も限られています。まさに、知っている人のみ楽しみ学ぶ場となっていて、広く市民が自由に学べる機会になっていないと思います。開講も5月でしたか？それを逃すと講座も聴講出来ない閉鎖形の一部の人だけ活用している場に陥っていると思います。 |

<4.その他>

| |
|--|
| 4-① その他 |
| 生涯学習課のみでがんばってもだめでしょう。まず学校教育、消防、警察等の行政組織と連携して負担が増えないようにしないと。教育分野は予算が少ないので辛いと思います。「40歳までにお医者さんになった人の学費は全額市が負担します。」とかやればおもしろいと思います。将来はコミュニティの場が学校ではなく病院施設になります。 |
| 地域グループと学校とが協力しあう必要があるとはいえ、互いの立場を十分に理解しあうことが基盤となると思う。ボランティアグループがカリキュラムを理解できていないのではないかとと思われることがあるし、人事異動で管理職が替わった時などに次職への伝承ができていない場合、協力態勢が崩れたり、不審感が生まれるように思う。生涯学習などというのは、自ら必要と感じて学習テーマが決まるものだと考える。行政に学習しろと言われる筋合いのものではない。行政は学習テーマを魅力的に伝える手伝いの工夫や関心を深めるテーマの情報の提供を充実してもらいたいものだ。 |

| |
|--|
| <p>年金が60才でもらえていた時代はそれ以降”生涯学習”が必要だったかも知れませんが、今や年金支給は60才→65才→70才と先送りになりつつあり、生涯学習→生涯労働に変わりつつあると思います。市の政策もその方向へむかうべきで”生涯学習”とかのんびりしたような事をやっている時代はもう終えんを迎えていると思います。もっと税金を”生涯学習”でなく若い人に子供をどうやって生み育ててもらうかに使ってもらいたい。</p> |
| <p>やっていることが固い。 高松のようなエンター性のある行事を増やして下さい。</p> |
| <p>日常生活は全て学びであると考えているので、今までであったものに特化して学習することも大事だが、小さいものに目を向けて何でも学ぶという体制を作ってみてはどうか。面倒なことだけでなく誰かがきつと何かを学び続けていると思われるので、長い目でみる。おもしろく楽しいものは個々に違って、枠を決めて学習体制を作らなくても良いと思う。</p> |
| <p>様々な地域活動への参加が企画されますが、参加者が輪番制になったり、半強制的な参加を強いられる事のない様をお願いします。あくまでも自主参加。参加の募集を委託する団体にもその様な傾向のない様、指導監督をお願いします。</p> |
| <p>活動の成果を広報等で紹介したらよいと思う。</p> |
| <p>アンケートに答えるからなにかくれ(図書カードとか)封筒に両面テープをつけてくれ。ノリを塗るのが面倒。</p> |
| <p>こういうアンケートでも来れば、ああ、そういう事を真剣にやっているんだなど。じゃあ、今後無視もできないなと思わせてもらった。全く考えていなかったが、いずれ利用してみようかなと思う。何らかのコンタクトがあれば、動こうかなと思うのでアンケートでも何でも名差してくるのは、結構いい事だと思った。</p> |
| <p>会社等を退職した後の生活スタイルを、今から不安に思っています。家に籠る事なく、豊かな毎日を送れば良いなと、このアンケートを回答しながら考えた次第です。</p> |
| <p>必要な図書は自分で購入して読んでいる。私自身、今までにいろいろな手術をしているので、手足にしびれ等があり、調査に協力し辛かったので、このような調査は考えて出して欲しいと思っています。そういう訳で、自筆も許されたし。</p> |
| <p>一度行ってみれば、利用しやすくなるのかと思います。</p> |
| <p>国や地域を大切に考える人間を育成して欲しい。</p> |
| <p>アンケートもいいですが、もっと市民の声が出せるようにして下さい。コロナで仕事なども少なくなっているので、いい街にして下さい。</p> |
| <p>設問が難しすぎて、理解が困難でした。特に設問10、11、17。このため、うまく回答できていないかもしれません。申し訳ありません。</p> |
| <p>個人の希望から回答するのか、あるべき姿から回答するのか、立場が揺れてしまいました。</p> |
| <p>貧乏性の為、仕事の手伝いがとても楽しい。しかし将来の事を考えると他の楽しみを見つけたい。若い時、沢山楽しい事をしたので、今は仕事になったのかなとも思う。</p> |
| <p>あて名本人となっていますが、5年前から病気療養中ですので70才代女性が記入しました。</p> |
| <p>4-② 応援メッセージ</p> |
| <p>より良い丸亀市であります様に願っています。子供達の為にも、楽しい生活できます様に。</p> |
| <p>いつもありがとうございます。親も高齢になってきているので生涯学習の利用をしていきたいと思っていたし、私自身も今後意欲的に活用していきたいと思っていた矢先のアンケートでした。きっかけを頂いたので一歩進みたいと思います。生涯学習は自発性があるので大変だと思いますが、地域住民が学ぶための大切な組織だと思います。これからの発展を期待しています。暑くなってきたのでどうぞご自愛下さい。</p> |
| <p>生涯学習は、自分自身の視野を広げ、今後の生活に役立つものと考えていました。地域社会で活かすという発想はなかったです。今回アンケートで気づかされました。 問16、23ですが…学校現場(教員)図書館の職員さん達の負担が大きくなることを望みます。コロナ禍で市役所の皆様もそうですが、人員削減、一人の仕事量も増加で疲弊していることと思います。業務内容を精査して効率よく、また、少しでも仕事の負担が減らせるようにしてみませんか？新市長になり、対応に追われる毎日と思いますが、皆様ご無理なさいませんように、市役所の皆様のおかげで私達は安心して日々の生活が送れています。コロナが落ちつき、一日も早くもとの生活が戻れば良いですね。</p> |
| <p>ご苦勞をおかけ致しますが、どうぞお身体を大切に下さって下さい。</p> |
| <p>頑張ってください。未来を楽しみにしております。</p> |
| <p>地域住民にとって非常に大切なことを真剣に考えて下さっていることが伝わってきて、ありがたく思います。</p> |
| <p>私が8年前に丸亀に引越してきた時より、とても住みやすい魅力的な街になったと思います。今後ともよろしく願います。</p> |
| <p>いつもありがとうございます。</p> |

第3次生涯学習推進計画の実施状況に関する調査結果 その1

■調査目的

生涯学習事業の拠点施設となるコミュニティセンターや生涯学習センター等を対象に具体的な取り組みや課題など進捗状況を調査し、次期生涯学習推進計画の素案策定の資料とする。

■調査先

＜コミュニティセンター＞

- ・市内コミュニティセンター17カ所

＜社会教育施設＞

- ・丸亀市生涯学習センター
- ・飯山総合学習センター
- ・飯山東小川公民館
- ・丸亀市立中央図書館

■調査方法

- ① アンケート用紙を配布し、ファックスまたはメールで回答
…コミュニティセンター17カ所

■調査期間

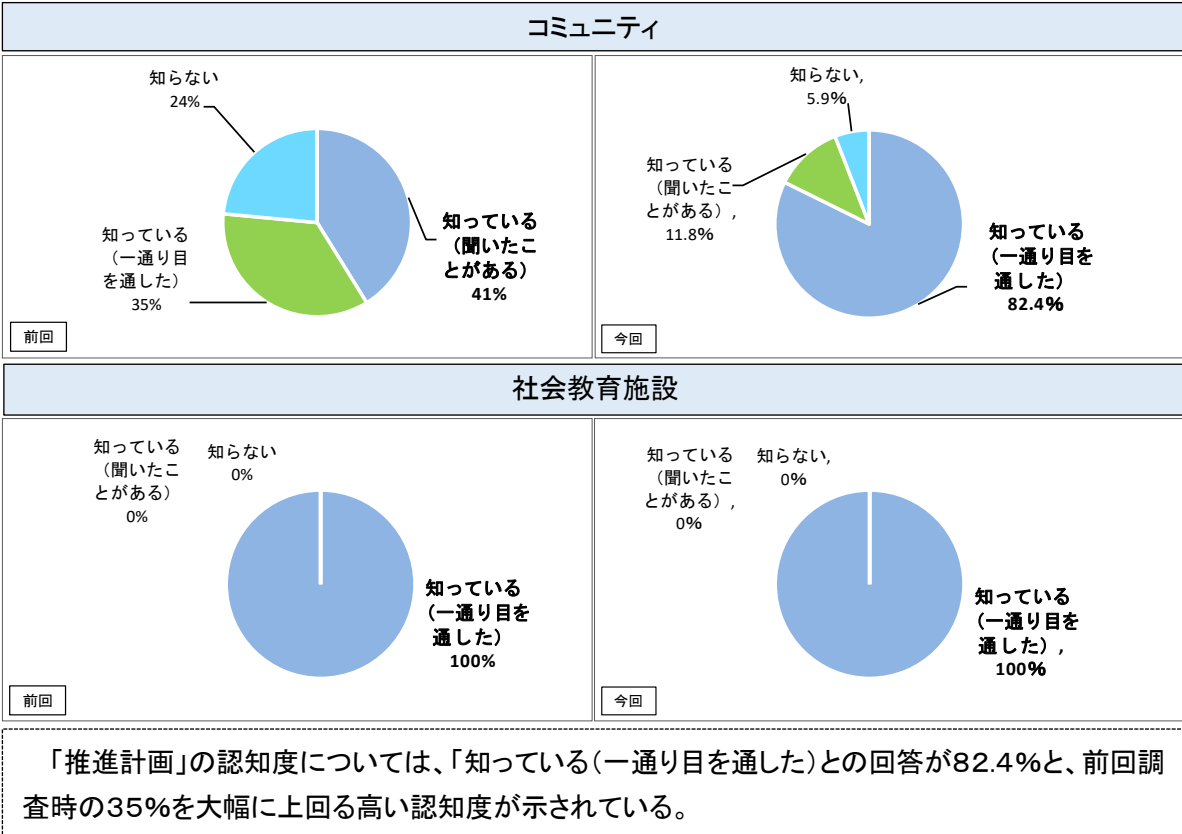
令和3年5月14日～6月11日

■回収状況

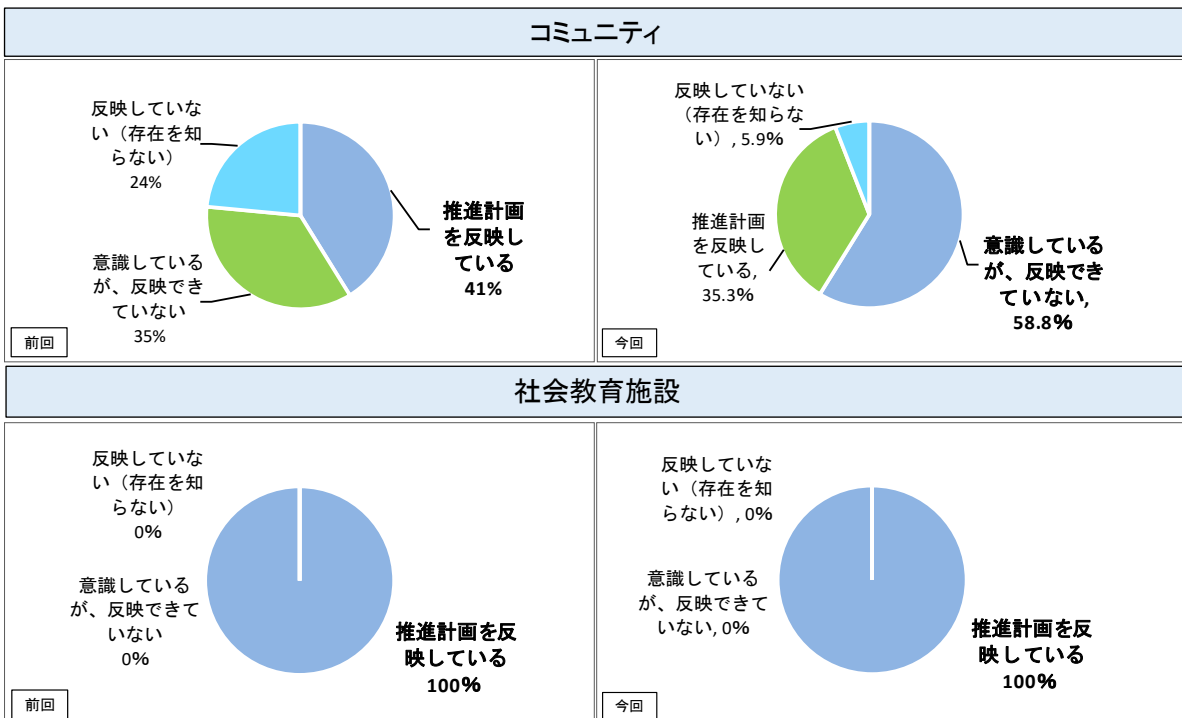
- ・市内コミュニティセンター17カ所(100%)
- ・社会教育施設(4施設)(100%)

<「丸亀市生涯学習推進計画」について>

問1. 平成29年度に「第3次丸亀市生涯学習推進計画」(平成29年～令和3年度計画)が策定されたことをご存知ですか。



問2. 「推進計画」を意識しながら、「まちづくり計画」や各種事業を計画していますか。



コミュニティのまちづくり計画や各種事業に「推進計画を反映している」との回答は35.3%と、前回調査時の41%と比べ減少したが、「意識しているが反映できていない」との回答が58.8%と前回調査時の35%から大幅に増加しており、推進計画の意識付けはほとんどのコミュニティできつつある。実際に推進計画を反映させるために、環境づくりや連携を強化していく必要がある。

※ コミュニティ…コミュニティセンター17カ所

社会教育施設…生涯学習センター(児童館除く)、飯山総合学習センター、飯山東小川公民館、図書館(中央・綾歌・飯山)

問3. 問2で1)「推進計画を反映している」と答えた方は、どのように反映したか(どの部分を)しているのか、2)「意識しているが、反映できていない」、3)「反映していない(存在を知らない)」と答えた方は、なぜ反映できないのか、具体的にお書きください。

| 1)と答えた方の具体的な内容・ご意見【コミュニティセンター】 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○家庭・地域・学校における連携の推進で地域学校協働本部を立ち上げて、ボランティア40名程度で地域と小学校が連携協力して事業を進めている。 ○計画の基本(1.学びのための環境づくりの推進 2.学びでつながり、学びを生かすまちづくりの推進 3.家庭・地域・学校における連携の推進)に沿って、まちづくり計画を策定している。 ○生涯学習においては「地域いきいき講座」(成人主に女性)「長寿セミナー」(高齢者)「書道教室」「こども茶会」と幅広い層に向けて学習のチャンスを提供している。又、スポーツは健康ウォークに加えてペタンクを毎月行い、年に一度は大会も開催している。学校・地域における活動を支える人材の発掘は、新たに地域創生部学校支援諸活動班を作り、学校の要望にすぐに対処できるように準備中である。 ○「人と自然が調和した住みよいまち」づくりを推進するにあたり、一人ひとりができるボランティア活動や時事・地域の問題等の知識を得る学習機会、生涯学習団体の成果発表の機会、青少年の健全育成ボランティア活動等を継続することになっている。 ○まちづくり計画は、市の総合計画と関連付けたものとしており、行政の視点と地域の視点をあわせた計画とした。 ○生涯学習に関する啓発及び情報提供と学習施設の有効利用。 ○健康づくりへの意識と地域資源を生かした生涯スポーツの推進。 ○学びを通じた人や地域等のネットワークづくり。 ○家庭・地域・学校の連携による地域教育力の充実。 |

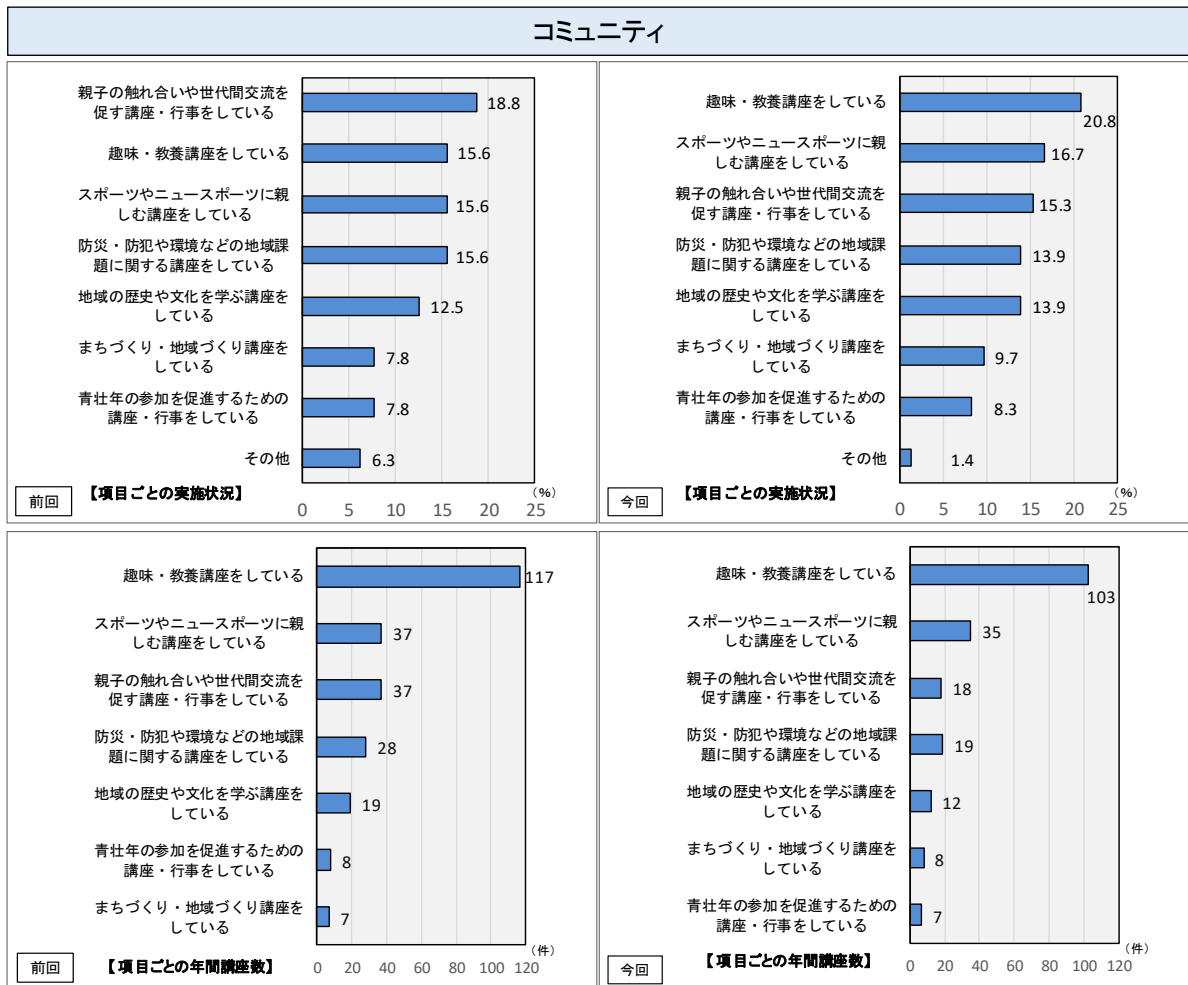
| 1)と答えた方の具体的な内容・ご意見【社会教育施設】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携によるボランティア活動(コミュニティ、生涯学習クラブ、高校、中学校、自治会)。 ○生涯学習クラブ活動発表の場を推進(児童センター行事)。 ○児童センター行事に反映(幼児教室、子ども教室、キャロット講座、中高生講座、地域交流、相談業務等、各種講座:香川高専、香川大学、さぬきこどもの国、香川赤十字等)。 ○生涯学習講座の実施。 ○学習活動の拠点として資料収集・提供を行い、ライフステージに合わせた学習支援を行うほか、ボランティア団体等と連携して行事を開催している。 |

2)3)と答えた方の内容・ご意見

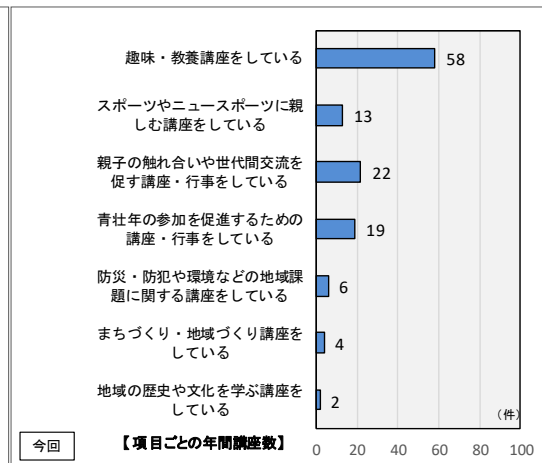
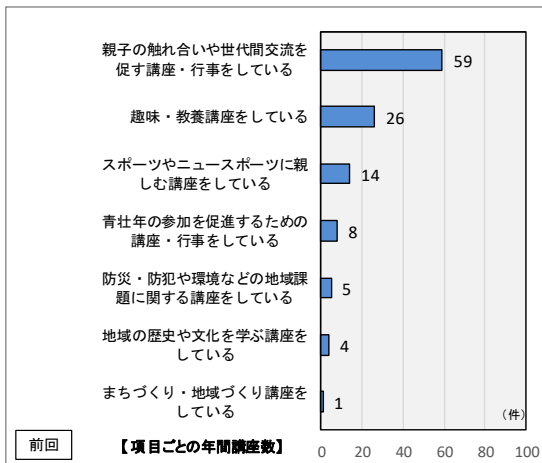
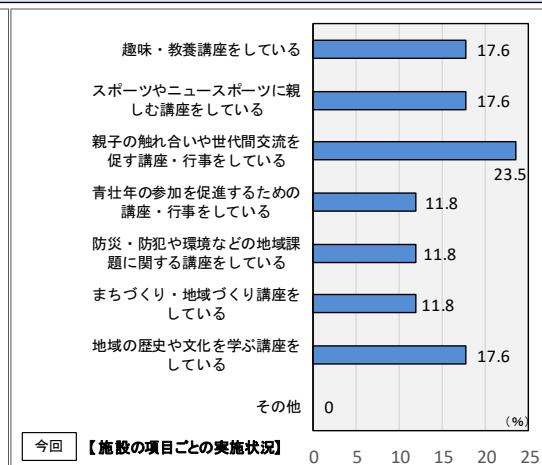
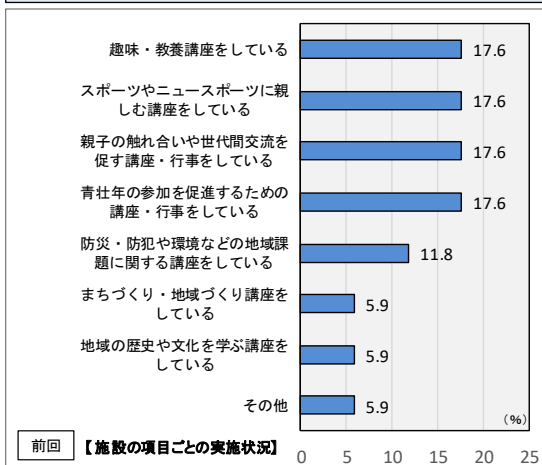
- 小学校区とコミュニティ区域が完全に一致していないこと。
- 令和3年4月からスタートしているコミュニティ・スクールに関して、地域との連携の具体的行動項目がハッキリ決まっていない。小学校に対してどのような協力ができるかという課題は、現在まちづくり委員会を開催して協議中。
- 今までの事業計画が生涯学習本来の意味・目的と合致していない。
- 地域住民の方の希望する講座ができているかどうか、また引きこもっている方にどうやって参加してもらうかが難しい。
- 青色パトロールによる「子どもの見守り活動」やこども園での「ふるさと遊び」の指導などを実施しているが、ボランティア活動のリーダーが不足しているため事業を増やしていくことが難しい。
- まちづくり計画を策定中。推進計画を考慮しつつ計画に取り組んでいる。
- コミュニティ自体の人数が少なく、高齢化が進んでいることもあり受講者への推進が難しい。
- 島しょ部という地理的要因から講師の確保も難しいといった課題もある。
- 第3次生涯学習推進計画が年々引き継がれてなかった。
- 存在を知らないため反映できていない。
- 人手不足のため、現在行っている事業を維持するのに精一杯の状態であるため。

<学習機会について>

問4. 貴コミュニティでは、下記のような学習講座の充実が図られていますか。(該当するものすべてに○を)



社会教育施設

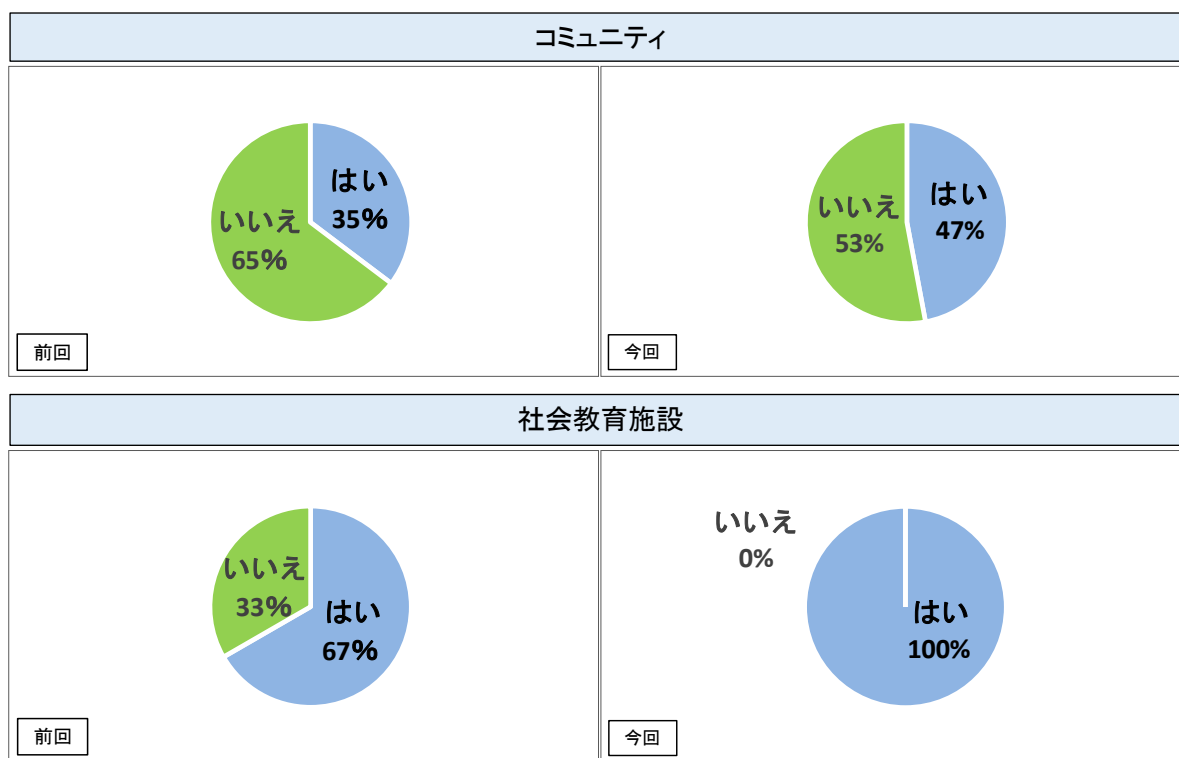


その他自由記述について

○認知症予防の体操教室等

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で全体の講座数は減少した。また、高齢化の影響で、生涯学習クラブの数が減少しており、それに伴い講座数も減少傾向にある。対策として、幅広い層が参加できるようなオンラインを活用した講座や、生涯学習クラブ会員の募集を行う必要がある。

問5. 地域の方が、学んだ成果をリーダーや指導者として活かす仕組みや場がありますか。または、リーダーや指導者等の人材を育成・発掘していますか。



| 「はい」と答えた方の具体策について |
|--|
| <p>コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアの人数も少なく、現在ではリーダーや指導者となる人材は発掘できていない。ボランティアの中からリーダーの業務を経験していただき指導者となってもらう。 ○木工教室の指導者として研修したことで、次年度にその技術を生かすことができている。 ○夏休みを利用して「子ども茶道」や「子ども太鼓」などを単発的に実施している。事務局の人材も含めて人材不足のため、長期継続は難しい。 ○講座に参加した方で、各分野において優れた方を各部会にお誘いし、地域づくりの担い手として活躍していただけるようお願いしている。 ○地域防災講座で学んだ会員は、小学校・中学校・高等学校での実践研修の場で指導者として取り組んでいる。 ○2030年問題に対して、コミュニティ全体で高齢者が生活する中で不便を解消する手助けを行うボランティア組織、会員約60名で令和3年度から活動している。困りごと会員や手助け協力員は随時募集している。 ○地域コーディネーター養成塾での知識を活かして、地域学校協働本部の立ち上げに取り組んでいる。 |

社会教育施設

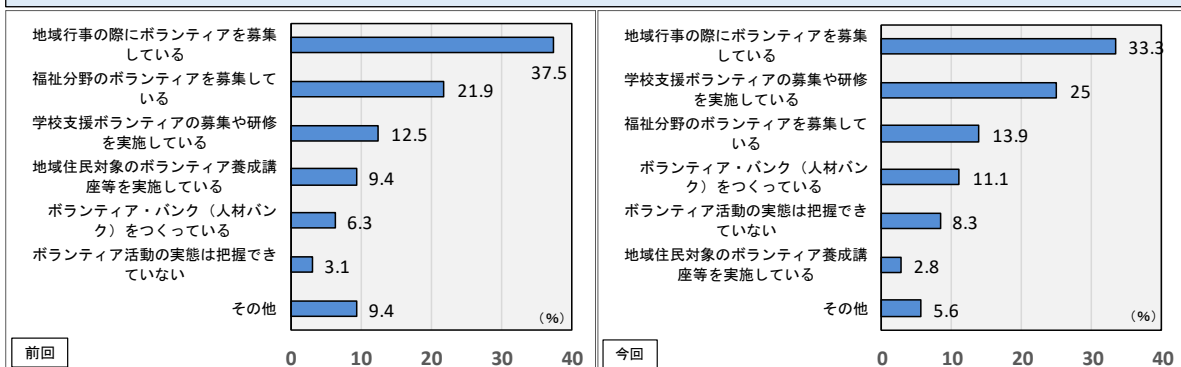
- ボランティア活動で学んだ成果を講師として実践。
高校生(夏休み期間中のボランティア活動)。
- 研修生(香川短期大学)の受け入れ。
研修期間で学んだ成果を講師として実践。
- NPO団体と連携した講座を開催しており、これまでの成果を基に講師を務めてもらうこともある。
- 時代の変遷に添い、新たに講師を採用している。

学んだ成果をリーダーや指導者として活かす仕組みや場所は増えてきているが、コミュニティではまだ過半数に達していないのが現状である。優れた人材に対し積極的に声掛けを行う日々の積み重ねが重要である。

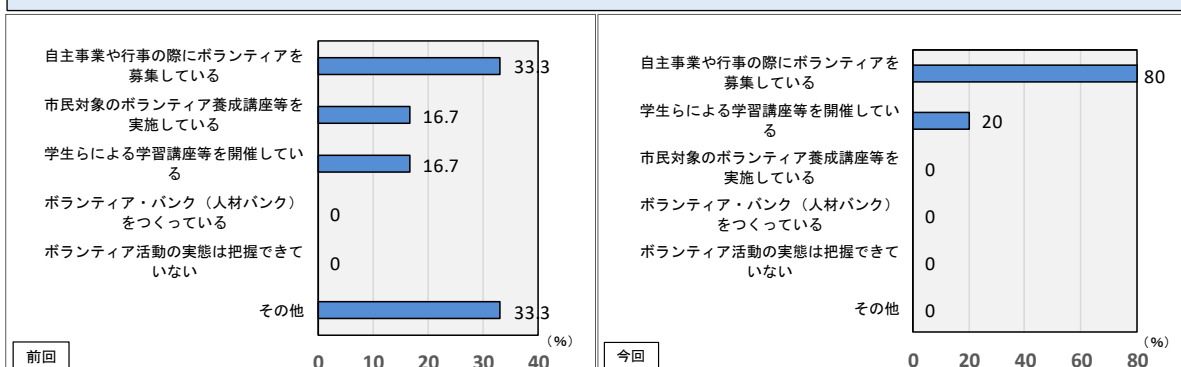
<生涯学習とボランティアについて>

問6. 生涯学習の成果を活用したボランティアが各地で見られるようになってきました。下記のようなボランティアの推進を、貴コミュニティで実施していたり、把握していたりしますか。(該当するものすべてに○を)

コミュニティ

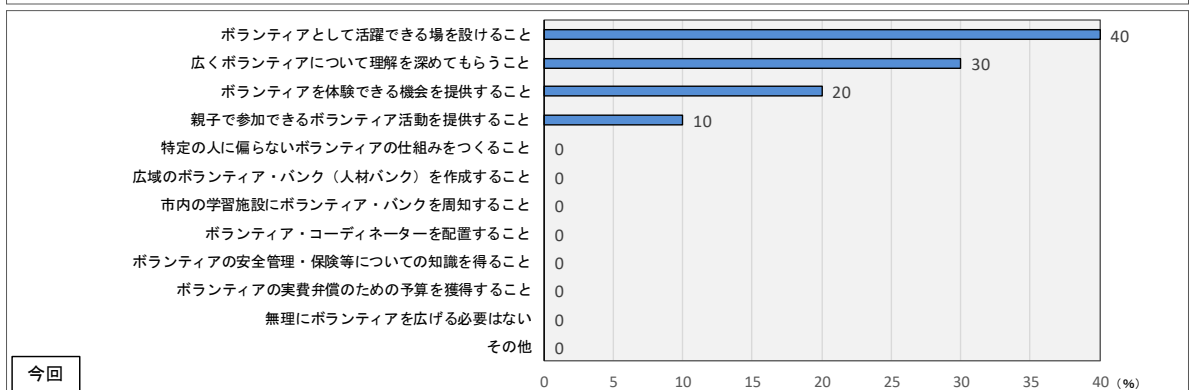
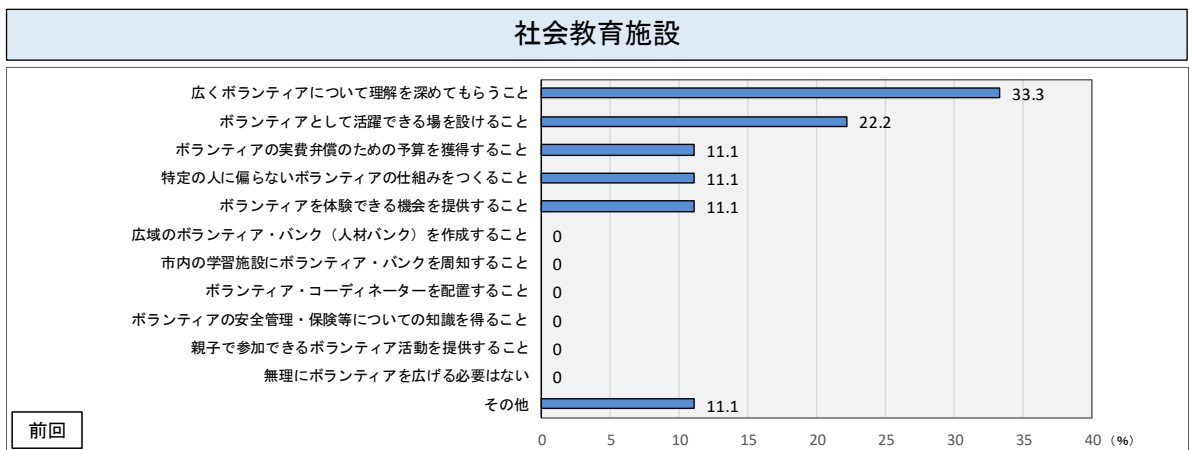
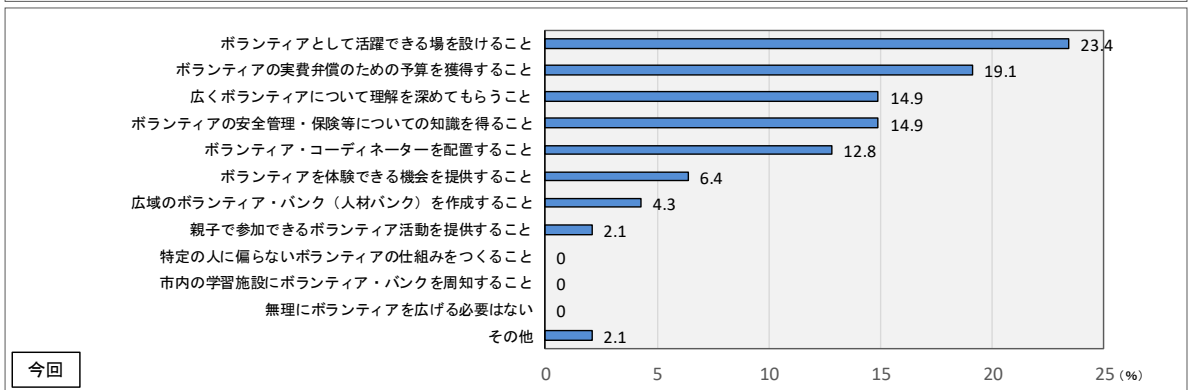
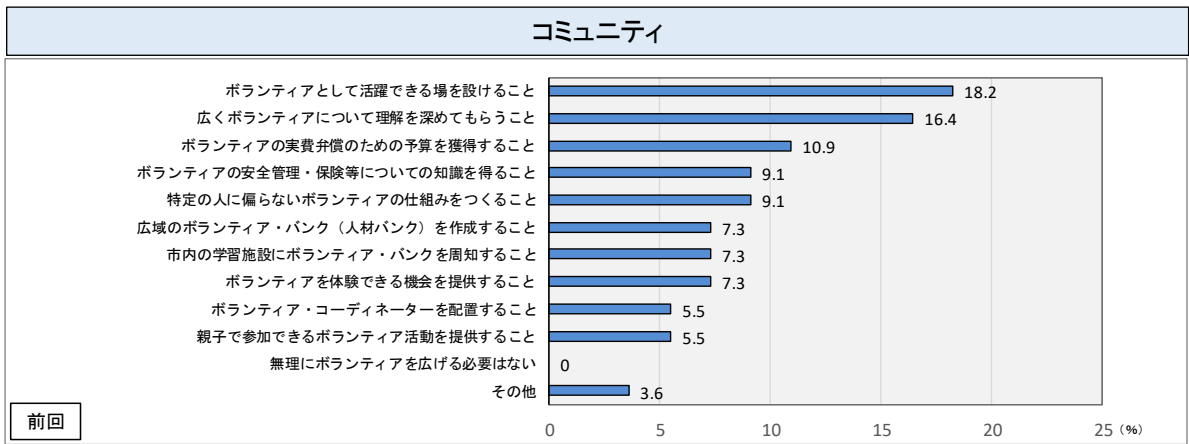


社会教育施設



「行事の際にボランティアを募集している」という回答が、コミュニティ、社会教育施設ともに最多の回答であった。コミュニティでは、「学校支援ボランティアの募集や研修を実施している」という回答が、前回調査時から約2倍に増加した。学校支援に対する意識が高まってきている。

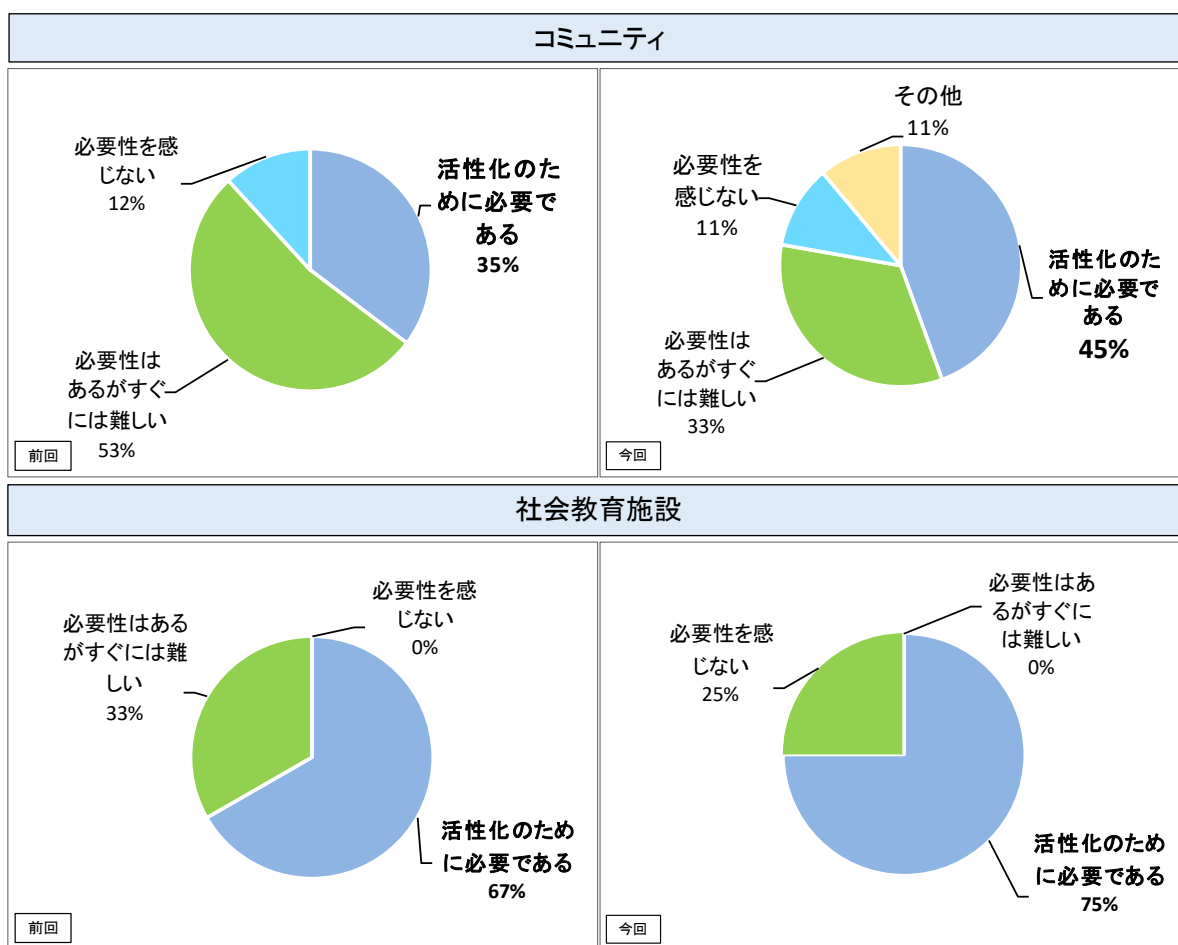
問7. 地域のボランティアの裾野を広げていくために必要なことは何でしょうか。（該当するもの上位3つに○を）



コミュニティ・社会教育施設ともに、「ボランティアとして活躍できる場所を設けること」が最多の回答であり、前回よりも増加していた。ボランティアとして活動したい人は多くいるが実際に活動できる場がないという問題を受けて、居場所づくりに対する意識が高まってきつつある。

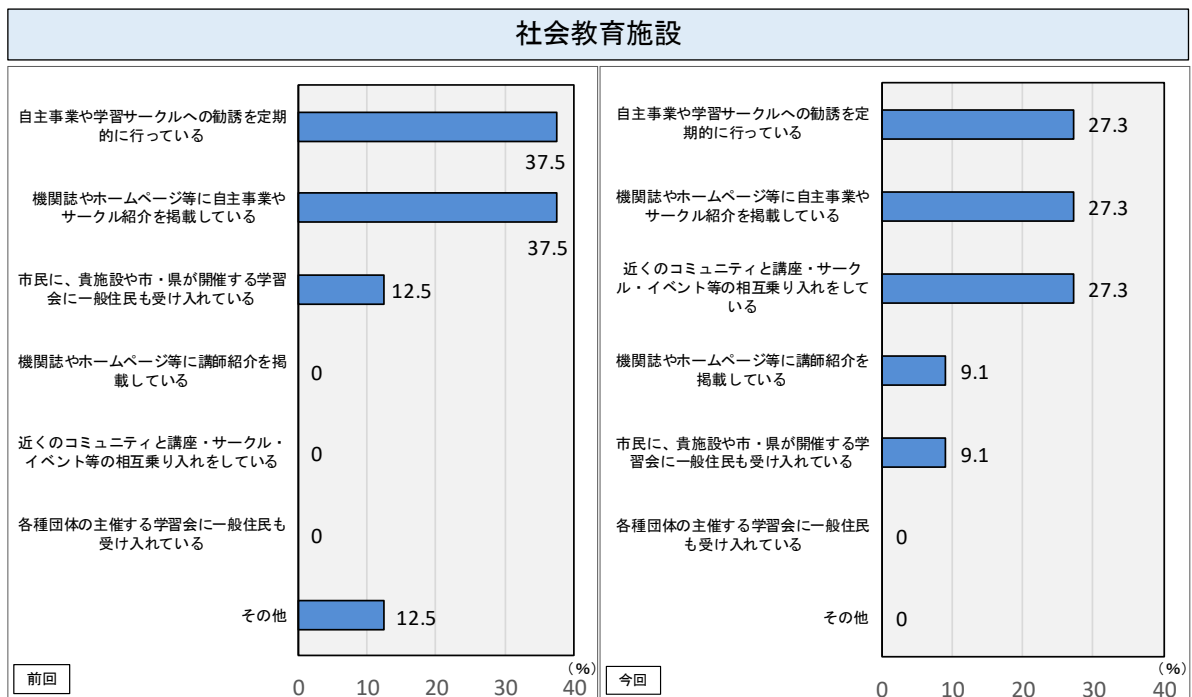
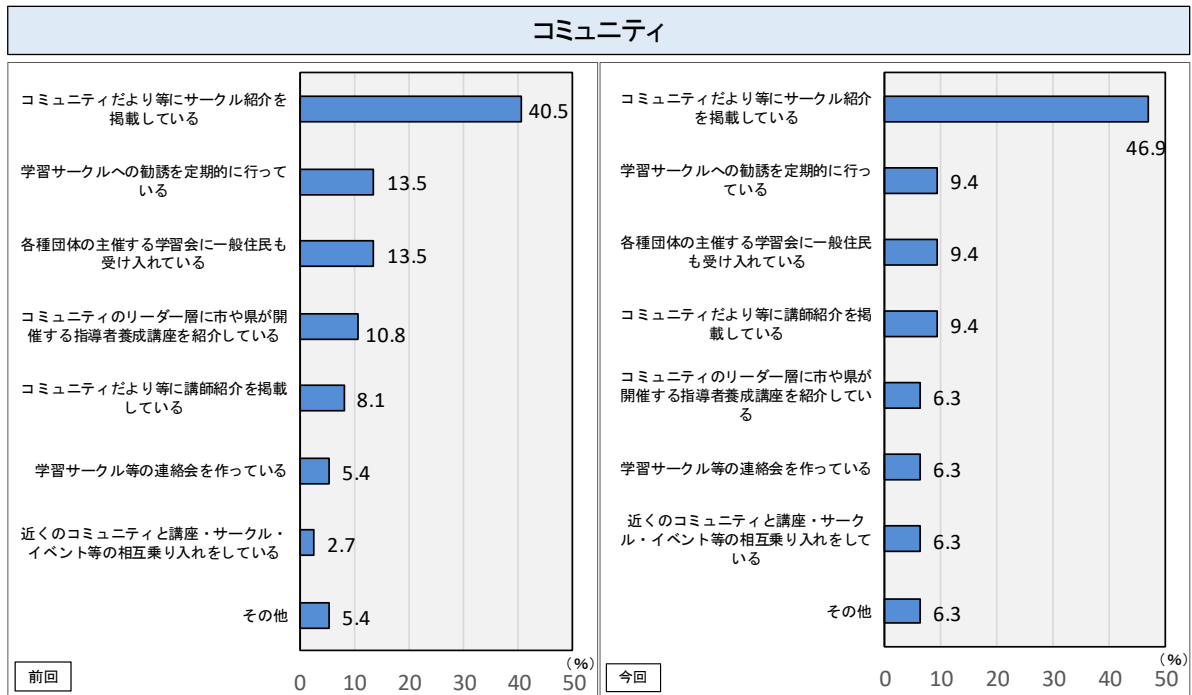
<生涯学習とネットワークについて>

問8. 学習活動の横のつながり(ネットワーク)をつくることについて、貴コミュニティでは、どうお考えですか。



前回調査時は「活性化のために必要である」が35%だったのに対し今回の調査では45%と、つながり(ネットワーク)の必要性を感じているコミュニティが増えている。

問9. 学習活動の活性化のために、下記のような取組をしていますか。(該当するものすべてに○を)



「近くのコミュニティとの講座・サークル・イベント等の相互乗り入れをしている」という回答が前回より増加しており、他の社会教育施設との連携が強まっている傾向にある。限られた予算と人員の中で、講座等の充実を図っていかなければならない。

＜社会教育団体や学校との連携について＞

問10. 学校と連携し、取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

| 現在取り組んでいること【コミュニティセンター】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○地域学校協働本部での活動。 ○昨年12月に子ども達見守隊を結成し、小学校児童の登下校時に立哨している。 ○青少年健全育成研修会を開催し、小学校・青少年育成センター・丸亀警察・コミュニティ・PTAが一同に集まり、地域の現状や問題を協議している。 ○家庭科ミシン補助。 ○地域学校協働本部が学校支援部としてコミュニティの1組織となっているため学校支援活動に広く人材を募ることができる。 ○コミュニティの役員が学校運営協議会に委員として参画し、家庭・地域・学校における連携を目指している。 ○3年生の授業の1つである「コミュニティセンターの仕事」の講師を務めている。 ○青色パトロールによる子どもの見守り。 ○運動会・サツマイモ栽培・昔遊び・放課後子ども教室・読み聞かせ・ミシン作業補助・クラブ活動などに老人会、学校支援ボランティアなどが参加している。 ○婦人会活動の灯が消えないよう、法の郷女性部を発足させ、合同会を開催し、役員選出、活動の継続性により女性の活躍社会を行う。 ○防災学習はきめ細やかなカリキュラムを設定して大人に負けないスキルUPを図っている。 ○学校安全パトロール、伝承遊び体験、新1年生スタートボランティア、学校周辺清掃ボランティア、放課後学習ボランティア、図書ボランティア、ミシンボランティア、学校花壇の花植え、ウサギ小屋の修繕、あいさつ運動、北小5年福祉体験ボランティア、マスクキットづくりボランティア、各教室テレビカバー作りボランティア、保育所での遊具、ベランダのペンキ塗りボランティア等の要望を受けて調整派遣。 ○夏季休業中における、ボランティアによる子どもたちの体験学習。 ○地域コーディネーターによる学校授業への協力。 ○運動会や人権研修などを合同で行っている。 ○「クリックマン」を中心とした地域交流、見守り活動。 ○学習支援、環境整備。 ○夏休み絵画教室、さつまいも、バケツ稲、伝承遊び、ドッチビー教室、交通安全教室、天体・星観測(令和2年度はコロナ禍で大半の取組が未実施)。 ○学校支援(昔遊び・野菜作り・地域探検・米作り、防災学習、戦時下の生活体験談)。 |

| 現在取り組んでいること【社会教育施設】 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○研修生(短期大学)の受け入れ。 ○地域の高校、中学校と連携したボランティア活動の推進。 ○高校生のボランティア企画による行事の開催。 ○香川高専(科学遊び)、香川大学(文化研究会)。 ○学校への本の貸出し(回送便を設けて送付・回収)。 ○学校図書館司書の会議参加(研修の講師も務める)。 |

今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】

- 学校の要望に応じて考える。
- 地域全体で登下校を見守り、児童、生徒を交通事故や不審者から守る。
- 学校はゆとり教育実施中のため、コミュニティのために授業の時間を割くことができない。コミュニティが子どもと接する場合は、夏休みを利用しコミュニティが単独で実施しなければならない。
- コミュニティセンターを、放課後の遊び場(宿題をする)など集まれる場所にしたい。
- 地域学校協働本部を立ち上げ、女性部員を勧誘し、ボランティア活動の中心になってもらう。
- 森の再生事業の中で森や緑の重要性を体験してもらうことを検討しています。
- 元気で人生経験豊富な高齢者が地域の子どもたちと心豊かな交流が行えるよう学校と連携して活動の幅を拡充したい。
- 小学校での特別講座(今年度、育成部会主催で音楽講座)を開催予定。
- 防災訓練。
- ハザードマップ作成(防災まち歩き)。
- 学校支援ボランティアの人材バンクをつくる。
- 「第三期まちづくり計画」(令和4年度からの5か年)で検討する。

今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】

- 地域の学校による行事企画の推進。
- 教育支援センター友遊の児童の受け入れをしている。

問11. 他のコミュニティと連携し、取り組んでいる特長的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

現在取り組んでいること【コミュニティセンター】

- 持ち回り所長会を3カ月に1回行い情報の共有を図っている。
- 丸亀高校の防災訓練を他コミュニティとの協力で実施している。
- 市全体で行う防災訓練の実施。
- コミュニティ祭り等で資材の相互協力(貸し借り)をしている。
- 防災無線通信で富熊コミュニティと市危機管理課を通信網で結び、非常時の災害に備える。
- 防災の実践カリキュラムにおいてお互いに協働の立場で行っている。
- 中学校区を単位としていることから、他のコミュニティに属しているボランティアとの連携を持ちながら活動している。
- 公共施設を旧日本島中学校に集約するため、移転・集約事業が終了した広島コミュニティセンターを視察し、意見交換を行った。

現在取り組んでいること【社会教育施設】

- ボランティア活動(イベント時における相互支援)。
- コミュニティ出前講座。
- リユース図書の提供。
- コミュニティ図書室の整理。

| 今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○所長会の内容の充実を図り実のあるものにしていく。 ○スタッフも協力できればもっと良くなる。 ○緑化事業(森の再生等)について検討してみたい。 ○利便性の高い施設を目指し、広島コミュニティと意見交換などを行いたい。 |

| 今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○地域の自治会との連携行事。 |

問12. 子ども会や婦人会などの社会教育関係団体やNPO等と連携し、取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

| 現在取り組んでいること【コミュニティセンター】 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○夏休みのラジオ体操の実施。 ○婦人会を開催しコミュニティ婦人会として従来の役目を継続している。 ○介護予防体操、認知症予防のための集い。 ○愛育班による「子どもクリスマス会」、「百人一首」(コミュニティは会場の提供のみ)。 ○健康ウォーク・ぐるりん歩・特定外来種(オオキンケイギク)の駆除。 ○学校支援ボランティアの場を、女性活躍社会進出とマッチングさせて女性部の活性化を図る。 ○公民館機能を発揮するため、日頃の活動の成果を発表する場の提供を行っている。 |

| 現在取り組んでいること【社会教育施設】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「夏まつり」行事に「子ども会」企画ブースを設置。 ○講座の開催。 |

| 今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○敬老会の開催(婦人会→コミュニティ)。 ○地方祭への子ども会の参加。 ○婦人会の高齢化による活動停止を食い止めるため、主要な社会教育団体として女性部の活動が軌道に乗るまで大切に婦人会を守る。 |

| 今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「子ども会」企画による行事の開催。 ○事業の広報活動や事業参加を依頼している。 |

問13. 市や公的機関と連携し、取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

| 現在取り組んでいること【コミュニティセンター】 | |
|---|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> ○お城まつりへの参加。 ○チャレンジデーへの参加。 ○市民体育祭への参加。 ○香川県土木事務所と契約し、昨年度から【さわやかロード】という地域の清掃活動を環境部と婦人部で実施している。 ○県道204号線沿いの歩道路のゴミ拾い、草抜き等。 ○食育学習(子どもと高齢者)。 ○高齢者を対象とした「健康相談」、母子を対象とした「わいわい広場」「ぐんぐんサロン」。 ○音楽広場(講師のピアノ演奏に合わせてみんなで歌う)。 ○都市公園の整備を図り、コミュニティセンターとの一体的な利用を図る。 ○森の再生事業について、都市計画課に指導してもらっている。 ○県や市の支援により、「地域で共有！」地域の力を学校教育に活かすため中学校区地域学校協働本部を核として学校関係団体と協力して教育現場の下支えを行っている。 ○放課後子ども教室(平成20年度より実施)。 ○HOTサンダルプロジェクト。 ○土器っこ広場0歳児とその家族を対象に、防災・保健・体育の講座。 ○土器川大規模水害対策ワークショップ(国交省)。 ○アダプトプログラム(国道11号線清掃)(食品容器環境美化協会)。 ○出前講座。 ○おじよもんひろば(放課後子ども教室)。 | コミュニティ |
| 現在取り組んでいること【社会教育施設】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○さぬきこどもの国との連携。 ○出前講座(遊びの宅急便)、さぬきこどもの国フェスティバル参加等相互交流。 ○まるがめ子育てフェスタ参加。 ○丸亀市民学級の実施。 ○各課の取り組み等に応じたコラボ展示(人権課・福祉課・資料館等)。 | |
| 今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習の講習会。 ○買い物支援の実施。 ○体操(親子)。 ○憩いの場づくり、カフェ的なもの。 ○文化講座(くらしのセミナー:スマートフードライフ)。 ○公園まつり・花壇の地域開放・花の栽培管理の募集。 ○公園内作品展展示場設置・子ども作品・地域の人々の作品展による文化の活性化。 ○HOTサンダルプロジェクトの継続実施(コロナ禍でのオンライン対応などを検討)。 | |
| 今後取り組もうと考えていること【社会教育施設】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○さぬきこどもの国研修による職員のスキルアップ。 ○連携による魅力ある行事の企画。 ○市内移住の芸術家との事業、子育てに関する事業。 ○こども園等と連携した事業。 | |

問14. その他の団体と連携し、または、貴コミュニティ独自で取り組んでいる特徴的な事例や、今後取り組もうと考えている事例があれば教えてください。

| 現在取り組んでいること【コミュニティセンター】 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○善行表彰の推進。 ○毎年小学3年生を対象に、コミュニティセンターで【八朔だんご馬づくり】見学会を開催し伝統文化の伝承に繋げている。 ○人と人がつながる地域づくり。 ○あいさつを交わすことで知り合いが増えて安心して暮らせる地域。 ○おはよう隊を結成して月1回あいさつ運動に取り組み、学校から地域へと広げていく。 ○夏休みに行う1泊2日の「寺子屋教室」。 ○5時から体操(午後5時からの空き時間を利用した健康体操)。 ○法の郷健康づくり推進事業は、地域内JA法勲寺支店・飯山高校・特別養護老人ホーム紅山荘と事業所の参加を得て、地域を挙げて健康づくりを推進している。 ○地域防災力向上を目指して、地域内企業や幼稚園・保育所・小学校と連携して取組の強化を図っている。 ○当地域では子ども会が途絶えていることから、ボランティア団体と連携してコミュニティで子どもの健全育成を図るために自然に触れ合いながら異年齢交流や世代間交流に取り組んでいる。 ○市内企業(三菱電機)によるCSR活動(里山・里海保全活動)。 ○防災訓練(防災士会)。 ○ふれあいいいのまつり、町民体育祭、ジョギング・ウォーキング大会、室内ペタンク大会、スポレクひろば。 ○歴史や文化に詳しい方に観光案内業務(観光ガイド)を行っていただき、島の情報を発信している。 |
| 現在取り組んでいること【社会教育施設】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○相談業務(たんぼぼと共催):専任相談員による発達上の相談。 ○当財団の基金を利用した生涯学習事業。 |
| 今後取り組もうと考えていること【コミュニティセンター】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの学びの場。世代を超えた交流の場。 ○秋の法の郷いきいきまつりにおいて、地域の農産物販売を取り入れ、地産地消の推進をする。 ○ふれあい交流室前のウッドデッキで毎月1回、農産物の販売による朝市・フリーマーケットをしている。 ○おじよもんひろば(子育て支援事業)。 ○コミュニティの文化観光部会の会員の方に新たに観光ガイドになっていただき事業の継続を目指している。 |

<行政との連携について>

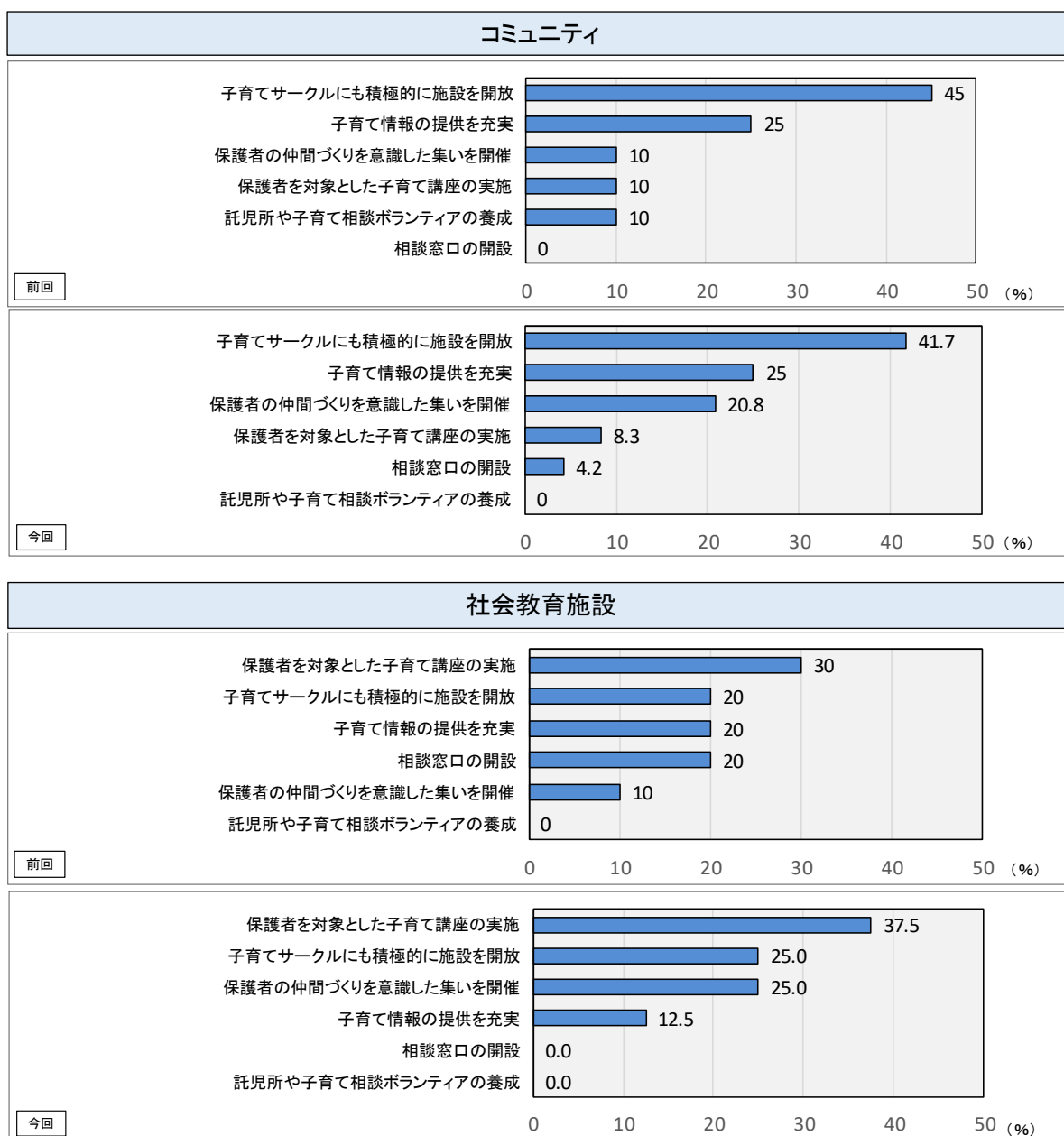
問15. 貴コミュニティが、生涯学習活動を展開するうえで、市に望むことや市と連携して進めていくための具体的なご意見やアイデアがありましたらご記入ください。

| コミュニティセンター |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○人材バンクの紹介。○各種講座の紹介。○他地区の情報の紹介。○勉強会の実施。○ホームページの勉強会。○行動を起こすには事業費が必要。行動するにあたって安心感のある後ろ盾となってほしい。○東小川児童センター・同公民館の丸亀市内児童の利用拡充を図る。○今後は高齢者対象の取り組みが増加、この枠組みの中に地域の福祉施設が参画してくることは当然の成り行きだと理解できるが、情報提供のバランスを欠かないようにお願いしたい。○老朽化しているため多様な生涯学習の拠点としての基盤となる施設整備が急務。○コミュニティが生涯学習活動を推進する上で、まちづくりなどの専門の講師や講座の一覧などがほしい。○市職員の派遣を年何回までと制限せず、保健師・理学療法士・栄養士など必要に応じて協力してほしい。○出前事業の内容(プログラム)の充実。○予算の充実。 |

| 社会教育施設 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○公民館・児童館のあるべき姿として推薦できる各種行事、講座の情報提供。○成功事例として、各種行事の水平展開。○縦割りにならない丸亀市全体の連携。 |

<家庭教育支援について>

問16. 家庭教育の低下が懸念されていますが、貴コミュニティでは、以下のような家庭教育支援を行っていますか。



| その他、行なっている支援や今後、考えている支援など【コミュニティセンター】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○家庭教育等を開き、保護者交流の場となればよい。 ○気軽に参加できるものを紹介してほしい。 ○夏休み・冬休みに子ども支援学習会を開催予定。昼食は食堂班が作って提供する予定(学習と食事をセットで夏休み3日間)。 ○子育て支援センターにボランティア団体から人材を派遣し、センター活動充実を共に図っている。 ○子ども食堂への協力。 ○日曜カフェ等を計画し、人の交流の場を作り対話できる環境づくりをしていきたい。 ○出前講座の活用。 ○おじよもんひろば(子育てひろば)。 |

| その他、行なっている支援や今後、考えている支援など【社会教育施設】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○親子で参加できる事業の実施。 ○マルタスキッズスペースでのおはなし会。 ○ブックスタート事業、セカンドブック事業。 |

施設の開放、ボランティアの養成、子育て講座の実施の割合が全体的に増加していた。引き続きコミュニティや社会教育施設に来てもらいやすい環境づくりを促進していく。

<新しい生涯学習のスタイルについて>

問17. 新型コロナウイルス感染症対策として、講座などをオンラインで行うケースが増えてきましたが、貴施設ではそのような講座を実施していますか。また、今後オンラインでの講座を増やした方がよいと思いますか。

| コミュニティセンター |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○オンライン講座は実施していません。どのような方法で実施するのかアドバイスしてください。 ○コロナ禍でコミュニティセンターの各部屋の人数を定員の半数に絞っている関係上、1部屋で実施している講座をWeb回線を通して、別会場でも同時進行できるようにした取組をはじめた。 ○オンラインは高齢者には難しい。 ○オンラインは人間力を下げると思う(よい面もあるが)。 ○実施していない。検討していない。 ○現時点では考えていない。 ○防災系や福祉関係についてはオンラインで講座を開講しています。移動時間等を考えるとオンラインでの講座を増やすべきと考えます。 ○オンラインの設備が整っていないので実施していない。 ○講座受講実施の送り手・受け手の環境整備に要する費用負担が課題。 ○オンラインでの講座実施は行っていないが、今後の感染状況次第では検討の必要があると感じている。 ○生涯学習クラブでは、実習的な取り組みが多いので考えていないが、コミュニティが行うものに関しては検討していきたい。 ○オンラインで学習できる講座もデータベースとして整備していけばよい。 ○香川大学、本州四国連絡高速道路(株)が主催する島旅活性化プロジェクトにリモート会議で参加し、島の現状の説明などを行い協力している。 |

| 社会教育施設 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○オンラインの講座はなし。今後も予定なし。 ○児童センターは自由来館であり、安全安心の子どもの居場所が基本。 ○香川県内高校生の演劇公演のオンライン配信。 ○こども演劇の演劇公演。 ○オンラインを利用した子ども講座の実施。 ○哲学対話でのオンライン利用。 ○オンラインでの開催が可能な環境を整えば実施したい。 |

<生涯学習推進全般について>

問18. 第3次生涯学習推進計画では、貴施設やコミュニティ等を拠点とした「生涯学習+まちづくり」を推進し、豊かで健康的な地域社会の現実を目指しています。本アンケートを通じて、貴コミュニティのこの5年間の生涯学習の取組について、今の現状や課題、日頃からお考えになっていることをご記入ください。

| コミュニティセンター |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティも高齢化が加速している。その問題解決とコミュニティ・スクールの今後の進め方を地域と学校で考えていく必要がある。 ○生涯学習クラブ以外にも貸館団体が多く、年間を通して新たに入り込む余地がないのが現状。 ○生涯学習(一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送るための学習)と「持続可能なまちづくり」が直接どのように結びつくかという考え方が今一つ理解しがたい。 ○コミュニティの講座や行事に参加されている方は人との交流が図れているが、家に閉じこもっている方やコミュニティセンターまで距離があり参加できない方の対応をどのようにするのか。 ○コミュニティをいくつかの班に分けて小さい地域での活動を推進していけたらと思う。その為には、地域ごとのリーダーが必要となってくる。その道筋をつける支援を市にしてもらいたい。 ○学校と地域が密に情報交換を行っている。 ○地域のふれあいまつりが長寿会、婦人会、子ども会、生涯学習課クラブ等の協力により開催され、交流の場になっている。 ○コミュニティには6つの部会があるが、活動内容については格差がある。また、新規事業はほとんど行われていない。 ○ボランティアのリーダーが生まれてこない。コミュニティの意思が住民にうまく伝わっていないのかもしれない。 ○クラブ活動などに参加して楽しんでいる住民は多いが、リーダーになってくれる人が見つからない(指導者がいれば参加するが、指導者にはなりたくないという人がほとんど)。 ○コミュニティが新規事業を起こす場合、まずコミュニティセンターに負荷がかかってくる。仕事は増えるが直接どのように結びつくかという考え方が今一つ理解しがたい。職員は2人のままという状態である。コミュニティはボランティアだが、センター職員は給料をもらっているので仕方がないのか(新規事業はやっていきたいと思うが、キャパシティ不足は否めない)。 ○定年退職の年齢が上がり、ボランティアを始める年齢層が現役中で人が集まらない。 ○生涯学習にしても、住民の余裕が感じられなくなってきている。 ○生涯学習のクラブについては、時代とともに消えるクラブ・新しく立ち上げるクラブなど変化するもの。 ○女性部会・老人会を主体に学校支援ボランティア体制の確立、併せて同時スタートで、住民参加型の福祉事業「ささえ愛」有償ボランティア制度などを確立して、高齢者対策の一助とする。 ○3年後を目途に都市公園の整備が図られたら、センターとの一体的活用により、優れた生涯学習の |

場、公園まつり他四季のイベントを展開する。

- 人間生きている限り学習は欠かせない。今後とも防災、環境、福祉、子育て、文化活動に関する学習機会を設けていきたい。
- 超高齢化と少子化が進行する中で、異年齢間交流や世代間交流、地域内外での交流など、人と人とが活発に交流する地域社会を目指す。
- 福祉のまちづくりとして、高齢者が散歩中に一息つけることのできるベンチを作り、コースの途中に設置。このベンチに絵を描くことを幼稚園、保育所の子ども、小学生児童、高校生などに、ボランティアとして参加してもらい、地域の一員としての自覚、ボランティアに対する意識の高揚を図る取組を行っている。
- 人口の減少と高齢化により、受講者の固定化や減少といった課題がある。
- どうしても高齢者が多くなるので、高齢者でも楽しく参加できる講座(講師の確保も含め)の開設等を検討する必要がある。
- 生涯学習を推進する上で、地区住民に参加してもらえそうな内容や周知方法をより検討していきたい。
- 生涯学習は学校教育のように体系的なものがない。つなげる役割を果たすコーディネーターが必要となるが、すべてボランティアでやろうとするのには無理がある。その部分は行政が全面に出るべき。
- つながりたいときにつながれるようにサポートできる体制を整えておくのが大切。また、個人や団体が自ら他とつながりを持ちたいと思えるような環境づくりの充実が、持続可能なまちづくり実現につながるのではないか。
- 本島幼保、本島小中では地元の文化財を見学するなどの課外授業や島内のイベントに子どもたちに参加してもらうことで、郷土愛を育み、島民と積極的に関わる機会を提供している。それにより、地元の良さを感じてもらい、UIターンなどによる「まちづくり」に少しでもつながることを願っている。

社会教育施設

- 児童館、公民館に求められることは何か？
著書【児童館：理論と実践】の内容を分析・区分し出来ることから始め、行事運営に力を注いだ。
- 創成期⇒成長期⇒成熟期へと成長を遂げているが、衰退期に入らないように行事の見直し、新規事業の取り組みは必要不可欠。
- 各児童館、公民館との連携、情報交換ネットワーク作りが大切。
- 成功事例の水平展開。
- 「つなげる」ことについては十分な成果を上げることはできなかった。

第3次生涯学習推進計画の実施状況に関する調査結果 その2

■調査目的

第3次丸亀市生涯学習推進計画のもと、市民と行政が一体となって生涯学習を通じた「ひとづくり」「まちづくり」を推進するために市民の生涯学習活動を支援し、様々な施策等に取り組んできた中で、以下の点について各委員から評価や意見をいただき、第4次生涯学習推進計画の策定に向けた参考資料とする。

■調査対象

- ・第3次・第4次生涯学習推進計画策定にかかる社会教育委員
- ・第3次・第4次生涯学習推進計画策定にかかる特別出席者

■調査内容

1 学びのための環境づくり

- ・生涯学習に関する啓発及び情報提供と学習施設の有効活用
- ・ライフステージ、現代的課題に対応した学習機会の充実
- ・スポーツと文化芸術活動を通じた生涯学習の充実

2 学びでつながり、学びを活かすまちづくりの推進

- ・学びを通じた人や地域等のネットワークづくり
- ・学んだ成果や経験を生かしたまちづくり

3 家庭・地域・学校における連携の推進

- ・家庭・地域・学校の連携による地域教育力の充実
- ・学校や子どもを核としたまちづくりの推進

■調査方法

アンケート用紙を配布し、持参またはFAX・メールで回答

■調査期間

- ・令和3年7月9日～8月6日

■回収状況

- ・第3次・第4次生涯学習推進計画策定にかかる社会教育委員20人
- ・第3次・第4次生涯学習推進計画策定にかかる特別出席者10人

1 学びのための環境づくり

生涯学習に関する啓発及び情報提供と学習施設の有効活用や、ライフステージ、現代的課題に対応した学習機会の充実について、成果（現状）や課題をご記入ください。

今後の取組方として、お考えがあれば具体的にご記入ください。

- ・コロナの影響で生涯学習施設の利用者や講座数が減っているため、オンラインを活用した講座を行う必要があるが、高齢者の方にはPCやタブレットの扱いが難しいため、まずはPC等の扱い方の講座を行う必要がある。
- ・丸亀中央生涯学習まつりは、登録団体の活動発表の場であるが、市内各地で文化活動をしている人たちの統一した発表の場が設定できないか。
- ・県公民館等研究大会にコミュニティセンターからの出席が非常に少ない。生涯学習推進の立場からすれば、他地区の活動も参考になることが多い。
- ・生涯学習クラブ登録制度一部見直し、緩和へ。
会員の高齢化、リーダー不足、登録要件の10人確保が難しい、新規会員が加入しづらいこと等。
- ・コロナ禍の影響もあると思うが、文化施設の利用者減、また生涯学習クラブ登録数が減少している。生活文化の多様化、リモート学習等原因はたくさんあると思うが、的確な分析が必要でないだろうか。
- ・「学びのための環境づくり」という基本目標達成のため色々な施策が幅広く実施されている。これは良いことだが、一方効果が薄まるという悪い面もある。今後は、戦略的、重点的に注力する様な取組を実施した方が良い。
- ・どこにいても学べる環境の整備（Zoom等の利用）。
- ・誰でも学べる機会の提供。
- ・学べる内容の充実。
- ・地域コミュニティにより各団体との連携がうまくとれていない地区があるので、協力出来る方向性にもっていく。
- ・どの年代がターゲットなのか、どのようなことができるかを明確にし、ポイントを絞ったPRをすれば情報が浸透しやすいのではないか。
- ・学習機会はあっても友人がいなくては参加しにくい、身体的に移動が困難、交通手段がないなど、参加できていない人へ、ICTを活用した機会をつくり、参加方法は訪問して教えたり、自治会をまわったりして、ICTが苦手な人にも使えるようにしていく仕組みが必要。
- ・生涯学習推進計画があることによって、それぞれのコミュニティセンターや社会教育施設等で地域性を活かした工夫された事業ができています。
- ・ライフステージに応じた事業が工夫されている。若い層の参加は難しいことともありますが、今後も工夫してください。
- ・生涯学習を行う人材の確保が出来ず、実施している方が高齢化している。
- ・イベント、生涯学習参加者が固定化している。
- ・若い方、中年層（主婦等）に参加を促すには、日時や開催時間の工夫が必要。

- ・コミュニティの活用やイベント参加のPRをどのようにするか、コミュニティ便り、ホームページの充実等が必要であり、これらを見てもらう為の便りの内容や活動内容の見直しが重要。
 - ・文化芸術活動に関しては、施設利用者、参加者数とも年々と減少している。課題の追求・対応が必要。市民会館がなくなったことも影響しているのではないかと。丸亀市にとって市民会館は文化芸術を推進していく中で必要。
 - ・社会教育施設の利用も減少している。どのような学びが必要か、またニーズがあるのかを検討必要。市民の意識がどんどん離れていっているように思われる。
 - ・施設利用のルールの見直しや利用促進の周知、活動の周知、活動の有効性も検討。もっと誰もが自由に学びの場を創ることができ、自由に参加できるようなシステム作り。
 - ・広報は紙面のみならず電子媒体を積極的に活用していくことが望まれる。メディアをミックスさせて複層的に行うことで有効性が高まる。
 - ・インターネットやSNSでの利用促進のための技術的な研修や機材の導入をサポートする（各自でそろえさせるとICT技術の差が如実にあらわれ非効率であるため）。
 - ・センターでの催しを抱き合わせで開催するなどして参加人数をトータルで増やす。（コロナ禍では難）
 - ・指導者を探すことはとても大変なこと。日常的に（何年もかかり）指導者を模索している。1つのクラブを登録するまでに1年以上かかる。人口が多い校区でも会員はなかなか集まらない。
 - ・環境づくりに関して、想定外のコロナ禍で各地でオンライン講座が試みられたが、一方で実施していない、今後も予定なしというところもある。確かに、地域の実情によっては不要のところもあるが、とはいえコロナ云々にかかわらず、Society 5.0という方向性もあり、実際にオンライン講座を実施するか否かにかかわらず、職員としてはオンライン講座の実施ができる能力を身に付ける必要はあるかと思う。
 - ・社会教育施設向けの調査結果の中にあつた、「オンライン講座等をどのような方法で実施するのかアドバイスしてください」という意見にも耳を傾ける必要があると思う。
 - ・マルタスの位置づけも次期計画には入れる必要がある。
 - ・生涯学習講座等の事業を積極的に実施したが、若者や働き盛りの方に向けた事業については十分な成果を上げることはできていない。今後は配信等も活用して、更に多くの方に向けた事業を行う必要がある。
 - ・子どもたちの中には身体や精神に障害を持つ子、個性（特性）が強く、集団生活が苦手な子どもがいる。就学前施設や学校では、その子に応じた配慮がされ、できる限り健常児と同じ活動や体験ができるように環境づくりも進んでいますが、家庭生活においては気兼ねなく連れて行けるところが少なく困っている保護者は少なくない。
- そこで、障害のある子どもが安心して遊べる「インクルーシブ公園」を造ることを提案したい。親も一緒に滑ることが出来る幅広の滑り台や車いすに乗ったまま遊べる砂場など障害のあるなしに関わらず一緒に遊べ、交流の場としての役割も大きい。

※ “人生に必要な知恵は、全て幼稚園の砂場で学んだ” ロバート フルガム氏

- ・生涯にわたり常に学び続けたいと思っている人は少なくない。その場があったり、チャンスがあったりすれば、また、それを続けてみたいと思う内容であったりすれば、多くの人はきっと興味を惹かれるだろう。
- ・各コミュニティセンター等でも、活動するクラブは様々で数も多いと思われる。長年その活動に関わっている人も多くいるだろう。しかし、その弊害もあるのではないか。人間関係が出来上がっているサークルには、敷居が高いと感じる人も多いただろう。何年かに1度は、クラブ活動を大幅に、または一部、刷新していく取組が必要ではないだろうか。
- ・坂出の大橋図書館は、住宅の入り組んだところにある図書館だが、また利用したいと思える図書館である。子ども向けの蔵書が多く、調べ学習に対応し、各小学校との連携も取れている。駐車場も近く、市外の者であっても100冊も借りることができる。親切な対応、見やすい工夫がある。現在の丸亀市立図書館は、大人向けが主であって、子ども向けの蔵書が少ないと感じる。子ども向け図書館ができないものか。特に小学校では、「紙をめくり調べ、鉛筆でメモをする」ことが脳の発達にも良いとされている。タブレットを個人に渡す国の施策とは逆行するが、そこに丸亀の独自性をもっと出してよいと思う。大橋図書館に学ぶことは大きいと思う。各コミュニティセンターの蔵書も定期的に点検し、市立図書館まで行かなくてもコミュニティセンターに行けば借りることができるようにできないか。新刊等はほぼ入ってこない今の状況は、ただの書庫のような状態となっていないだろうか。
- ・施設の充実という面においては、丸亀市は恵まれている。
- ・生涯学習事業に関する職員のスキルアップにも丸亀市は積極的に取り組んでいる。
- ・その時代、時期のニーズにあった取組、養成が必要。それぞれの範囲の中で、新しい講師の紹介やテーマの選択も大切で、時々そんな話し合いも必要。
- ・生涯学習センターの取組を知らない人も多いので、紹介や口コミも大事。

キーワード

- ・オンライン等ICTの活用
- ・参加者の高齢化、固定化
- ・若い世代の参画の必要性、方法
- ・生涯学習に対するニーズの把握、把握したうえでの施策、工夫が必要

2 学びでつながり、学びを活かすまちづくりの推進

学びを通じた人や地域等のネットワークづくりや、学んだ成果や経験を活かしたまちづくりについて、成果（現状）や課題をご記入ください。

また、学習成果や人材を地域に結び付けていくために、何が必要と思いますか。

- ・健康づくり推進で、年3回以上健康講座を実施（音楽療法2回・食の文化・健康体操・歯の健康等）。
- ・学校支援ボランティア、高齢化社会を支える有償ボランティアを募集しているが、今一つ浸透していないのか反応が良くない（婦人会、老人会へ協力依頼を重ねたい。PTA保護者の反応が鈍い）。
- ・コミュニティだよりによるサークル活動紹介、新規活動へのお誘い。
- ・女性活躍社会づくり、女性をリーダーとした社会参加による健康推進イベントの開催。地域内、事務所を含めて2年に一度健康まつり。
- ・概ね、それぞれの施策の効果が出ていると思う。特に、「学びを通じた人や地域等のネットワークづくり」は進化しているように思う。今後もこの方向性をもって目標達成のための施策を決め実施していけばよいと思う。
- ・どのような活動に活かすことができるのか分からない。
- ・身近で活かせる活動を見つけられない。
- ・学びの成果を様々な場面で活かすことができる機会の提供。
- ・学びの成果を他の地域の人に活かすことができる仕組み。
- ・色々な講習を学習した人材を活かしてほしい。
- ・学んだ成果（趣味の講座や活動）は、発表の場としてまつりのステージ等だけでなく、青い鳥教室へ月替わりで子どもに教える、講座で集まって老人ホームへ訪問し見てもらう場が必要。
- ・新型コロナウイルスの影響でネットワークづくりも難しい中、地域のコミュニティセンターを中心に様々な行事が行われていることは大変良いこと。
- ・学校にとっては、地域の人材の支援はこのようなコロナ禍だからこそ必要。
- ・学びを地域活動に活かす、具体的にどのように関わっていくか、学び者が分かりにくい。
- ・コミュニティなどで地域活動に関われる機会や場面を作る必要がある。
- ・何をどのようにすればいいのか、これまでしたことがない方は分からないと思う。
- ・コミュニティが主な対象になっているので、市民活動団体等、活動する団体や活動の紹介を積極的に行い、丸亀市内の資源全体像を把握して、繋がりができるきっかけを創っていく。
- ・人材バンク（学習をした人は登録を進める）も可視化しマッチングするコーディネーターを配置するシステムを構築する。
- ・個人や団体もつスキルを積極的にアピールできる場、周知するもの、など構築する。「私、○○○（こんなこと）できます！」
- ・ボランティア登録や職員採用など正規の取組（金銭的・精神的報酬の有無あるいは主体化）として積極的に位置づけるしくみを取り入れる。
- ・活動の場を広げるために、社協や多様な地域活動団体などとの連携を行う。
- ・若い世代の活動の場づくり（ユースワークなど京都市参照）。
- ・何度も、人材難、高齢化、参加者の固定化、若い人をいかに取り込むかという課題が出てきたが、こ

れは5年前も同様で一朝一夕に解決できるものではないが、何もしないわけにはいかない。新しくマルタスがオープンし、新しい考え方を導入して若い人をひきつける事業を展開してほしい。

- ・SDGsについても積極的に計画に位置づけてほしい。
- ・各講座内や講座間の受講生や指導者において一定のつながりを持つことはできている。その方々の発表する場において、友人らを招くことにより、地域のつながりづくりにもなっている。
- ・自分が身につけたものを提供することで、喜んでくれる人がいることはやりがいを感じるし、生きがいになってくるかもしれない。また、手助けされた人も今度は自分が手助けできる人になろうと思うかもしれない。そんな幸せ連鎖を生むシステムを構築してほしいと思う。
例えば、城北コミュニティが実施している「ポイント制」は意識を高める方法として魅力があると思う。ポイントに応じて物品というよりは、そのポイントで自分が困ったときに支援が受けられる「持ちつ持たれつ」の昔ながらの風習を現代社会に合わせて目に見える形にするとモチベーションが上がるのではないかと。
- ・現在は、人と直接関わらなくても生活することができるようになってきている。だからこそ、「人と直接かかわり、それを楽しく思える活動」が重要になってくる。一人でいるときよりも誰かといるときは、人は数倍笑うとさえ言われている。
調査結果を見ると、「コミュニティ活動に無関心な人への情報が届きにくい」とある。無関心な人でも、何かのイベントに参加したりそれを見かけたりすることはあるだろう。大小のイベントを組込ながら、単発で終わるのではなく、小さな点をつなぎながら、少しずつ根気よく広げていくことが大事だと思う。市全体の取組だけでなく、各コミュニティでどんな活動を、どう活動するのか、どう盛り上げるのか、どのように続けるのか、誰がそれを推進していくのか、その道筋が見えるとういのではないかと。
- ・コミュニティセンターに丸投げするのではなく、初めだけでも、行政からもそこに参加し、リーダーを育成する、人材を確保するなどの手助けをするのはどうだろう。道筋が見えることが参加意欲や将来に対する希望となるのではないかとと思う。
- ・生涯学習を受講した人たちの小グループもいろいろなところで生まれており、それぞれ個人の特技が次々と伝達することでまちづくりにつながっている。
- ・人とのコミュニケーションと、育てていく人材が必要。
- ・高齢者の方たちにいきがいとグループ作りが必要。

キーワード

- ・学びの成果の還元
- ・他分野との連携
- ・人材の把握、発掘
- ・新しい施設の有効活用(マルタス、市民会館)

3 家庭・地域・学校における連携の推進について

家庭・地域・学校の連携による地域教育力の充実や、学校や子どもを核としたまちづくりの推進について、成果（現状）や課題をご記入ください。

- ・コミュニティだよりで学校支援、エールのページ設定。コロナ禍の中で、生徒会活動や部活動紹介、発表や活動紹介は学校支援として喜ばれている。
- ・地域コーディネーターの全コミュニティへの配置、コミュニティ・スクールの発足、「地域と共にある学校づくり」良いスタートができた。しかし、学校が必要とする支援を、地域で上手く支援確保できるか、高齢化と適切な人材確保の難しさに直面している。
- ・保育所立ち寄り後、移動図書館車の巡回を頂き有難い（月1回水曜日）。
- ・まち歩き、町探検の実施による郷土学習（総合学習の時間確保は難しいと思われるので、土、日曜日に実施）。
- ・都市公園整備後、公園内花壇の管理維持を地域住民に開放したい。
- ・夏休み、学習支援活動時の昼食を法の郷食堂班が希望者に食事提供。
- ・基本目標の達成が一番難しいと思うが、大事な課題でもあるので、目標達成のためには大きな施策の転換が必要ではないか。例えば、家庭・地域・学校、それぞれの組織団体をつなぐための協議会の設置など。
- ・コミュニティ区域と小学校区が一致していないため、家庭・地域・学校との連携は難しいと思われる。
- ・各コミュニティにて広報を発行しているが、「土器さんさん」は7月号、8月号で連携を取り上げている。自治会に入会していない方もHPにて見ることが出来、地域の行事等が分かりやすい。
- ・昔の区域の見直し。
- ・各コミュニティ発行広報と市推進計画との連携。
- ・やはり小学校区での動きが一番良いのでは。
- ・多忙な人々が、日々の生活を越えたところで地域等に目を向けるのは難しいのではないかと。ボランティア等の力の活用は大切だが、何かをしようとするなら予算立ても必要。
- ・栗熊地区では、地域学校協働本部（栗っこ応援隊）で令和3年度より、サマースクールとして、バナナハウス見学、重機体験、読書感想文教室、英語教育、宿題教室を8月上旬に開催し好評だった。地域の農家や工務店と子どもたちがふれあう機会ができてとても良かったし、子どもたちも家でダラダラするより時間を決めてメリハリをつけて勉強できて保護者にも喜んでもらった。
- ・地域ごとに特色があるのだから、それぞれの特色を生かしたまちづくりができるようなアドバイザーがいれば、各コミュニティも活動しやすいのではないかと。
- ・コミュニティで活動する人と、PTA、学校関係者との繋がりが一部の人とは連携しているが、幅広くは関係性が作れていないように感じる。これは人材や関わり方の固定化にあると思われる。その解決策はなかなか見いだせないが様々な試みをしていく中で、みつけれられるかもしれない。
- ・コミュニティ組織と学校、家庭は連携しやすいが市民活動団体はなかなか受け入れてもらえない。地域性か。市内の資源として地縁組織と共に受け入れや連携することも大事。
- ・コミュニティ・スクールメンバー等への介入も検討してほしい。なんのために連携するのか目的があ

いまいになっていないか。地域全体で子どもを育てる気運を高めることだと受け止めているが、学校のお手伝いの請負のような立ち位置になっていないか。

- ・切れ目のない育ちの場づくりを目指して、福祉行政との連携を取る。
- ・就学前や卒後の地域・家庭での学びをサポートしていくための策を考える。
- ・当事者に課題を聞く、調べる（座談会や聞き取り調査のような場を研修や養成塾のプログラムに入れるのもいい）。
- ・必ずしも学区一地区という対応関係で活動していない幼保や特別支援あるいは中学において、取組を強化していく必要がある。
- ・10年以上も前から続いていた老人会との交流（さつま芋、玉葱の植えつけ、収穫）が、ここ3～5年前から全くなかった。

- ・市内幼稚園、こども園、小中学校のコミュニティ・スクール化については、形だけ整えるのではなく、より一層地域連携が進むことを期待している。
- ・令和3年度よりコミュニティ・スクールが導入された。複雑な社会状況の中、子育てが難しくなっている現状を踏まえ、家庭・地域・学校の連携、協働は不可欠である。

その連携調整する重要な役割を果たすのが“地域コーディネーター”だが、本市はH29年度より「地域コーディネーター養成塾」を開校し、その育成に努めている。既に取り組んでいる先進コミュニティと情報交換・情報共有など、地域差を少なくする研修を計画的に実施し、学校とともに地域の子どもたちの健全育成に力を発揮することを期待している。この時に気を付けたいことは、配慮を要する子どもたちのプライバシーや活動で知りえた情報を口外しないことと、教師の狙いを外した子どもへの言葉かけや援助をしないこと。ボランティアの方にも事前研修は必要であるし、それを注意（指導）できる地域コーディネーターとボランティアの方との信頼関係は不可欠である。

- ・学校は、昔から今でも地域の中心となる場所であると思うし、あらねばならないと考えている。また、「子どもは、学校で学び地域で育つ」この理念をもって全てのことにあたるのが大切であると思う。

- ・地域と学校の協働体制については、それぞれの実態によって様々。

城南小学校区は学校を支援していこうという土壌があった。この土壌は一朝一夕にできたものではなく、学校と地域とが長い時間寄り添って築きあげられたものだと思う。

しかし、これも教職員の異動等により学校と地域の間の一線ができてしまう可能性をはらんでいる。現在は、コミュニティの支援を受け、協働本部は軌道に乗りにつつある。少しずつではあるが人材も、また活動も広がっている。

- ・市内の学校がコミュニティ・スクールとなった今年、各学校で学校運営協議会という枠組みはできた。そこで、本当に「真ん中に子どもを置いた協議」ができる必要がある。各学校の協議は、子どものためを思った協議であったのかチェックする必要がある。その会で本当に協議すべきことは何だろう。中身のある協議であってほしい。
- ・2回ほど参加させていただいた小中・地域連携教育連携協議会は必要な会議であったか。本当に必要な会議を、そして第一に子どものことを思う、そんな内容を協議していく構えが大切であると思う。

前例踏襲は厳禁。中学校は中学校としての社会とのかかわり方や地域との関わり方を学ばなければならない。中学校は高校受験に向かうだけの学校ではない。柔軟な思考の持ち主である子どもたちを学校・家庭という少人数で支えるのではなく、地域の大人もそれに関わる仕組みづくりが必要である。人との関わりがなくても生きていける便利な世の中になってきた今だからこそ、あえてアナログに関わりを持つことが人間力を向上させることにつながると思う。

- ・タブレットよりも温かみのある人間に関わるのが、幸せな人生を生き抜ける子どもたちを育てるのではないか。
- ・学校は、個人情報の流出を恐れ（仕方がないことではあるが）実態を地域に漏らさないようにと構えている。支援する側の節度、学校の信頼、そこをどう構築していくかが課題である。
- ・地域学校協働本部は、各コミュニティと一体となり運営していく必要がある。人材発掘は容易ではない。一人一人への声掛けをして輪を広げ、和を広げていくこと、それに尽きると思う。コーディネーターとしての責務は大きい。そんなコーディネーターを個人のやる気にプラスして「コーディネーターとはどうあるべき」か、「責任と役割」を明確にしていくことが必要だろうと思う。
- ・高齢者と子供たちの事業を増やしていく。子どもたちも高齢者と触れ合うことで優しさやいたわりの気持ちが育ち、温かいまちづくりにつながる。
- ・今の子どもたちは塾や習い事、スポーツなどで忙しく、いろいろな教室に参加する人は決まっており、どうすれば、たくさんの子どもたちに参加してもらえかが大きな課題。

キーワード

- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進
- ・高齢化と適切な人材確保の難しさ
- ・各組織間の連携
- ・子ども、保護者の参画方法

4 次期生涯学習計画について

第3次生涯学習計画の策定から、この5年間の現状等を踏まえ、お気づきの点や次期計画に期待することがあればご記入ください（自由記述）。

- ・コミュニティ大賞の継続、コミュニティ活動冊子を発行してマルタス地域活動コーナーで活動紹介・まちづくり推進計画共々に。
- ・まちづくり補助制度の拡充、規模に応じた配分を。
- ・都市公園の整備が出来れば、公園内に展示コーナーを設置して子どもたちの作品巡回・作品展示をしたい。
- ・専任の生涯学習推進員を配置してほしい。
3期計画で予算措置をいただき感謝している。コミュニティセンターへの事務量増大による負荷。生涯学習参加年齢層の高齢化による学習参加者の確保困難。学校のように体系的に繋げる役割を果たす人の確保等、生涯学習そのものが人の生活から離れようとしている。今こそ生涯学習推進に必要なのは主体的に取り組める専任者の配置である。県内他市は、副所長が生涯学習計画の担当者として位置づけられ、地域づくりに取り組んでいる。
- ・飯中生、飯山校生の調理実習を兼ねて毎年秋に行っている高齢者食堂（法の郷食堂班）開催時に、調理実習と出来上がった食事の共食の機会を設けたい。
- ・センター内にいつでも、だれでも、予約なしに立ち寄れるふれあい交流室を設置頂いた。参加された人に喜んで頂けるようなイベントの工夫が課題。
- ・まちライブラリー事業で図書館まつりについて良い工夫はないか。
- ・市中心部に丸亀市中央児童センターの新設をお願いしたい（児童センター方式は、東小川児童センターのみで、児童の健全育成に向けてイベント企画、自由来館等児童の成長に合わせた社会性を育てる活動に孤軍奮闘頑張っている）。
- ・市民講座に、文化、スポーツ、政治・経済等著名人を招いて夏期講座を新設してほしい（生涯学習への無関心層、底辺の拡大につながる）。
- ・ホームページで第4次生涯学習推進計画について、施策の体系等紹介し推進に努める。
- ・戦略的、重点的に施策を決定、実施する必要がある。
- ・学習もネットから得ることが一番簡単で手軽だが、やはり世代を超えての地域交流が一番の「まちづくり」だと思う。
- ・各コミュニティのHPも以前に比べると充実してきたが、HPもコミュニティ発行の広報誌もバラつきがあるように思う。
- ・自治会未加入世帯が増加している中、身近な情報提供が必要と感じる。
- ・市HP、市広報誌、中讃TVなどで市民が自分で情報を得ることが出来る仕組みづくり
- ・新市民会館が生涯学習と児童館機能を併せ持つ予定と聞いたが、県の情報通信交流館（e-とぴあかわ）の講座を、西讃を拠点として一部でも実施できないか（ワークショップ、体験、IT講座など）。
- ・コロナに影響されてできないと足踏みするのではなく、これならできる、ICTを使えばこれができる

る、集まらずに分散して行う方法はないか等、手数を減らさずに柔軟に対応できるような工夫や仕組みが必要ではないか。

- ・第3次生涯学習推進計画を継続する方向でよいのではないかと思う。
 - ・各目標の共通課題である、人材不足、関わりを持つ方の固定化、また学ぶ方の高齢化等がみられる。若い方ばかりではなく、いかに幅広い年齢層の方に活動参加や生涯学習の学びの機会をたくさん作れるか、斬新な企画をいかに作れるか、地道な活動や試みを続けていくしかない。
 - ・多くの市民が生涯学習を行い、それを地域活動に繋げるかは生涯学習計画に課せられた大きな課題であると思う。
 - ・生涯学習が一部高齢者のもののように感じている気がして、だんだんとすたれているような気がする。
 - ・施設利用数、クラブ登録数、講座参加数、全てにおいて毎年数値が下がってきているのは意識の低下だろうか。若い世代に向けての啓発、周知等意識向上にむけた取組が必要。
 - ・担い手となる人材育成が急務。若い世代が関われる時間、内容、場の提供等の検討。
 - ・市民活動としては、子育てする親世代に常に学びの場を提供し、担い手の発掘にも力を入れている。
 - ・従来の取り組みを活かす生涯学習環境の整備に加えて、アプローチが難しい層の明確化と対応をしていく段階ではないか？新規層への働きかけは、見直しの時期だからこそ取り組んでいきたいところだと思ふ。
 - ・コミュニティセンターのみならず、その連携可能性のある幼保、特別支援など社会福祉領域との繋がりを持たせて幅を広げることもできる。
 - ・校区内に住みながら、コミュニティセンターにも遠くて行けない、自治会にも加入していない、クラブ活動にも加入していない、このような方々に情報が届きにくい。
 - ・地元の人たちと転入者との融合に時間がかかり難しい。
 - ・中高年層と若年層との交流、融合するには、活動時間が異なりなかなか出来ない。
 - ・社会教育施設向けの調査結果の中で、「全てボランティアでやろうとするのには無理がある」というのはそのとおり。財政難とは思ふが、予算措置を講ずべきところにはしっかり予算をつけてほしい。
 - ・社会のために何かしたいと願う人は少なくない。「これならできる」という力を持つ人を育てるために生涯学習があることを広め、魅力的な講座や興味関心が高い講座を企画して、参加者を増やすことを目指してほしい。
- 「志縁（時に人を助け）」と「支援（時に助けられる）」で住みよい丸亀を！
- ・生涯学習に取組たいと思っても、若年層の方は仕事や子育て等があり現実的に難しい。
 - ・一歩踏み出すためには、講座を土曜、日曜に開催し、託児の環境を整えるなどの配慮が必要。そこで地域の人と繋がれば、行事に参加したり、将来的には地域の力となる人材になる可能性が高くなると思ふ。人材育成には、地道な活動の積み重ねしかない。
 - ・コミュニティと校区が異なるところがあるので、コミュニティ・スクールを推し進めていくのであれば、やはり統一されることがベストではないか。災害時の避難場所にも関係するので変更する困難さは大きいですが、今がその時だと思ふ。ご検討をお願いします。

- ・コミュニティセンターが地域の事務局となり、活動が広がっていくのが理想だとは思うが、2人の職員で地域全般を回すのには無理がある。住民の数にもよるが、職員の数を増やす、（非正規職員も入れて）有償ボランティア制度を構築する等、市を挙げてコミュニティセンターを改革支援していく制度が必要ではないか。
- ・家庭教育がマスコミに踊らされている感がある。日本の未来を、丸亀の未来を担う子供たちや、その親世代に必要なことを施策として打ち出していくことが必要であると思う。生活資金だけでなくメンタルを支える仕組みがあればと思う。

キーワード

- ・戦略的、重点的な施策の実施
- ・柔軟に対応できる工夫や仕組みづくり
- ・生涯学習の高齢化
- ・若い世代の担い手の育成
- ・幅広い世代の交流

第3次生涯学習推進計画の実施状況に関する調査結果 その3

■調査目的 全庁的な取組の充実

生涯学習事業は、行政においても広範な分野(部門)で行われ、情報等が発信されています。現代的・地域課題の解決に向けた講座等の開催や、市民が学習成果を地域や学校など様々な場面で発揮する機会の提供・充実には、関係部署との情報交換など全庁的なネットワークを構築しながら総合的な事業として市民に提供していく必要があります。

このような観点から、庁内の関係各課で行われている事業内容を共通認識として把握し、市全体として生涯学習事業を推進します。

■調査対象 庁内関係各課

■調査内容 施策体系別関連事業(関係各課)

■調査期間 令和3年5月12日～5月24日

基本目標1 学びのための環境づくり

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|--------------------------------|----------------------------|--|---|-------|
| (1) 生涯学習に関する啓発及び情報提供と学習施設の有効活用 | ① 学びに関する啓発及び情報提供と学習施設の有効活用 | ・NPO団体や生涯学習活動団体等から講座やイベント情報の掲載依頼があれば、可能な限り掲載し、広く市民への啓発や情報提供に努めている。 | ・広報紙面の都合上、団体等からの希望どおり掲載できない場合がある。 | 広聴広報課 |
| | | ・生涯学習クラブ等の日頃の練習の成果を披露する「丸亀中央生涯学習まつり」や「コミュニティまつり」等において、作品展示や舞台発表など、広報誌やパンフレット等を活用しながら広く市民へ周知し、啓発活動を行った。イベント当日には体験コーナーを設けるなど、学んだ知識を参加者(地域)に還元する取組にも努めた。 | ・生涯学習関係団体の取組については、各種イベントなどの機会を通じて啓発活動を行っているが、日頃の活動そのものについては、見えにくいという課題がある。ICTを通じた情報発信に取組、活動する人と市民が情報を共有できるような仕組みを構築していく必要がある。 | 生涯学習課 |
| | ② 生涯学習推進体制の強化 | ・社会教育に携わる行政職員や社会教育施設の職員が、社会教育主事講習や公民館研究大会などに積極的に参加しスキルアップに努めている。 | ・研修や講習会などで得た知識やスキルを実務の中でより積極的に活かす必要がある。 | 生涯学習課 |
| | ③ 学習活動の拠点となる社会教育施設の利便性向上 | ・コミュニティセンター(島しょ部を除く)の管理・運営を地区コミュニティが指定管理者として行うことにより、地域のニーズに応えた柔軟な運営に努めている。 ・コミュニティセンター整備の際に、気軽に立ち寄り交流できるスペースを設置。 | ・指定管理を行う地区コミュニティの人材確保が課題となっている。 | 生活環境課 |
| | | ・令和2年度から、学習活動の拠点として利用しやすいよう夏休み期間中の全日開館を施行している。 ・また、無線LANを設置し香川Wi-Fiの利用を開始したほか、官報情報検索サービスや国立国会図書館デジタル資料送信サービス資料の利用を開始している。 | ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、閲覧席を撤去するなどの利用制限を行った。安心して社会教育施設として利用できるように感染予防対策にも努める必要がある。 | 図書館 |
| | | ・生涯学習センターやコミュニティセンターなど、学習活動の拠点となる施設の運営については、生涯学習クラブ登録制度を設け、当該団体の生涯学習活動において施設利用料の減免制度を適用するほか、生涯学習センターについては閉館日を減らし利用しやすい環境を整えるなど、施設の利用者や設置目的を考慮した柔軟な運営・管理を行っている。また、広報活動による情報発信等も適宜実施することにより、利用者が求めているニーズにも答えている。 | ・生涯学習センターは、築48年を迎え耐震性能の不足とともに、躯体、設備共に老朽化が進行している。飯山総合学習センターについても築17年を迎え、設備等の不良箇所が見受けられる状況になってきている。 | 生涯学習課 |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|-------------------------------|-------------------|---|---|--------|
| (2) ライフステージ、現代的課題に対応した学習機会の充実 | ④各ライフステージにおける学習支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童館等では、指導員が適切な距離を保ちながら、学校や年齢が異なる児童の交流の場を提供。 ・東小川児童センターでは、さくらまつりや夏まつりなど地域(コミュニティや自治会・中学・高校など)の異なる年齢層が交流する機会を提供。また、ふじみ園地域交流フェスタに参加し、地域の障がい者等との交流の機会を提供。 ・子育てひろばにて、わらべうたや地域の伝統行事などを高齢者から学び、交流できる機会を提供。 ・出産前から子育て中の人までライフステージに対応した学びの場を提供。様々なライフスタイルに合わせ、健やかに過ごすための講座をNPO等と連携して実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導員の目の届かない所で些細なトラブルが起こるため、児童館と市や学校の協力体制が必要。 ・参加者が固定化しないよう、イベント内容を毎年工夫する必要がある。 ・参加者がイベントを楽しむだけでなく、地域の人との継続的なつながりが持てるよう、交流の場を工夫する必要がある。 ・子育て世帯の悩みについて、随時利用者の意見を分析し、今後のサービスに反映していく必要がある。 ・子育て世帯からの発信だけではなく、地域からの働きかけも重要であることから、地域一体となった子育て支援が必要である。 | 子育て支援課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、老人会向けに、高齢者福祉制度や介護保険制度についての出前講座を実施。仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行う老人クラブへの助成を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・制度への理解や普及を図るため出前講座の実施数を増やす工夫が必要。 ・老人クラブの活性化を図るため、新規会員の勧誘やリーダーの育成が必要。 | 高齢者支援課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する講演会をヘルスプランの市民会議メンバーとともに開催。 ・健康教育の実施市内効率幼稚園・保育所を対象に、食育と歯の健康について、市民会議メンバーとともに実施地域の実情や健康課題を捉えたコミュニティセンターでの実施妊婦とその家族を対象に、妊娠期から産後の生活に向けた講習会を、助産師会、母子保健推進員、愛育班等の協力を得て実施。生活習慣病の重症化予防のための実施。 ・理学療法士による腰痛予防などの講義と体操の実施。 ・乳児の保護者等を対象とした離乳食の作り方の学習。 ・男性の自立を促し高齢期に注意した栄養、食事についての講義と調理実習。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多くは対象者と開催場所が限定的であるため、働く世代など講習を必要とする人へ対してのアプローチ方法。 | 健康課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭の増加に合わせ、講師による家庭教育講座や保育士による人権集会を開催したり、家庭通信を通して父親の家事・育児参加の重要性や子育て力向上に努めたりしている。 ・県教委主催の保護者向けワークショップや市の家庭教育学級を開催したり、入園周知会で未就園児保護者向けの子育て学習会を実施したりしている。子どもの発達や関わり方を保護者が知る機会になっており、悩みを話したり聞いてもらったりすることで、子育ての孤立感を解消し保護者のなかまづくりにつながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・就労家庭からより多くの保護者に参加いただくためには、開催日時に工夫が必要である。保育参観などと同じ日に開催するよう日時の工夫をしているが、仕事で参加できない保護者がいたり、参観だけ参加する保護者がいたりするのが現状である。また子どもの姿から参加してほしいと願う保護者は特に関心が薄く感じる。内容などさらに工夫が必要である。 ・コロナ禍で例年通りの開催は難しい。感染防止対策を重要視した集会のもち方を工夫していかなければならない。 | 幼保運営課 |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|-------------------------------|----------------------------|---|---|-------|
| (2) ライフステージ、現代的課題に対応した学習機会の充実 | ④各ライフステージにおける学習支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・「郷土にまつわる歴史講座」や「おはなし会」の開催や、健康コーナーやビジネス支援コーナー等の設置に加え、現在の課題に関連した企画展示を行うなど、図書館の利用促進を図っている。 ・ブックスタート事業、セカンドブック事業、読書通帳の配布、ティーンズコーナーの設置など、子どもの読書活動推進に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・集客する事業はコロナ禍のため、急ぎよ中止や延期にするなどスムーズに開催できていない。 ・図書館の利用促進につながる情報発信の方法を検討していきたい。 | 図書館 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から高齢期まで、各ライフステージにおいて必要な学習活動を、市だけでなく社会教育団体や民間企業のノウハウ等も活用し、様々な取組を実施した。青少年期には、子ども会活動において自律性や社会性を身につける体験活動や地域活動への参加促進を図るとともに、親善都市との交流等を通じて将来のリーダーの育成に努めた。また、子育て世代に向けては、学校等における家庭教育講座や子育て学習会開催における講師紹介等の支援、成人・高齢者世代については、市民講座の開催など生涯学習機会の創出に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動を積極的に志す参加者の固定化をはじめ、仕事や家事など、多忙な日常生活により学習できない環境の人も多いため、あらゆる立場や環境に応じたオンライン等を活用した学習機会の提供が課題である。また、身近な地域課題の解決に資する学習機会の提供や、社会変化に対応していく上で、適宜、市民学級など各種講座の内容を見直すことが必要であり、これらに対応した人材の確保が課題である。 | 生涯学習課 |
| | ⑤多様な立場の学習支援 (障がい者・外国人等) | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を母国語としない人を対象とした、日本語水曜教室(有資格者によるクラス形式)、にほん語日曜教室(ボランティアによるグループ形式)を開催。 ・地域住民との交流を目的に、異文化交流講座、日本語教室修了パーティー、国際交流クッキング、写真パネル展、お城まつり総踊り参加等、外国人が暮らしやすい地域づくりのための施策を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室については、新型コロナウイルスの影響を受け、休講を余儀なくされることもあり、今後は、休講時の対応や日本語支援のあり方を検討する必要がある。 ・コロナウイルスの影響により、地域との交流を目的とした異文化理解講座をはじめとする交流、まつり等が中止となった。今後は、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた異文化交流、国際理解等について開催のあり方について検討する必要がある。 | 秘書政策課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29～令和元年度まで障がい者を対象としたスポーツ大会及びスポーツ教室を実施 ・市が対象者へ行ったアンケート調査では、最近3か月以内にスポーツ・文化活動に参加した人は、1割前後にとどまっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が文化芸術活動やスポーツ活動等を楽しむこと、またこれらの学びの機会が得られるよう支援する。 ・参加者を増やすために、文化芸術活動やスポーツ活動への参加の拡大とそのため環境整備が引き続き課題である。 | 福祉課 |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|-------------------------------|-----------------------|--|--|---------|
| (2) ライフステージ、現代的課題に対応した学習機会の充実 | ⑥現代的・地域課題に対応した学習機会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・市政に対する理解を深めていただくために職員が講師となり「まちづくり出前講座」を開催し、多様な世代や立場に応じた学習機会を提供している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会や老人会等、出前講座を有効に活用していただいている現状の中で、派遣職員の専門的知識の向上が求められる。 | 広聴広報課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・企業やコミュニティなど地域の団体が開催する人権研修に、市人権・同和教育指導員を講師として派遣し、それぞれの団体(受講者)に合わせた研修を実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの団体が人権研修を開催するように、市人権・同和教育指導員の派遣についての周知や、人権研修の重要性を認識するための働きかけを推進していく必要がある。 | 人権課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティとの協働により、「男女の視点をもった避難所運営について」や「あらゆる暴力をなくす運動(パープルリボン運動)」など様々なテーマで男女共同参画セミナーを開催。 ・男女共同参画モデル保育所の家庭教育講座で、保護者を対象に男女共同参画講演会を開催。その他、本の読み聞かせに役立てもらうため、絵本の貸し出しを実施。 ・男女共同参画セミナーのテーマのひとつとして「子どもと作ろう!!男性料理教室」を開催。男性の家事・育児等への参画のきっかけづくりに貢献した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・パープルリボンを参加者と一緒に作り、運動の意義を考える工夫を施したが、参加者が固定化されており、男女共同参画やコミュニティ活動に無関心な人に情報が届いていない。また、継続的に実施したいテーマであっても、参加者が固定化されてしまっているため、実施意義のあるテーマでも継続実施が困難となるケースがある。 ・男女共同参画の登録市民団体が自由に利用できる「ゆめの部屋」を令和2年度末に廃止した。後継活動場所として、マルタスを予定しているが、若い年齢層の人たちをどう男女共同参画の啓発活動に巻き込んでいくのか手法などに課題がある。 | 男女共同参画室 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・「環境にやさしい事業所」「環境美化推進員」「コミュニティ会長」等を対象に環境講演会を開催。 ・幼少期から動物愛護の精神を育み、野良犬(猫)の減少につながるよう、放課後留守家庭児童会(青い鳥教室)で動物愛護教室を開催。 ・ふれあい環境探検隊を開催し、子どもから高齢者までを対象に、植物や生物、野鳥、星の観察や調査を行うなど丸亀の自然にふれあい、環境について学習する機会を提供。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策を講じながら、幅広い年齢層を対象に学習機会の充実を図るためには、多様な情報発信の形を検討する必要がある。 ・SDGsの広がりや脱炭素化に向けた取組など、現状に即した新たな内容等を取り入れていく必要がある。 | 生活環境課 |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|----------------------------|-------------------------------|---|--|---------|
| (3) スポーツと文化芸術活動を通じた生涯活動の充実 | ⑦健康づくりへの意識と地域資源を活かした生涯スポーツの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・香川丸亀国際ハーフマラソン大会、親子元氣アップ事業(まるっこフェス)、市民体育祭、中讃陸上競技大会、ふるさと健康ウォーク in 丸亀、チャレンジデー、シニアスポーツ大会等各種大会、プロ野球ウエスタンリーグ等のイベントを開催し、スポーツ交流を通じてまちづくりに努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の希薄化や少子高齢化、市民ニーズの多様化といった社会環境の変化に伴い、参加者が減少傾向にあるイベントも生じてきている。広報活動を強化するだけでなく、市民のニーズを把握し、参加したい、観にいききたいと関心を持ってもらえる企画や機運の醸成が不可欠である。 | スポーツ推進課 |
| | ⑧市民が優れた文化芸術にふれ、自ら活動できる機会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域出前文化教室(コミュニティ)、芸術鑑賞教室(小中学校等)については、令和元年度から綾歌総合文化会館の指定管理業務として委託し、実施を継続しているが、加えて青い鳥教室や児童館など、様々な活動単位へのアウトリーチ活動も行っている。猪熊弦一郎現代美術館においても、指定管理業務として、主に子どもたちに向けワークショップなどを実施し、子育て世代の文化芸術に触れる機会を創出している。主な取組例に留まらないアウトリーチ活動を実施できている。 ・9月から11月の3か月をまるがめ文化芸術祭の期間とし、市内で行われる文化芸術活動を集約し、ガイドブックやホームページなどで広くPRすることで、文化芸術活動の促進や鑑賞、参加しやすい機会づくりに取り組んでいる。 ・若手芸術家支援事業において、市内公共施設で展覧会や演奏会などを開催し、芸術家の活動を支援するとともに、市民への鑑賞機会の提供、若手芸術家によるアウトリーチ活動も実施できている。 ・3年に一度の瀬戸内国際芸術祭では本島を会場とし、本島の歴史、文化を取り入れた作品を展開し、多くの来場者があった。また、島の方々に組織する瀬戸内国際芸術祭本島実行委員会の主体的な取組により、実行委員会独自のイベントなどを実施した。 ・文化芸術推進サポーター養成講座は、新市民会館整備に伴い、市民の主体的な文化芸術活動を支援する担い手を育成することを目的とし、講演会やオンラインによるワークショップを実施した。また、丸亀城、秋寅の館においてサポーター主催によるイベントを開催し、企画、情報発信など実践的な活動を通じたスキルアップにも取り組んでいる。 ・新市民会館の基本姿勢である「社会包摂型劇場」を目指し、文化芸術の様々な手法により、社会課題を解決に導く課題解決型実践事業を実施した。具体的には、高齢者介護の心理的・身体的負担軽減、子育て不安緩和などを目的とした演劇ワークショップを開催した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術に接するきっかけとして、教育委員会とも連携を図りながら、芸術鑑賞教室など子どもが音楽や演劇など文化芸術の鑑賞や学習ができる機会の提供を充実させるとともに、出前教室などのアウトリーチ事業により誰もが参加できるイベントを継続して実施する必要がある。 ・若手芸術家支援事業や HOT サンダルプロジェクトに参加した人たちとのつながりを十分いかせていない。文化芸術を振興する人材の育成や確保の観点からも、学校での芸術鑑賞への出演や地域での芸術鑑賞教室の講師など、継続して市の文化振興に関わってもらう仕組みが必要である。 ・本市における代表的な文化活動団体である文化協会に対しては、育成支援を行っているが所属団体が減少している。文化活動の担い手として、新たな活動団体の加入促進が急務と考えられる。また、文化振興の基盤づくりとして、市民一人ひとりのスキルアップとなる講座を開設するなど人材育成が必要である。 ・文化芸術そのものの振興にとどまらず、その特徴をいかしながら、観光、まちづくり、教育、福祉などに係る社会的課題に対して、他分野と連携を図ることが求められている。 ・旧市民会館が閉館して4年が経過し、市民の文化芸術活動の機会が制限された状態が続いている。新市民会館の早期整備とともに、「みんなの劇場」としての基本理念を実現するための仕組みづくりや人材育成が急務である。 | 文化課 |

基本目標2 学びでつながり、学びを活かすまちづくりの推進

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|---------------------------|----------------------------------|---|--|-------|
| (4) 学びを通じた人や地域等のネットワークづくり | ⑨学びを通じた仲間づくりや組織・団体等をつなぐネットワークの形成 | ・コミュニティセンター整備の際に、気軽に立ち寄り交流できるスペースを設置。 | ・コミュニティ活動に無関心な人へ情報が届きにくい。 | 生活環境課 |
| | | ・生涯学習活動の拠点である生涯学習センターや地域の拠点施設であるコミュニティセンターでのイベント開催等を通じて、生涯学習クラブ団体相互の交流や連携を図ることができた。学びの成果を活かす場であるとともに、情報交換・世代間交流の場として、社会教育施設やコミュニティセンターが有効に機能するよう、利用者と学びの機会を提供する団体とを繋いできた。 | ・学びを通じた仲間づくりや、学びの成果を地域貢献活動等で還元する取組については、一定程度図られている状況はあるが、まだまだ十分な状況であるとは言えない。引き続き、学ぶ人同士が交流を深め、共に問題解決に向けた意識を高めていくことが課題であり、「学びの循環」を広げていくために必要なネットワークづくりや、情報提供に取り組んでいく必要がある。 | 生涯学習課 |
| | ⑩コミュニティ内外のネットワークづくりの推進 | ・コミュニティの優れた取組を「まちづくり大賞」として表彰し、コミュニティ・自治会長研修で事例発表を実施するとともに、コミュニティ協議会連合会の会合で各地区の情報行っている。 | ・コミュニティ活動に無関心な人へ情報が届きにくい。 | 生活環境課 |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|------------------------|----------------|---|--|--------|
| (5) 学んだ成果や経験を活かしたまちづくり | ⑪学習成果を活かす機会の充実 | ・包括連携協定を締結している大学等の学生や民間企業の方に、まちづくりの指針である第二次総合計画後期基本計画への改訂に係る審議会などに参加いただき、丸亀のまちづくりについて意見交換を行っている。 | ・一過性のイベントが中心となっている部分があり、継続的な取組に繋げていくことが課題である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、事業が中止になるなど、活動が制限されている。 | 秘書政策課 |
| | | ・包括連携協定を締結している大学等の学生と連携し、商店街や丸亀駅前などの中心市街地活性化に係る事業などに取り組んでいる。 ・県内大学等の学生がボランティアとして参加できる行事を、大学コンソーシアム香川を通じて県内大学等へ情報提供することで、地域で学生が活躍できる場づくりなどの取組を進めている。 ・香川大学の学生が実施している「丸亀市地域活性化・定住促進プロジェクト事業」へ支援を行いながら、若者の発想や行動を地域活性化に取り入れている。 | | |
| | | ・飯山東小川児童センターでは、春の「さくらまつり」時に、東小川公民館を利用する生涯学習クラブの活動発表を行った。また、地域の中学校・高等学校と連携し、夏休みの体験事業等に学生がイベントの企画やボランティアスタッフとして関わった。 ・年に一度開催している「まるがめ子育てフェスタ」にて、子育てに協力的な団体・企業の紹介や、子育て情報の提供を行なっている。 ・子育て支援講座で作成した作品の展示会を実施し、地域とのつながりを感じたり、さらに活動への意欲を高揚させたりできるような機会を提供している。 | ・コミュニティや地元の自治会・中学・高校等との連携により、地域資源の再発見ができた。 ・参加者・協賛団体が年々増加していることから、各団体の特色を活かしたイベント内容の検討や創意工夫が必要であり、かつ、団体同士の連携をより強め、発展させていく必要がある。 | 子育て支援課 |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|--------------------------|---|--|---|-------|
| (5) 学んだ成果や経験を活かしたまちづくり | ⑪学習成果を活かす機会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域から災害等看護師ボランティアを募り、研修を行っている。 ・地域でロコモティブシンドロームの普及啓発のために、ロコモキーパーの養成講座を開催している。 ・母子保健推進員、愛育班、食生活改善推進員等の研修会を開催している。 ・自殺予防対策として、周囲の悩んでいる人のサインに気づき、支える人を増やすための講座を開催している。 | 受講者は地域で活動している人が多いが、地域での活動や対象者となる団体の人数自体が減少しており、参加者の減少がみられる。 | 健康課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・園のまつり、PTA連絡協議会や保育所保護者会連合会でスポーツ活動などの成果発表や、社会見学体験交流を実施している。 ・地域のコミュニティまつりで絵画などの作品を展示したり、演奏や踊りなどの表現活動を披露したりしている。 | ・ソフトボール、ソフトバレーボール、社会見学は参加者が保護者の一部となっているため、より多くの参加を募ることや、コロナ禍における開催実現方法が課題である。 | 幼保運営課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティまつりや地域行事などに参加して、部活動の成果を発表したり、児童・生徒の作品を出品・展示したりするなど連携を進めている。 | ・コロナの影響で、多くのイベントが中止となり、成果を発表する機会がなかった。また、中学校においては限られた部活動のみの参加となっており、発表以外の形で関わる機会を考えていく必要がある。 | 学校教育課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・市民交流活動センターを活用し、郷土の魅力や歴史に関連した「郷土にまつわる歴史講座」をボランティア団体と連携しながら開催している。 | ・参加者が固定化しているため、より広く多くの方が興味を持つようなテーマにするなど検討していきたい。 | 図書館 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から、まちづくりや生涯学習活動における企画、運営において指導的な立場を担う「生涯学習推進員」を各コミュニティに配置し、地域課題やまちづくりについて学ぶ「地域いきいき講座」を各コミュニティセンターで開催している。 | ・学んだ知識を目に見える形で直ちに地域課題の解決に繋げることができる機会は、まだ十分ではないことが課題である。学習成果を活かす機会の充実と、地域住民の更なる学習意欲の高揚を図っていく必要がある。 | 生涯学習課 |
| ⑫コミュニティを拠点としたまちづくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり補助金、コミュニティ運営助成金などによるまちづくりへの財政支援の実施。 ・コミュニティ協議会連合会の活動を通じたコミュニティ間の情報交換の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動があまり進んでいないコミュニティへの支援が課題となっている。 ・まちづくりを担う人材の高齢化が進んでいる。 | 生活環境課 | |
| ⑬学校・地域における活動を支える人材の発掘・育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民のコミュニティへの関心を高めるとともに、地域人材の新たな発掘に繋がるなど、学び得た知識・技能を地域課題の解決に繋げていく仕組みが構築できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代に関心を持って参画してもらうための方法を検討、実施していく必要がある。 | 生涯学習課 | |

基本目標3 家庭・地域・学校における連携の推進

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|-----------------------|-------------------------|---|---|---------------|
| (6) 家庭・地域・学校における連携の推進 | ⑭ 地域と学校が相互に連携・協働する取組の推進 | <p>・園の経営などに対するご意見を地域の方にいただく学校評議員会を年に数回行っている。地域に開かれた園づくりとするための貴重なご意見をいただいたり、地域の人材を紹介してもらったりしている。令和4年度からは、「学校運営協議会」を幼稚園・こども園に設置し、コミュニティスクールを実施する予定である。</p> | <p>・コロナ禍で地域の方に園に来ていただく機会が減っている。</p> | <p>幼保運営課</p> |
| | | <p>・中学校群ごとに小中・地域連携教育連携協議会を年2回実施し、オブザーバーとして、学校教育課と生涯学習課から1名以上が参加している。また丸亀市小中・地域連携推進協議会を年2回実施して市内の取組を報告し合い、情報を共有しながら、各学校群の取組に活かせるようにしている。</p> | <p>・小学校においては、授業や学校行事において各コミュニティとの連携活動の機会が確保しやすいが、中学校における連携活動の機会が小学校に比べて確保しにくい。花の植え替えやマスク作成のための教材づくり、運動会で使用する玉入れの玉の修繕などで連携できた中学校もあり、間接的に子どもと関わる機会を考えて実践していく必要がある。</p> | <p>学校教育課</p> |
| | | <p>・過去に組織された学校支援ボランティアによる学校支援の取組のほか、地域と学校の連携。調整役を担う社会教育法に基づく「地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)」を各小学校区(休校中の小学校は除く)に令和3年度から教育委員会の委嘱により配置し、地区コミュニティと小学校が連携・協働して行っていた双方向の活動を、社会教育法に基づく「地域学校協働活動」として明確に位置付け、地域の人材が関わり、地域の子どもの学びや成長を支援する取組の推進を図った。</p> | <p>・様々な経験や技能等を持った地域人材との関わりにより行われている「地域学校協働活動」については、それぞれの組織において活動の中心を担う人材の高齢化や固定化が活動を継続していく上での課題であり、新たな人材の発掘に向けた研修や地域活動への参加を促す啓発等に関して、地区コミュニティと連携した取組が必要である。「地域コーディネーター養成塾」など、地域人材の発掘・育成の事業を企画する際に、それらを踏まえて内容を検討する必要がある。</p> | <p>生涯学習課</p> |
| ⑮ 地域における家庭教育支援の充実 | | <p>・「えいごであそぼ」「親子運動教室」「音楽あそび」など、生涯学習センターと丸亀市児童館が連携した親子参加型の講座を開催するとともに、子育て家庭同士の交流の場を提供。</p> <p>・丸亀市児童館や東小川児童センターの事業の中に、日本の文化や良質なクラシック・演劇などに触れる機会を組み込むことで、親子の学びの場を提供。</p> <p>・子育てひろばにおいて、助産師や保育士など、子育ての専門家に相談することのできる機会を毎月設けている。また、子育て中の親子の交流の場として毎月親子イベントを開催。</p> <p>・子育て支援団体と学校が協働し、中学生と赤ちゃんがふれあえる事業を実施。中学生と赤ちゃんの保護者との関わりで相互に刺激を受け、地域ぐるみでの教育につなげる。</p> | <p>・参加者が固定化するため、周知方法に工夫が必要である。</p> <p>・「市民が来るのを待つ」受動的な子育てひろばではなく、真にサービスが必要とする引きこもりがちな保護者がどのような支援を必要としていて、またそれに対してどのような支援を行っていくか等、今後の子育てひろば事業のあり方について検討が必要である。</p> | <p>子育て支援課</p> |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|-----------------------|------------------|--|---|-------|
| (6) 家庭・地域・学校における連携の推進 | ⑮地域における家庭教育支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプランの市民会議のメンバーや地域コミュニティの団体(自治会、老人会、PTAなど)と協力しながら、地域の課題に則した講演会や行事を開催している。 ・母子保健推進員、愛育班、主任児童委員等地域の協力を得て見守り・声かけを行っている。 ・コミュニティセンター又は綾歌・飯山保健センターにてウェルカム広場等の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世話役の固定化、若い世代が少ないなどの人材の不足。 | 健康課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援センターにおいて、開放日には施設内に親子の遊び環境を整え、ふれあいの場をつくったり子育ての悩み相談に応じたりしている。活動日には、イベントや講師を招いて講演を行い、地域の子育て家庭の育児力向上につなげている。 ・PTA 研修会を本部役員が中心となり、救命救急講習会、ワークショップでものづくりやエアロビを開催している。保護者同士のつながりが深まったり広がったりしている。また、子育てのストレス解消の場となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・需要が多いが保育士不足により対応人数に限りがある。 ・コロナ禍において外部の方々の健康確認や感染対策に非常に気を遣う。センターの開放が地域の感染拡大状況に左右される。 ・母親就労家庭が多いこども園では、企画が難しい。 | 幼保運営課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・丸亀市PTA連絡協議会と連携し、夏休みに「安全スマホ宣言」に関する作品コンクールを実施している。 ・また毎年2月には、スマホ利用に関する研修会を実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭におけるゲームやスマホ利用については、子どもだけでなく、保護者への啓発も必要であるため、今後も継続して取り組む必要がある。 | 学校教育課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業、セカンドブック事業の実施。 ・幼稚園、保育所、こども園等への移動図書館車巡回。 ・学校図書館の支援として図書館資料の配送。 ・学生を含むボランティアの受け入れ。 ・ボランティア団体との連携による読み聞かせ会の開催。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で制限があり、実施の難しい事業が多くある。可能な範囲で継続できるよう検討していきたい。 | 図書館 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育に関する学習機会として、学校や保育所等の保護者を対象とした「家庭教育講座」、「子育て学習会」のほか、PTAと連携した「家庭教育セミナー」を開催し、子どもの成長過程に見合った学習機会や情報提供の充実を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で、学習成果を発揮することに戸惑いを持つ人がいる中で、地域の子どものためなら役立ててみようとする人は少なくないため、社会教育や家庭・地域・学校が連携・協働し、子どもたちの育ちや学びを地域ぐるみで支えていく体制づくりにおいて、そのような方たちの参画を促していく取組が課題である。 | 生涯学習課 |
| | ⑯社会教育関係団体等への育成支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度より、子ども会、ボーイ・ガールスカウト、スポーツ少年団で構成された丸亀市少年団体連絡協議会が主催で、各団体の指導者向けの研修会を実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した研修の提案など、より多くの団体関係者が参加しやすい事業の実施を促していくことが求められる。 | 生涯学習課 |

| | 施策 | 成果(事業) | 課題 | 関係各課 |
|-------------------------|---------------------|---|---|-------|
| (7) 学校や子どもを核としたまちづくりの推進 | ⑰地域で取り組む子どもの学習支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方がレンゲ畑やコスモス畑、ゆる抜き、オリーブ摘み、芋ほりなどに招待してくれ、地域のことを知る機会、地域の方と触れ合う機会となっている。子どもたちは地域の自然を豊かに感じ、温かさを感じている。 ・うどん作りや餅つき大会などを祖父母や地域の方と共に行っている。また、昔遊びを教えてくれたり、ひなまつりに招待してくれ話をしてくれたり、お茶会に来て作法を教えてもらったりするなど、子どもたちの体験を広げ、人と人との関わりを豊かにしてくれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域の方々との交流の場をもつことが難しい。 ・事業内容や支援については、地域差がある。 | 幼保運営課 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室では、地域の方々やPTA関係者にボランティアとして協力いただき、学校と連携し、支援活動の推進を実施していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子供教室の企画・運営を担う地域の中心的人材を発掘し、幅広い地域の担い手に協力してもらえるように事業の周知を行う。また、地域の垣根を越えて情報交換し、個々の教室の運営に還元できるような環境づくりを行う。 | 教)総務課 |
| | ⑱地域社会における世代間交流の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の生活科における野菜作りや社会科における町探検を地域の方々やPTA関係者にボランティアとして協力いただき、学校の要望に応じた支援活動の推進に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材による学校支援には地域によって実情が異なる。今後は地域コーディネーターを中心として、学校現場と学校支援ボランティアの調整役としての活躍を期待しているが、地域人材の高齢化と新型コロナの影響が重なり、多くの交流活動に制限がある。 | 学校教育課 |

計 画 策 定 の 経 緯

| 日 程 | 計画策定にかかる会議等 | 備 考 |
|-----------|---|--|
| 【令和3年度】 | | |
| 令和3年4月23日 | 特別出席者（一般公募）選考会 | 特別出席者（一般公募）2名の選考 |
| 5月10日 | 第1回社会教育委員の会 | 策定の進め方とスケジュールについて |
| 5月24日 | 庁議 | 策定の進め方とスケジュールについて |
| 7月7日 | 第2回社会教育委員の会 | 第3次計画の総括 市民アンケート（案）について |
| 5月～8月 | 市民アンケート調査(3,000人) <生涯学習推進計画の実施状況調査> ・第3・4次計画策定従事者（社会教育委員及び特別出席者） ・コミュニティ、社会教育施設 ・庁内関係各課 | 6月22日～7月16日 7月9日～8月6日 5月14日～6月11日 5月12日～5月24日 |
| 9月28日 | 第3回社会教育委員の会 | 市民アンケート結果について 計画骨子（案）の協議 |
| 10月26日 | 第4回社会教育委員の会 | 計画骨子（案）の協議 |
| 11月24日 | 政策会議 | 素案の協議 |
| 11月26日 | 第5回社会教育委員の会 | 素案の協議 |
| 12月2日 | 市議会（都市環境委員会協議会） | 素案の説明 |
| 12月23日 | 第6回社会教育委員の会 | 素案の協議 パブリックコメントの実施について |
| 12月27日 | 教育委員会 | 素案の提出及び説明 |
| 令和4年1月5日 | 庁議 | 計画案の説明 |
| 1月～2月 | パブリックコメント | 1月14日から2月15日 |
| 2月21日 | 第8回社会教育委員の会 | パブリックコメントの結果について 最終案の確認 |
| 2月24日 | 庁議 | パブリックコメントの結果について 最終案の確認 |
| 3月28日 | 教育委員会 | 最終案の提出・承認 |

* 第7回社会教育委員の会は、本計画以外の内容を審議

第4次計画策定にかかる社会教育委員及び特別出席者

| | 氏名 | 備考 |
|--------|--------|--|
| 社会教育委員 | 進 和彦 | (学識経験者) 飯山南コミュニティ会長 |
| | 高橋 勝子 | (家庭教育の向上に資する活動を行う者) 認定 NPO 法人さぬきっずコムシアター理事長 |
| | 久米井 直人 | (社会教育の関係者) 子ども会育成連絡協議会副会長 |
| | 十河 靖典 | (社会教育の関係者) PTA 連絡協議会会長 |
| | 宮武 恵美子 | (社会教育の関係者) 婦人団体連絡協議会会計 |
| | 大西 賢志 | (学校教育の関係者) 綾歌中学校校長 |
| | 大村 隆史 | (学識経験者) 香川大学地域連携・生涯学習センター講師 |
| | 藤田 裕子 | (家庭教育の向上に資する活動を行う者) 元幼保運営課指導主事 |
| | 砂本 健 | (学識経験者) 城北コミュニティ会長 |
| | 松永 美恵子 | (学識経験者) 香川短期大学教授 |
| 特別出席者 | 原田 伸二 | (一般公募による者) |
| | 梶谷 孝啓 | (一般公募による者) |
| | 山下 弓子 | 丸亀中央生涯学習クラブ会計 |
| | 眞鍋 ひとみ | 城南小学校区地域コーディネーター |
| | 戸祭 直己 | (社会教育施設の関係者) 丸亀市生涯学習センター所長 |

丸亀市生涯学習推進計画の見直しにおける 社会教育委員の会特別出席者に関する要項

(趣 旨)

丸亀市社会教育委員の会に関する規則第7条に基づき、丸亀市生涯学習推進計画(以下「計画」という。)の見直しにあたり、社会教育委員の会議に特別に出席し、意見等を述べ、社会教育委員とともに計画の策定に携わる者(以下「特別出席者」という。)について定める。

(任 命)

特別出席者は、次に掲げる者から5名以内で、社会教育委員の会 会長が任命する。

- (1) 一般公募による者(2名以下)
- (2) 生涯学習関連事業に関係する者(生涯学習クラブ、地域コーディネーターなど)
(2名以下)
- (3) 社会教育施設の関係者(1名)

(会議への出席)

特別出席者は、計画の見直しにあたり、会長の求めに応じて社会教育委員の会に出席する。

(その他)

ここに定めるもののほか必要な事項は、会長が会議に諮って決定する。

附 則

この要項は、令和3年4月1日から適用し、計画の策定をもって廃止する。

※参考

【丸亀市社会教育委員の会に関する規則】

(第7条) この規則に定めるもののほか必要な事項は、会長が会議に諮って決定する。

令和4年3月

丸亀市市民生活部生涯学習課

〒763-8501 香川県丸亀市大手町二丁目4番21号

TEL 0877-35-7628 ・ FAX 0877-25-2409

ホームページ <https://www.city.marugame.lg.jp/>

Eメール shogai-k@city.marugame.lg.jp